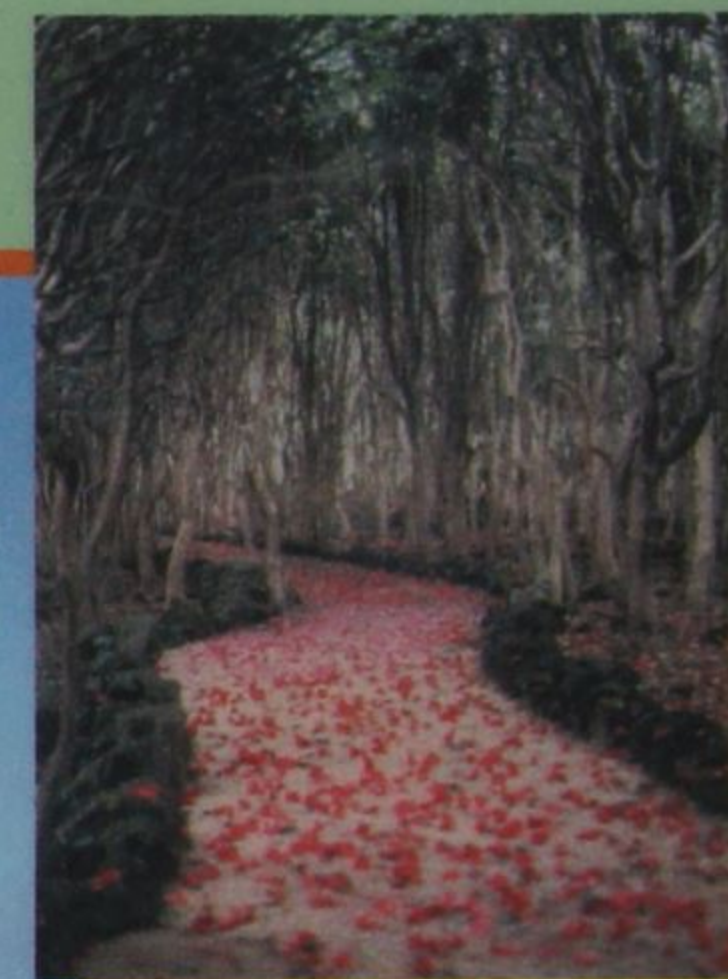


中学校郷土読本

郷土 萩



萩市立図書館



萩市教育委員会

「郷土 萩」を活用するみなさんへ

萩市教育委員会教育長

萩の自然はたいへん美しく、緑鮮やかな指月山から続く白砂青松の菊ヶ浜や、大小の島々を浮かべ青く広がる日本海は、訪れる人々に感動を与えるだけでなく、萩に暮らす人々の生活を温かく見守ってきました。また、たくさんの明治維新の立役者を排出した松下村塾へは、全国から多くの人々が訪れ、時代を経ても変わらぬ吉田松陰の魅力や人間教育の有様に思いを巡らせています。このように、豊かな自然、価値ある歴史と文化に育まれてきたのが、私たちのふるさと「萩」なのです。

この資料集は、みなさんが、このような萩の歴史や文化などについて学習する際に、すぐ手にして活用できるようにと願って、市内の社会科の先生方が中心となってまとめたものです。今回は、「社会科」だけでなく「総合的な学習の時間」でも活用できるように、全体の構成や掲載資料を見直し、「郷土読本」として再構成しました。

学習を進める際は、わたしたちの郷土について、素朴な気づきや疑問を大事にし、課題意識を明確にもってください。そして、根気よく綿密に調べ、納得する結論を見出すことができた喜び、満足感を味わい、ふるさと「萩」のすばらしさを実感してください。この郷土読本「郷土 萩」が、みなさん一人一人に親しまれ、萩を知る手軽な資料の一つとして活用されることを願っています。

さらに、萩についてより広くより深く知るのはもちろんのこと、その調べ方をこれから出会う様々な問題の解決にしっかり活用してほしいと願っています。

萩市の将来を担うみなさんが、このような学習を通して、ふるさと「萩」の自然、歴史、文化のすばらしさを見直し、誇りに思い、大事に守っていかうという気持ちを抱いてくれることを願ってやみません。

目 次

第1部 萩市のあゆみ（歴史編）

郷土歴史年表	1
1 古代の郷土	
(1) 文化のおこり ー縄文・弥生ー	4
(2) 文化のおこり ー豪族の発生ー	5
(3) 奈良時代の文化 ー仏教文化ー	6
(4) 平安時代の文化 ー萩の仏教ー	7
2 中世の郷土	
(1) 鎌倉時代 ー力強い美術・元寇ー	8
(2) 室町時代	9
(3) 安土・桃山時代	10
3 近世の郷土	
(1) 城下町「萩」	11
(2) 萩城下町絵図	12
(3) 萩開府	13
(4) 参勤交代と萩往還	14
(5) キリシタンの取締り	15
(6) 藩政の確立	16
(7) 藩主の仏教保護 ー毛利氏と仏教ー	17
(8) 藩校	19
(9) 蘭学の影響	21
(10) 町人の台頭	22
(11) 藩政の改革	23
(12) 維新の原動力	24
(13) 吉田松陰略年表	25
(14) 松下村塾と松陰門下生	26
(15) くずれゆく封建制度 ー長州藩の攘夷運動ー	27
(16) 倒幕の動き ー禁門の変・第一次長州戦争ー	28
(17) 四境戦争 ー第二次長州戦争ー	29
(18) 武家政治の終わり ー薩長同盟と戊辰戦争ー	30
4 近現代の郷土	
(1) 維新政府の出発 ー廃藩置県・地租改正ー	31
(2) 士族の没落と授産事業	32
(3) 政界への進出	33
(4) 鉄道の開通	34
(5) 日本の近代化に尽くした人たち	35
5 萩市の文化財	
(1) 萩市の文化財	36
(2) 萩市文化財一覧	37

第2部 萩市のすがた（地理編）

1 自然のようす

- (1) 位置・範囲・面積 43
- (2) 気候 44
- (3) 地形図 1:50,000 45
- (4) 航空写真 萩市三角州 46
- (5) 地形図 1:25,000 47
- (6) 地区別航空写真 48
- (7) 島と山間部のようす 49

2 人口のようす

- (1) 萩市の人口・人口の推移 53
- (2) 産業別人口 54

3 産業や生活のようす

- (1) 農業のようす 55
- (2) 漁業のようす 57
- (3) 商業のようす 59
- (4) 工業のようす 61
- (5) 伝統産業「萩焼」のようす 62
- (6) 観光のようす 64
- (7) 古い町並み保存のようす 66
- (8) 郷土料理 68
- (9) 祭と信仰のようす 69
- (10) 交通のようす 70
- (11) 道の駅のようす 72
- (12) 国際化の動き 73

第3部 これからの萩市

- (1) 萩市の行政のはたらき 74
- (2) 広域行政の取組み 76
- (3) 萩市の将来展望 78

課題学習の取組み方

- (1) 課題学習の取組み方 80
- (2) 調べ学習連絡先一覧 84



菊屋横丁

第1部 萩市のあゆみ（歴史編）

活用にあたって

歴史を学習するということは、単に年号や人物名を覚えるということではありません。「温故知新」ということばがあるように、過去の出来事の中から、先人の苦労や努力の跡を振り返り、その英知を学びとることも大切なことなのです。

私たちの住む「ふるさと萩」は、吉田松陰先生をはじめ多くの先賢を生み出した歴史と伝統にはぐくまれた町です。この「ふるさと萩」を誇りに思い、この町に生活する者として、この町のことを少しでも多く知ってもらいたいものです。

ここにあげた資料は、私たちの郷土に展開された歴史を語る重要な手がかりとなるものです。これらを使って身近な地域の歴史の窓を開いてみましょう。各時代におけるこの町の姿や人々の生活を学習することで、各時代に対するイメージも広がり、当時の日本のようすも見えてくると思います。

郷土歴史年表

世紀	時代	西暦	おもなできごと
BC 100 ～	縄文時代		狩と漁の生活をしていた。 すでに見島に人が住んでいた。
BC3 ～ AD3 4	弥生時代	239	稲作が始まった。金属器が伝わった。むらから小国家が分立するようになった。 大井を中心に弥生文化が栄えた。 邪馬台国王の女王卑弥呼が魏に使いをおくった。
			大和朝廷が国土を統一した。古墳がつくられはじめた。
5			大陸から儒教、漢字、技術が伝わった。大井でも古墳がつくられはじめた。
6	大和時代		大井が阿武地方の中心として栄え、円光寺古墳などがつくられた。 このころ百済から仏教が伝わった。
7		645	古代国家のしくみが整えられた。 大化の改新がはじまった。阿武国と穴戸国が合併し、穴戸（長門国）になった。 唐がさかえた。
8	奈良時代	710	都を平城京に移す。 日本書紀に阿牟（阿武）の記事があらわれた。 このころ大井や上野に大きな寺がつくられた。
		794	都を平安京に移す。
9		894	このころ見島に古墳がつくられた。 藤原氏の勢いがさかんになった。 遣唐使が廃止された。
10	平安時代	927	荘園が各地にひろまり、武士がおこった。 参見（三見）という地名が初めて文献（延喜式）にあらわれた。
		931	椿木（椿）という地名が初めて文献（倭名抄）にあらわれた。
11		1086	このころ南明寺の「木造聖観音立像」「木造千手観音立像」がつくられた。 院政がはじまった。 このころ大井に経塚がつくられはじめた。
12		1102	椿武則という人が大井の光明寺に経筒を埋めた。
		1156	保元の乱がおこった。
		1192	源頼朝が征夷大將軍になり、鎌倉に幕府を開いた。
13	鎌倉時代	1221	承久の乱がおこった。 このころ大照院の「赤童子立像」や志都岐山神社の「光房・延吉」がつくられた。
		1253	川島という地名が初めて古文書に現れた。
		1274	文永の役がおこった。大井にある元の礎石はこのころのもの。
		1281	弘安の役がおこった。
14	室町時代	1333	鎌倉幕府がほろぶ。
		1334	建武の新政がおこなわれた。
		1338	足利尊氏が征夷大將軍になり、京都に幕府をひらいた。
		1358	長門国が大内氏の領地になった。
		1387	永祐という人が見島八幡宮に鰐口を寄進した。

世紀	時代	西暦	おもなできごと
15	室町時代	1467	このころ見島の豪族が朝鮮と交易をしてさかえた。
		1492	応仁の乱がおこった。
		1492	コロンブスがアメリカ大陸に渡った。
16	室町時代	1543	鉄砲が伝わった。
		1550	萩の名が初めて古文書に現れた。(善福寺文書)
		1556	吉見正頼が大井で戦った。
		1557	長門国が毛利元就の領地になった。
	安土桃山時代	1585	指月という地名が初めて現れた。(むつみ村妙性寺の宝篋印塔 ^{ほうきょう})
		1590	豊臣秀吉が全国を統一した。
17	江戸時代	1600	関ヶ原の戦いがおこった。
		1603	徳川家康が江戸に幕府を開いた。
		1604	毛利輝元が萩城築城に着手した。
		1633	常念寺表門が寄進された。
		1656	大照院が創建された。
		1660	毛利綱広が万治制法を制定した。
		1677	萩藩で初めての藩札が発行された。このころ浜崎に御船倉がつくられた。
		1687	新堀川がつくられた。
18	江戸時代	1691	東光寺が建てられた。
		1709	吉田町に御救米倉が建てられた。
		1716	徳川吉宗が享保の改革をはじめた。
		1717	藍場川がつくられた。
		1719	明倫館が創立された。
		1759	栗山孝庵が萩で女性の体を解剖した。(女性解剖としては日本で最初)
19	江戸時代	1789	老中松平定信が寛政の改革をはじめた。
		1810	川上村で一揆がおこり、萩城下にせまった。このころから藩内各地で一揆が続発した。
		1841	天保の改革が始まった。
		1849	新明倫館が建てられた。萩に種痘が移入された。
		1853	ペリーが浦賀に来航した。
		1855	姥倉運河がつくられた。
	江戸時代	1857	吉田松陰が松下村塾で教育をはじめた。
		1858	日米修好通商条約を結んだ。前小畑に反射炉がつくられた。
		1859	安政の大獄がおこった。吉田松陰が処刑された。
		1863	菊ヶ浜土塁(女台場)がつくられた。藩庁が山口県に移転した。
		1864	禁門の変がおこった。第一次長州征伐がおこなわれた。四国連合艦隊が下関を砲撃した。
		1867	大政奉還がおこなわれた。
	明治時代	1868	明治に改元された。越ヶ浜に山口県最初の水道がつくられた。
		1869	版籍奉還がおこなわれた。
		1871	廃藩置県がおこなわれた。周防・長門の両国を合わせて山口県とした。
		1874	萩城が解体された。
		1876	萩の乱がおこった。このころから夏みかんの栽培がひろまった。
		1889	大日本帝国憲法が發布された。萩に町制がしかれた。
		1894	日清戦争が始まった。

世紀	時代	西暦	おもなできごと
20	大正時代	1904	日露戦争が始まった。
		1910	萩に電灯が設置された。
		1912	小郡・萩間にバス路線が開通した。
		1914	第一次世界大戦が始まった。
		1918	米騒動が萩にも波及した。
		1920	萩にコレラが流行した。
	昭和時代	1925	国鉄山陰本線正明市・東萩間が開通した。
		1931	満洲事変がおこった。
		1932	萩に市制がしかれた。
		1937	日中戦争が始まった。
		1939	第二次世界大戦が始まった。
		1941	太平洋戦争が始まった。
		1945	第二次世界大戦・太平洋戦争がおわった。
		1946	日本国憲法が公布された。
		1951	サンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約が結ばれた。
		1955	三見・大井・見島・六島の各村が萩市に合併した。
		1965	日韓基本条約が結ばれた。
		1968	萩市民館が完成した。
			大韓民国 蔚山市と姉妹都市となった。
		1972	中国との国交が正常化する。
		1974	萩市庁舎が完成した。
		1975	下田市と姉妹都市となった。
		1978	日中平和友好条約が結ばれた。
		1979	萩市民体育館が完成した。
21	平成時代		鎌倉市と姉妹都市となった。
		1988	「庭園都市・萩」を宣言した。
		1990	輪島市と姉妹都市になった。
		1992	萩有料道路が開通した。
		1996	松陰大橋が完成した。
			山口県立萩美術館浦上記念館が開館した。
		1997	市内中学校校区が改定された。(旧第一中学校・旧明経中学校・旧指月中学校閉校)
			萩東中学校・萩西中学校が開校した。
		1999	萩国際大学が開学した。
		2000	萩健康維新の里(萩市民病院、萩福祉複合施設かがやき)がオープンした。
		2002	ワールドカップサッカーが日韓共同で開催された。
		2003	新博物館ができ、萩博物館(萩博)と名前が決まる。

1 古代の郷土

縄文時代 (B.C.10000～B.C.300年頃)

弥生時代 (B.C.300～A.D.300年頃)

(1) 文化のおこり ―縄文・弥生―



見島で発見された縄文土器の破片 (萩市郷土博物館蔵)



霧口で発見された弥生土器「壺」
(萩市郷土博物館蔵)



大井で発見された石製品「石斧」
(萩市郷土博物館蔵)

萩では旧石器時代の遺物はまだ確認されていません。縄文時代や弥生時代の遺物や遺跡は、大井を中心に、見島など数カ所で発見されています。

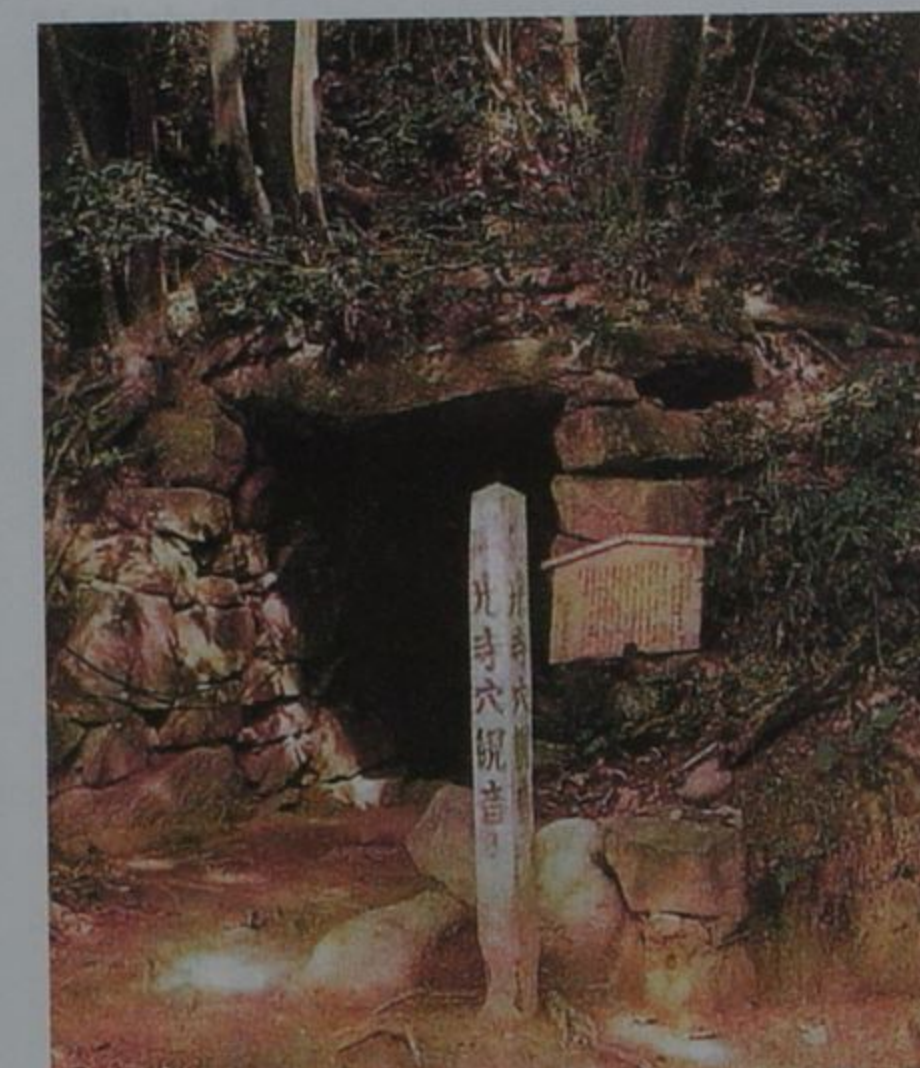
特に大井の宮の馬場遺跡では、弥生土器や石器が数多く発見され、かなりの数の人々が生活し、文化が栄えていたことがわかります。

古墳時代 (300年頃～710年)

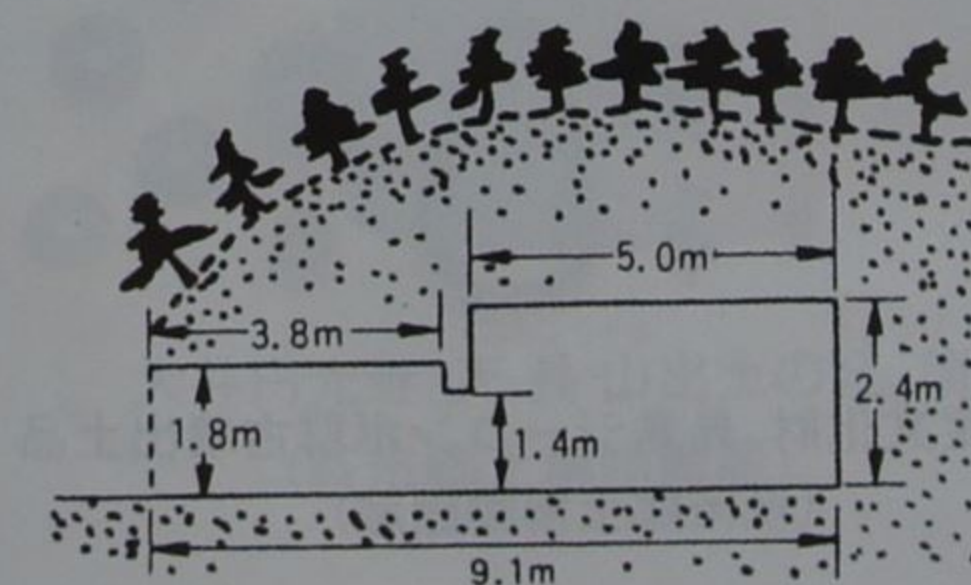
(2) 古墳時代の文化 ―豪族の発生―



県指定文化財 大井円光寺古墳の出土品 (萩市郷土博物館蔵)



県指定史跡 大井円光寺穴観音古墳



断面図

大井では多くの古墳や石棺が発見されています。このことから、弥生時代に続き、大井が文化の中心として栄え、豪族とよばれる有力者が勢力をふるったと考えられています。

特に、円光寺古墳からは、当時の豪族の華やかなくらしをしのばせるものが多く発見されました。



萩の古代遺跡

①遺跡が集中しているのはどこだろうか。
②なぜ、その地域に遺跡が集中したのだろうか。
③三角州(川内)にはなぜ遺跡がないのだろうか。

凡例
— 弥生時代の推定海岸線 (黒線は陸地)
● 土器・石器の出土地
× 古墳・石棺
○ 古代の寺院跡

奈良時代 (710~794年)

(3) 奈良時代の文化 —仏教文化—



大井の大寺の心礎



上野光安寺跡から発見された軒丸瓦 (萩市郷土博物館蔵)

聖徳太子の時代以降、国の中央では仏教が栄え、奈良時代になるとさらに地方へと広がりました。大井川下流に残る大寺跡、阿武川下流の上野光安寺遺跡などの寺院跡は、昔、萩地方で仏教文化が繁栄していたことをしのばせています。

上の写真の石は、大井の大寺の塔の心礎（建物の中心となる柱の下になる石）とよばれる石で、上に立てた柱がずれないように丸いくぼみが掘られています。くぼみの直径が1mもあることから、この石に立てられた柱や、それを中心として建てられた塔がかなりの大きさであったことがわかります。

—見島ジーコンボ古墳群—



国指定史跡 見島ジーコンボ古墳 (見島)



県指定文化財 見島ジーコンボ群古墳出土品 (萩市郷土博物館蔵)

見島で発見されたジーコンボ古墳群には、大きな石や小石を積み上げてつくられた積石塚とよばれる形の古墳が200基ほど集まっています。この古墳は奈良時代後半から平安時代の初めにかけつくられた古墳で、防人の指揮官の墓ではないかと考えられています。古墳内部からは青銅製の金具や玉類など多数の副葬品が発見されていますが、大陸からの直接の影響を受けたと思われるものはあまりありません。

平安時代 (794~1192年)

(4) 平安時代の文化 —萩の仏教—



国指定重要文化財

木造 千手観音立像 (南明寺蔵・椿)
像高 180.5cm



県指定文化財

木造 釈迦如来坐像 (大照院蔵・椿)



大井円光寺 天長山出土の経筒
(萩市郷土博物館蔵)



県指定文化財

木造 不動明王立像 (長寿寺蔵・北古萩)
像高 162cm

平安時代には、中国や朝鮮半島の文化を消化し、日本の風土や生活感情に合った国風文化が発達しました。しかし、藤原氏が政治を独占しはじめた平安時代中期から社会不安がおこったため、死後に極楽浄土に生まれ変わりを願う浄土信仰が広まりました。

萩に残されている彫刻や経筒も浄土へのあこがれを示すものが多く、平安時代の世相をよく反映しているといえます。

2 中世の郷土

鎌倉時代 (1192~1333年)

(1) 鎌倉時代 -力強い美術・元寇-



国指定重要文化財
太刀 銘・延吉 (志都岐山神社蔵・堀内)



国指定重要文化財
太刀 銘・光房 (志都岐山神社蔵・堀内)



国指定重要文化財
木造 赤童子立像
(大照院蔵・椿)
像高 61.2cm



市指定文化財 元寇の碇石
(大井・馬場)



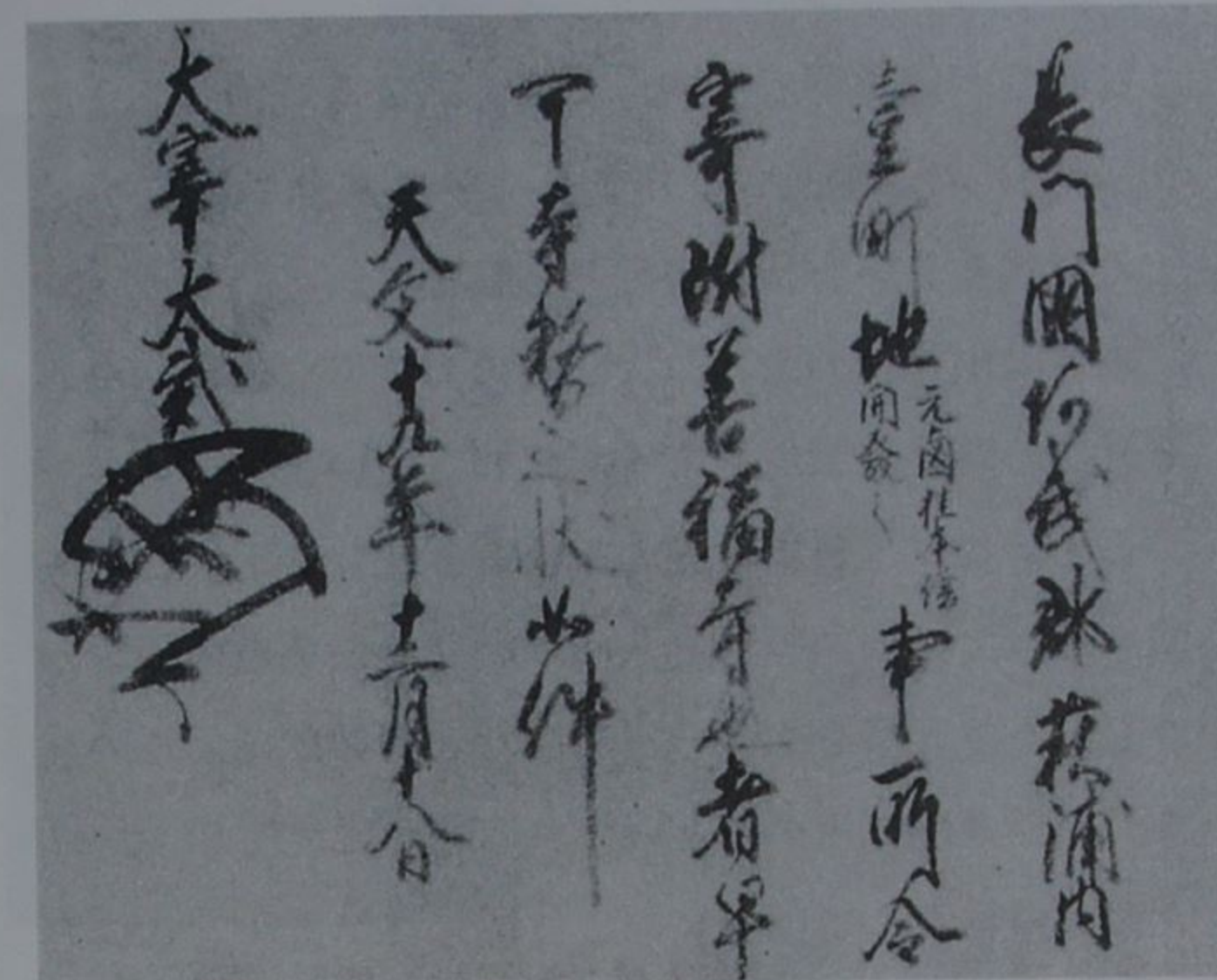
鵜山の石ぐろ (大井)

源頼朝が鎌倉幕府を開き、江戸時代まで約700年続く武士による政治の基礎をつくりました。志都岐山神社の太刀や大照院の赤童子立像には、武士の時代らしい力強さが感じられます。

鎌倉時代に、日本は元から2度の攻撃を受けましたが、国を挙げて立ち向かい、また暴風雨のおかげもあって元軍を退けました。大井には、この元寇の時に元の船が碇に使ったといわれる石が残されています。この石の中程には綱を結ぶためのくぼみがつけてあります。また、同じく大井の鵜山にある「石ぐろ」は、元軍の上陸を防ぐためにつくられた石塁の跡といわれています。この碇石と石ぐろは、元寇の遺物としてはわが国の最東端に位置しています。

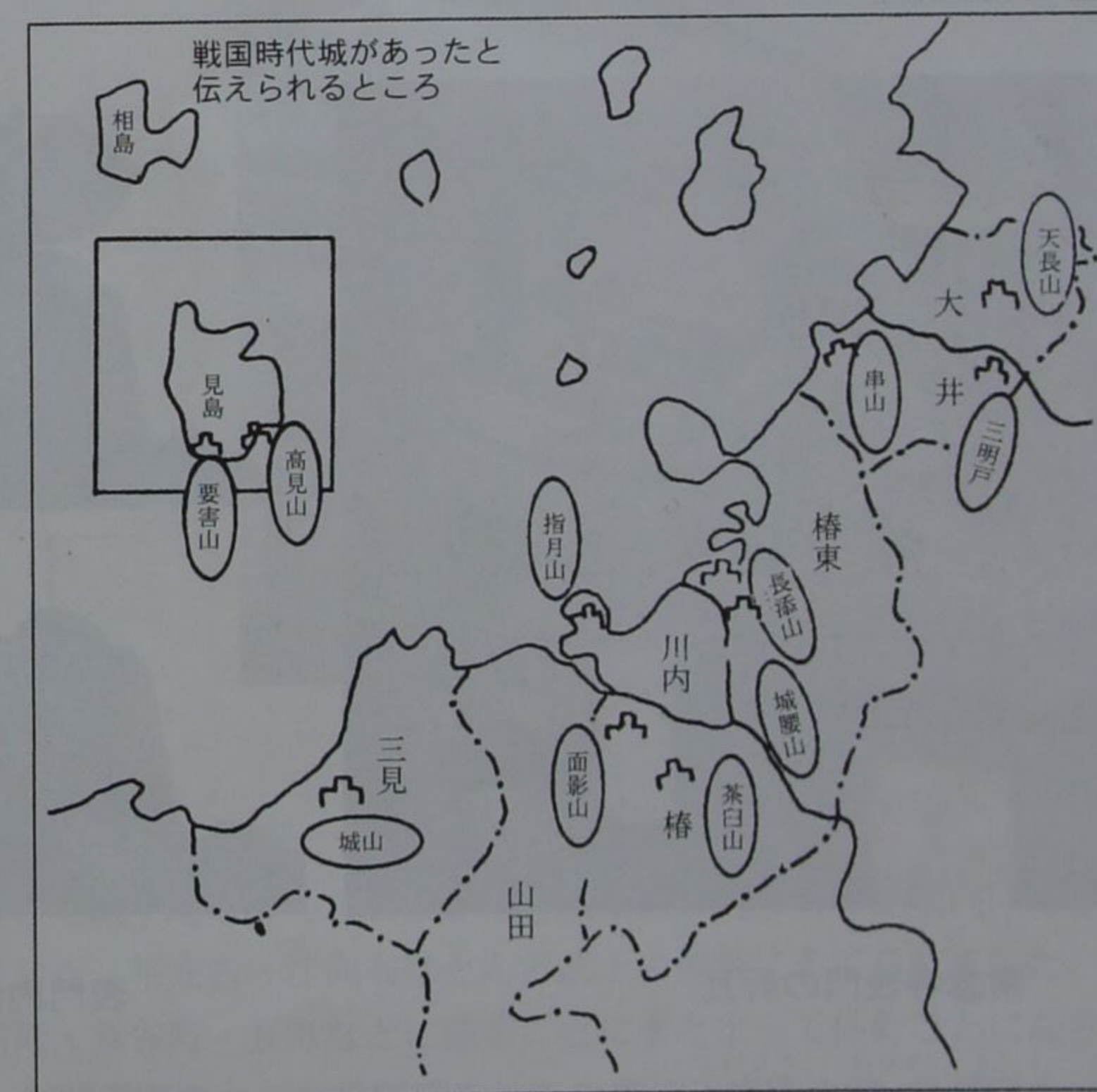
室町時代 (1338~1573年)

(2) 室町時代



善福寺文書 (善福寺蔵・川島)

長門の国阿武郡の萩浦の内
一町の地 (元齒桂本僧が開発した) を
善福寺へ寄付するので早く
寺務をはじめなさい。
天文十九年十二月十八日
大宰大貳 (大内義隆) 書判



室町時代の終わり頃、大内義隆が善福寺に与えた寄進状の中に「萩浦」の名称が見られます。「萩」という地名が現れるのはこの頃からです。当時、地元の武士たちは、自分の領地を守るために各地に小さな城や砦を築いていました。

安土・桃山時代（1573～1603年）

(3) 安土・桃山時代



国指定重要文化財 常念寺表門（下五間町）



常念寺表門の軒瓦



表門内部の彫刻

安土・桃山時代は、活気にあふれた時代でした。このような気風は文化面にも反映されています。常念寺の表門は、豊臣秀吉が京都に築いた聚楽第裏門を毛利輝元がもらい受け、常念寺に寄進したもので、桃山時代の豪華で雄大な気風が感じられます。

常念寺表門の軒瓦には、軒丸瓦の間にある軒平瓦の形と、軒平瓦の中の図案にこの時代の古い様式が見られます。また、表門内部の彫刻に見られる五七の桐は豊臣家の家紋で、このことからこの門が豊臣秀吉から与えられたことがわかります。

3 近世の郷土

江戸時代（1603～1868年）

(1) 城下町「萩」



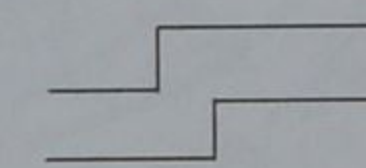
鍵 曲（堀内）



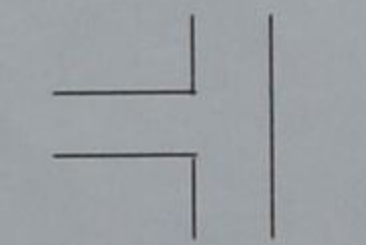
鍵 曲（平安古）

[例]

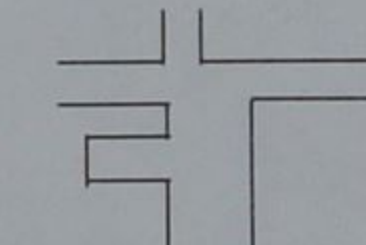
・鍵曲



・丁字路



・袋小路



菊屋家住宅

萩城の築城と並行して城下町もつくられました。萩城三の丸であった堀内は身分の高い武士の屋敷に割りあてられました。平安古・江向もほとんど武士の屋敷にあてられました。一方、町人は浜崎町・細工町・吉田町・熊谷町・瓦町などに職業ごとにまとまって住むことになりました。

戦闘に備えることが城下町の大きな役割であったので、丁字路や鍵曲がつくられました。三角州と外部をつなぐ橋も、はじめは橋本大橋だけでした。平安古や堀内から玉江方面へ行くには渡し船を使っていました。

こうして城下町「萩」は防衛上は強い機能を備えることになりましたが、低湿な三角州であったため、洪水とのたたかいが大きな課題でした。

次頁の萩城下町絵図から、堀、丁字路、鍵曲などをさがして、現在はどのようなになっているか調べてみましょう。

(2) 萩城下町絵図



(3) 萩開府



毛利輝元肖像（萩市郷土博物館蔵）

1600年（慶長5）、天下分けめの関ヶ原の戦いに敗れた毛利輝元は、徳川家康から周防・長門（今の山口県）の2か国、36万石の領地を与えられました。それまで、毛利氏は、安芸・備後（今の広島県）、周防・長門、石見・出雲・隠岐（今の島根県）、それに備中（今の岡山県）の半分と伯耆（今の鳥取県）の半分、合わせて112万石もの領地をもち、広島に城を築いて治めていました。

広島から防長2か国に移ってきた毛利輝元と家臣たちは、領地の中心となる城と城下町をつくる必要がありました。そこで、輝元は防府の桑山、山口の鴻峯、萩の指月山の3つの候補地を選び、江戸幕府に相談して、萩の指月山に城を築くことに決定しました。

城づくりは、1604年（慶長9）から始まり、翌年には、家臣たちに屋敷を割りあて、商人や職人をよんで、町づくりにとりかかりました。現在では、萩の町は、松本川と橋本川にかこまれた三角州の上につくられています。そのころには、このあたりは、大部分が沼で、アシのはえた水たまりでした。また、川上から萩までは竹や木がしげり、堀内から浜崎までは松原でした。町づくりは、竹や木をのけ、松を切って根を掘り起こし、埋め立てをして、道路や屋敷地をつくることから始めなければならなかったのです。それには、多くの人たちの労力を必要としました。



萩城天守閣（明治初め頃の様子）



現在の萩城跡のようす

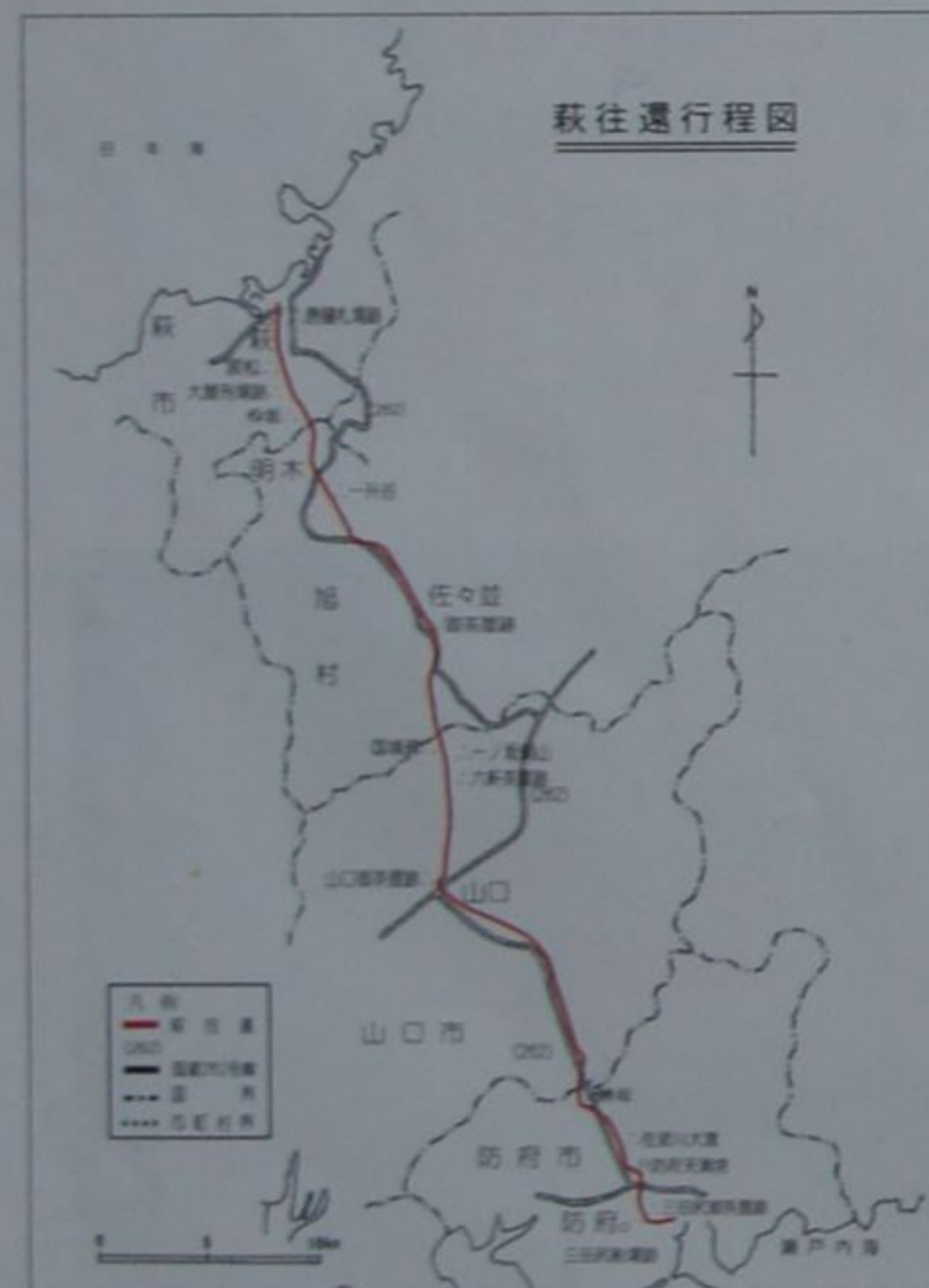
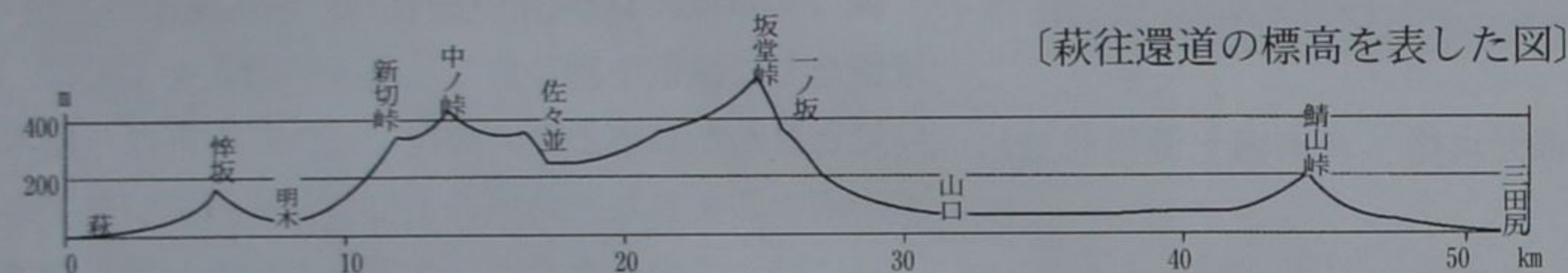
1863年（文久3）4月、藩府を萩から山口に移したことで、萩城はその役目を終えることになりました。ついで1873年（明治6）新政府から萩城の払い下げ令が出て、その翌年、天守閣をはじめ、矢倉や城門などすべての建物が解体されてしまいました。

現在、城跡は指月公園となり、多くの観光客が訪れ、市民が憩う場となっています。

(4) 参勤交代と萩往還



毛利敬親参勤交代錦絵 (萩市郷土博物館蔵)



国指定史跡
歴史の道 萩往還
一里塚 (佐々並)

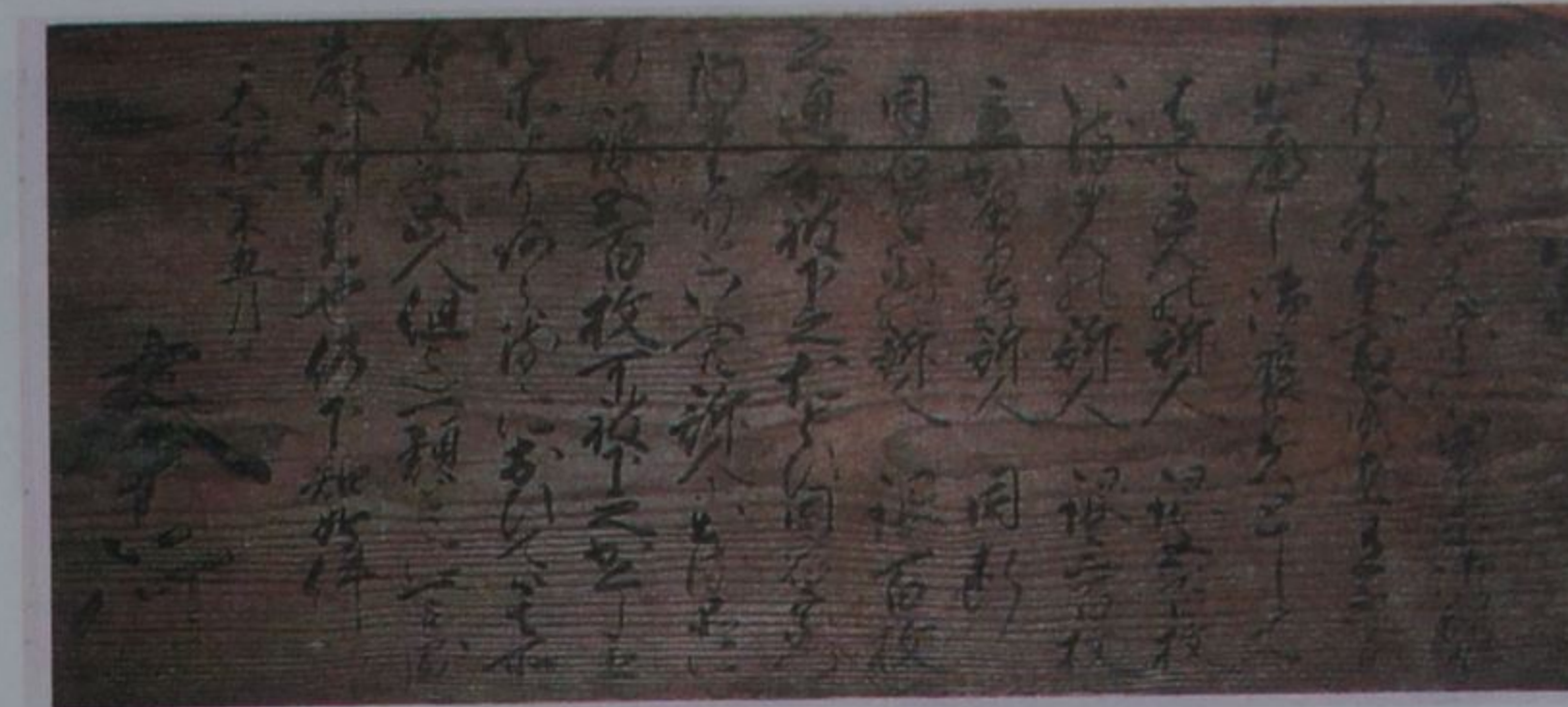


涙松の碑

1635年(寛永12)6月、幕府は諸大名の参勤交代を制度化し大名統制を強めたため、大名の財政は苦しくなりましたが、参勤交代のために開かれたルートは、人や物の流通にたいへん役立ちました。

萩往還は江戸時代に萩城と三田尻の御船倉とを結ぶ毛利氏の参勤交代の道として整備されました。行程約53Kmです。御駕籠建場や御茶屋等の休憩所も設けられ、多くの人々に利用されましたが、中国山脈を最短距離で越えるため、険しい坂や峠が多くなり、苦しい旅であったと思われます。幕末に登場する吉田松陰もこの道を通して江戸へと送られたのです。1859年(安政6年)、江戸へ送られる途中大屋の涙松にさしかかり松陰は、萩の町もこれで見おさめと思い「帰らじと おもひさだめし 旅なれば ひとしほぬるる 涙松かな」という句を詠みました。現在では御駕籠建場の建物も復元されるなど、歴史の道として整備が行われ、当時のようすを今に伝えています。

(5) キリシタンの取締り



キリシタン禁制の札 (萩市郷土博物館蔵)

※ばてれん…キリスト教の宣教師
いるまん…修道士

幾里志たん宗門は累年御制禁
たり自然不審成もの有之ハ
申出へし御褒美として
ばてれんの訴人 銀五百枚
いるまんの訴人 銀三百枚
立かえり者の訴人 同断
同宿並宗門之訴人 銀百枚
右之通可被下之たとい同宿宗門
之内たりといふとも訴人に出る品に
より銀五百枚可被下之かくし置
他所よりあらハるゝにおいてハ某所
之名主五人組迄一類共に何処
厳科者也 仍下知如件
天和二年五月 日
(一八六二)
奉行

室町時代の末頃、ザビエルのキリスト教布教を大内氏が認めたため、山口周辺にはかなりの数のキリスト教信者がいました。

その後、秀吉、家康と続く執ような弾圧の中で多くの信者は、信者であることを止めましたが、一部の人たちは隠れキリシタンとしてひそかに信仰を続けていたようです。

江戸時代になってからも、萩には信者がいたらしく、藩政初期には、しばしばキリスト教信者の処刑が行われました。

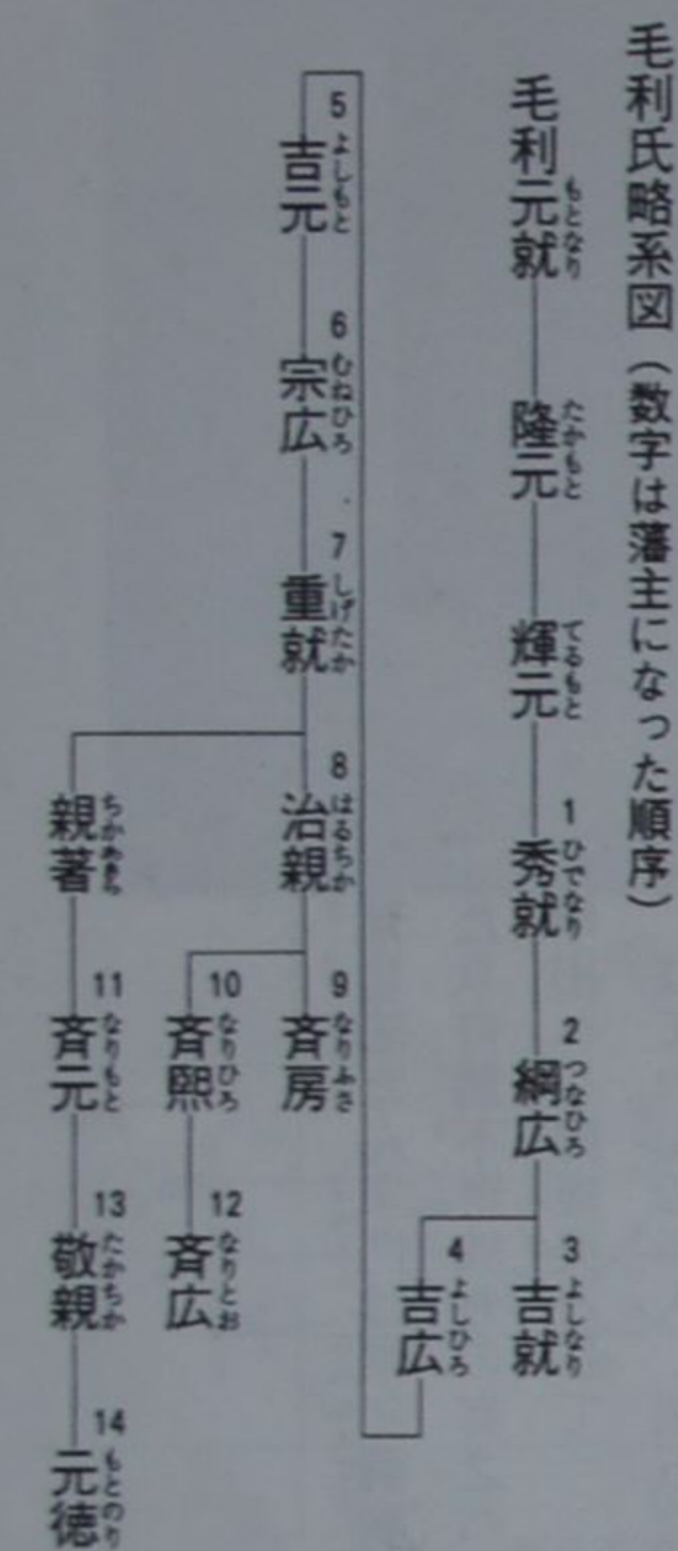


キリスト教受難者の墓 (堀内1区の3)

幕末に行われたキリシタンの処置は、西日本を中心に20藩に分けて行われました。

萩では66人を預かり、大島に収容したそうです。なかでも特別抵抗の強い者5人を羽島に移し、のち全員を鶴江台に移し、ついで堀内の清水屋敷に収容しました。さらに、200人余りの長崎の浦上村の人々が萩に入港し、堀内の深野町(堀内1区の3)の岩国屋敷に入れられました。萩での改宗のための指導は特別厳しく、改宗しない人を勘弁小屋というところに入れて拷問しました。飢えや重労働で改宗する人もいましたが、死者も出るほどでした。

(6) 藩政の確立



万治制法（農民に対する法度の一部）

- 一、百姓はたとえ裕福であつても、美麗をつくした家をつくつてはいけない。
- 一、百姓は直参の諸士に無礼をしてはいけない。少々杖で打たれてもがまんすること。もし相手になつて戦つたら百姓の方を曲事とする。
- 一、百姓が逃げないよう、五人組の者へよく申渡すこと。逃げそうなそぶりが見えたら、ひそかに村役人にとどけ出ること。もしそれでも逃げたら五人組の者が探し出すこと。
- 一、百姓の衣類は分相応にするよう、かたく申渡すこと。身の程を忘れ、衣類その外かわつたかつこうをするのは曲者である。
- 一、村に不良の百姓がいると、その村の百姓みんなが悪くなるので、このような百姓がいたら、ひそかに申出ること。

幕府が1649年（慶安2）、慶安の御触書を出して、その権威のほどを示すと、諸藩もそれにならうようにして、藩政の確立のため法度（法律）を定めました。

萩藩でも1660年（万治3）に「万治制法」を制定しました。その内容はキリシタン禁制のことを始めとして武士や農民、町人の衣・食・住にまで及ぶ細かなものでした。また、五人組制度が整えられ、農民の生活はきびしく統制されることになりました。

藩政時代の防長両国（1850年ごろ）



（注）1石＝米150kg

萩藩	36.9万石
徳山藩	4万石
長府藩	5万石
備前藩	1万石
岩国藩	6万石

防長両国村別地図（山口県文書館所蔵）及び「もりのしげり」より作成

江戸時代の農民の生活に関するできごと

1670年	堀内で編笠の使用を禁ずる
1709年	吉田町に御救米蔵ができる
1732年	いなごの害で29万余石に減収
1733年	大凶荒で餓死者多数
1810年	川上村一揆、萩に迫る
1829年	財政難のため米銀献納の者に苗字帯刀を許す
1832年	萩藩の負債8万貫目に及ぶ
	百姓一揆の指導者6人を大屋で処刑
1836年	大洪水で米価値上がりする
1838年	干ばつで飢饉 捨て子多数

(7) 藩主の仏教保護 —毛利氏と仏教—



国指定重要文化財

大照院 経蔵



国指定重要文化財

大照院 鐘楼門

霊椿山大照院は、初代藩主毛利秀就の菩提のために2代藩主の毛利綱広が建立した臨済宗の寺院ですが、1747年（延享4）の火災で焼失し現在のものは1750年（寛延3）に6代藩主毛利宗広のときに再建されたものです。

墓所には秀就以下、7藩主夫妻とその一族の墓、及び秀就に殉死した人たちの墓があります。



国指定史跡 大照院〈萩藩主毛利家墓所 初代・2・4・6・8・10・12代〉（椿）



国指定重要文化財 東光寺「総門」(萩藩主毛利家墓所 3・5・7・9・11代) (椿東)



国指定重要文化財 東光寺「大雄宝殿」(椿東)

慧極がこの寺を開いてから、大照院とともに毛利氏の菩提寺として藩主の信心を受け、盛期には堂塔20棟、僧侶等80人を数える大寺院となりましたが、現在は総門、三門、大雄宝殿、鐘楼、方丈などが残るだけです。



国指定重要文化財 東光寺「鐘楼」(椿東)

(8) 藩校

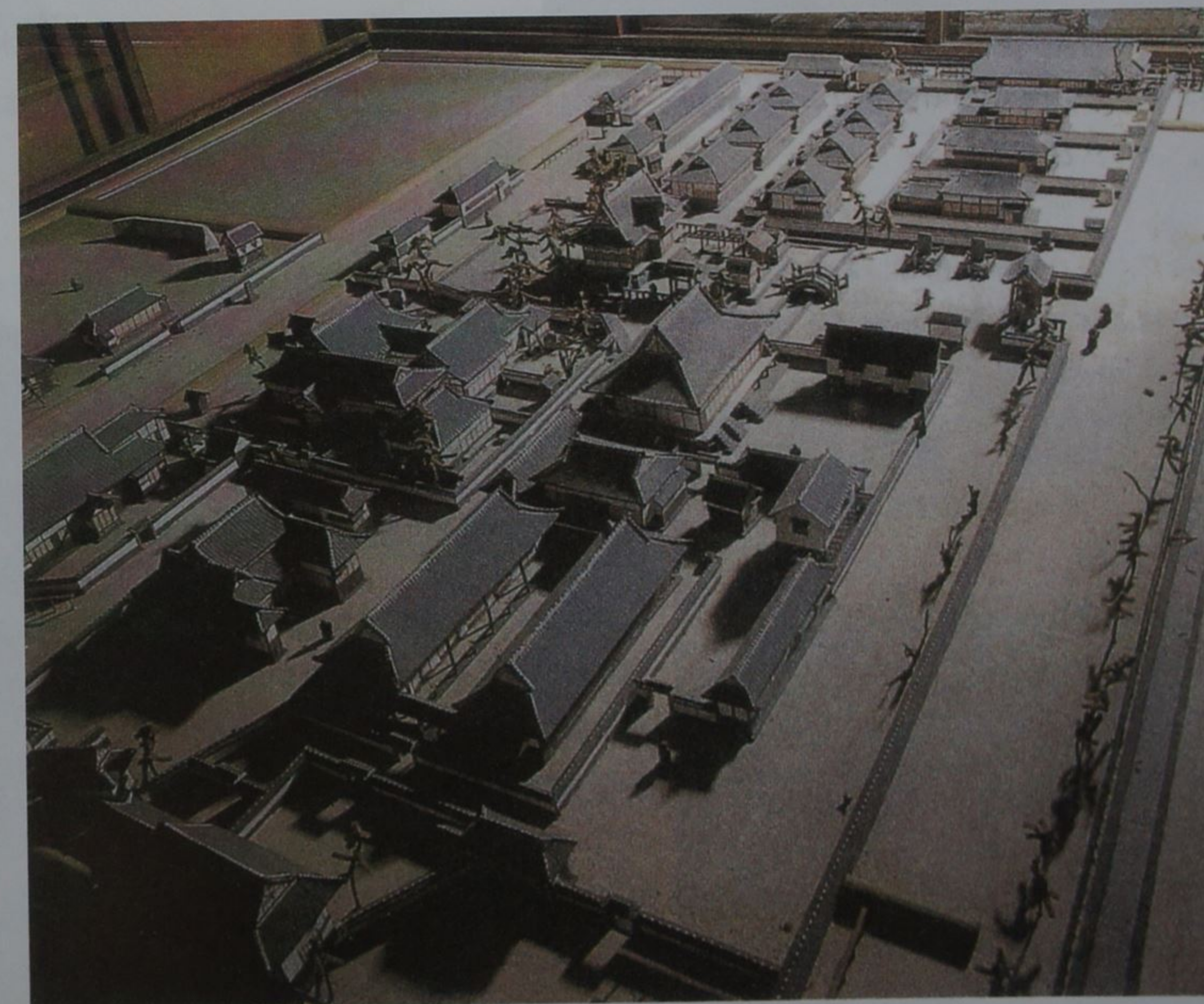
5代将軍徳川綱吉が湯島に聖堂を移し、儒学の振興をはかると、諸藩もこれにならいました。

長州藩では、5代藩主毛利吉元が1719年(享保4)、萩城三の丸に藩校明倫館を創立しました。現在の位置に移ったのは130年後の1849年(嘉永2)のことです。



明倫館の額
南門にかけられていた(明倫小学校蔵)

初代学頭には小倉尚斎が就任し、朱子学を講じました。校訓として「成徳達材」をかかげ、水戸の弘道館、鹿児島島の造士館とならぶ全国有数の規模を誇る藩校でした。毎年、正月12日から始まり、12月10日をもって修了しました。ひと月のうち12日間は「儒学」、6日間は「兵学」の講義日とし、諸武芸は5日間、射術は6日間行われました。講義は毎朝8時から始まって、諸武芸に移り、晴天には馬術も行いました。



明倫館模型(明倫小学校蔵)



明倫館で使用された教科書（萩市郷土博物館蔵）



国指定史跡 水練池（江向）

めうび かん
有備館は三の丸（堀内）にあった旧明倫館の剣・槍術場を移して拡張したもので、木造平屋建の南北に長い建物です。内部は北半分を剣術場、南半分を槍術場とし、藩士の練武だけでなく他国からの修行者の試合場でもありました。土佐の坂本龍馬も1862年（文久2）正月に来萩し、ここで試合をしたといわれています。もともと、有備館という名前は江戸の藩邸にあった文武講習所の名から、大正時代につけられたもので、それまでは、けんそうけい こば「剣槍稽古場」とよばれていました。



国指定史跡 有備館（江向）

（9）蘭学の影響

幕府（全国）		萩藩	
1720年（享保5）	徳川吉宗が漢訳洋書の輸入の禁を緩和	1758年（宝暦8）	藩医栗山孝庵等が萩手洗川刑場ではじめての屍体解剖（日本で2番目）
1774年（安永3）	「解体新書」が刊行	1759年（宝暦9）	栗山孝庵が萩で女体解剖（日本で最初）
1823年（文政6）	シーボルトが長崎来住	1826年（文政9）	シーボルトが下関に来て24日滞在
		1840年（天保11）	萩南苑内に医学所を設け、青木周弼を蘭学掛に任命
		1849年（嘉永2）	青木研蔵が種痘伝習のため長崎に出向 医学所を明倫館内に移し済世堂と改称（後の好生館）
1853年（嘉永6）	ペリーの来航		

江戸時代も中期を過ぎる頃から、しだいに洋学の研究が盛んになり、特に直接生活に関係の深い医学の知識が取り入れられるようになりました。

江戸時代中期の藩医栗山孝庵は、解剖学で近代医学への道を開き、また後期のくりやまこうあんすぐれた蘭学医青木周弼は好生館で洋学の指導にあたり、その業績は藩外まで知られるほどでした。



青木周弼旧宅（南古萩町）



かせがさか
悴坂刑場跡（笠屋）

青木周弼は大島郡和田村（現：東和町）の医師青木玄棟の長男で、まず、江戸に上がって医学を学び、後長崎に行き、緒方洪庵らと蘭学を学びました。まもなく新進蘭方医としての名声が高くなり、1839年（天保10）2月、萩藩に召抱えられました。翌年9月には、藩主敬親は周弼を江向八丁に設けた医学所の蘭学の教授に任じ、毎月1回、医学書の講義を命じました。

(10) 町人の台頭



長州藩札（萩市郷土博物館蔵）



国指定重要文化財 菊屋家住宅（呉服町）

江戸時代には、貨幣経済の浸透と産業の発達によって、商人が台頭し、江戸や上方には全国的に名の知れた豪商（有力商人）も現れるようになりました。萩藩においても商人たちは問屋、金融、仲買、製塩など、あらゆる業種に進出し、藩の御用達となつて藩の財政と密接に連携しながら、その財力をのばしていきました。現在に残る熊谷家、菊屋家の屋敷構えや蔵構えに、豪商とよばれていた当時の繁栄のようすがうかがわれます。



まちのぼりえす びょうぶ 町昇絵図屏風（萩市郷土博物館蔵）



国指定重要文化財 熊谷家住宅（今魚店町）

(11) 藩政の改革

村田清風(1783~1855)



村田清風肖像（村田清風記念館蔵）

天保の改革が始められた頃、長州藩でも藩主敬親の信任を得た、三隅出身の村田清風が藩政の改革に着手しました。

改革の内容は、財政の再建と藩風の刷新であり、財政改革の中身は倭約令の徹底、銀8万5千貫に及ぶ藩債の強引な整理、殖産事業の奨励等でした。

また、1843年(天保14)には羽賀台で大訓練を行うなど、文武の奨励と藩機構の刷新を推進し、その結果長州藩は着々と富国強兵の実をあげ、倒幕から後の新政府樹立へとその活躍の基礎を固めていったのです。

毛利敬親(1819~1871)



敬親は、1819年(文政2)に長州藩11代藩主毛利斉元の第1子として生まれ、19歳で13代藩主となりました。

敬親は、教育に熱心で、有能な人材育成を図りその能力を発揮させました。さらに村田清風を起用し、天保の改革を断行し、藩財政を再建しました。

薩長同盟が実現し、敬親は兵を上京させ戊辰戦争を展開、その結果、明治維新の大業が達成されました。幕末長州藩の独自性は、藩主敬親の負うところが大きく、多難な政局を切り抜け維新達成をなし遂げたその生涯は、「生きた維新史」といえます。

毛利敬親の財政改革

- 一、藩士住民の物心全般の救済をはかり、士気を高揚し誠実勤勉の藩の美風を取り戻すこと
- 一、武備を整え、武芸を奨励し外国勢力の侵犯に対する防備態勢を打ち立てること
- 一、紙蠟米塩の四白政策を基本として殖産興業を大いに奨励すること
- 一、財政の立て直しはすべてに優先する。藩政にへばりつく妖怪を勇断を以て退治すること

村田清風の詩

己亥孟春偶成

国歩艱難策未成 国歩 艱難 策未だ 成らず
忘身聊献野芹誠 身を忘れて 聊か献ず 野芹の誠
才疎万事達人望 才疎にして 万事 人望に 違ひ
徳薄多年負世情 徳薄くして 多年 世情に 負く
皎月門前誰碎石 皎月 門前 誰か石を 砕く
芳梅離外渠剪極 芳梅 離外 渠を 剪る
撫松唯托千秋後 松を撫して 唯托す 千秋の 後
有問清風答我名 清風に 問う有らば 我名を 答えよ

【訳】
財政再建の歩みは困難を極め、その仕組みは計画どおりに進んでいかない。いやしき身ながらわたしは一身一家を忘れてこの仕事に没頭している。しかし、生来、才乏しく、とかく太平の世に慣れた人々の考えに合わず、加えて徳もなく、やることなすこと、多年世の人情にそむく結果になった。しらすらと月の照る門前で、わたしを憎むあまり、溝の石蓋を砕く音がしたり、梅の咲くまがきの外で門柱を切りつける音がすることもある。しかし、わたしの信念をまげるつもりはさらさない。わたしの考えや、やることがその人たちにわかって貰えぬ筈はない。せめて何百年か経った後、それがわかって貰える日が来よう。と、わたしは庭の松を撫でながらわたしの思いを話すのである。

『村田清風入門』平川喜敬 著より

(12) 維新の原動力

高杉晋作(1839~1867)



萩藩大組士高杉小忠太の長男として1839年(天保10)に生まれ、1857年(安政4)松下村塾に通い始めました。

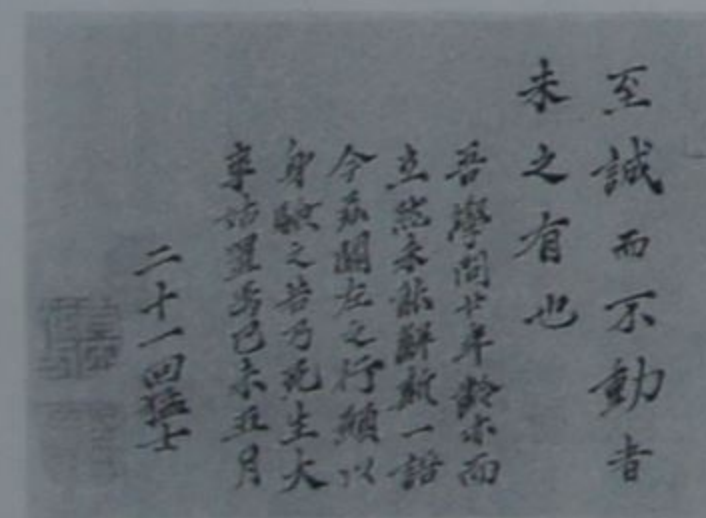
塾生のうち、晋作は久坂玄瑞とともに「松門の双璧」といわれ、その才覚を大いに発揮しました。

高杉晋作の指揮下に結成された奇兵隊は江戸時代の武士のみの軍事編成とは異なり、いかなる階層でも入隊できる新しい発想の軍隊でした。この奇兵隊を中心に諸隊が続々と誕生し、やがてこの軍事組織が旧体制を崩す役割を担うことになったのです。

1864年(元治元)長府功山寺で決起し、長州藩保守派を倒したことが決定的な契機となり、維新は急展開していきます。

まさに、維新の立役者といえますが、その晋作も時代の夜明けを見ずに、1867年四境戦争での小倉口の戦いの時、下関で病死しました。満27歳の若さでした。臨終の際の「おもしろきこともなき世をおもしろく」はいかにも彼の生きざまを表わしているように思われます。

松陰が江戸送りの直前に書いたものですが、意味は「『至誠にして動かさざるものは未だこれあらざるなり』という言葉があるが、自分には二十年間も学問をしてきて、まだこの言葉がほんとうであるかどうか知らない。今度こそは実際にためしてみようと考えている。」ということです。



※注
『至誠而不動者未之有也』
孟子の言葉
『二十一回猛子』
松陰のこと

吉田松陰(1830~1859)



1830年(天保元)、下級武士、杉家の次男に生まれましたが、6歳の時叔父の吉田家を継ぐことになりました。

幼いころから山鹿流の兵学を学び、11歳の時藩主毛利敬親の前で講義を行い、19歳で兵学教授、藩校明倫館で講義を行う秀才でした。

学識を深めた松陰は、1854年(安政元)アメリカのペリーが日米和親条約の締結を目的に再度来航した時、軍艦に乗り込み海外への渡航を弟子の金子重輔とともに企てるのですが失敗し、萩の野山獄に送られます。在獄の後、実父の杉家に幽囚の身となりますが、叔父の開いていた松下村塾を受け継ぎました。

安政6年の大獄で処刑され、満29歳で生涯を終えました。

激動の世に生き、先見性をもった思想と実行力も志なかばで終わりましたが、その志は門人たちの心の中に生き、明治の新しい時代をつくる礎となりました。

下田獄から江戸送りの途中で詠んだ「かくすればかくなるものと知りながら、已むに已まれぬ大和魂」は、松陰の行動に貫かれている心情といえます。

吉田松陰の歌

○ 帰らじと思ひさだめし旅なれば
ひとしほぬる涙松かな

「松陰が江戸送りとなり、萩を離れる時に大屋で詠んだもの」

○ 親思ふところにまざる親ごころ
けふの音すれ何とさくらん

「幕府の取調べで、死罪が決定的となり、詠んだもの」

○ 身ハたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも
留め置かまし大和魂

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

○ 此程に思定めし出立ハ
けふきくこそ嬉しかりける

「絶筆」

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

○ 此程に思定めし出立ハ
けふきくこそ嬉しかりける

「絶筆」

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

○ 此程に思定めし出立ハ
けふきくこそ嬉しかりける

「絶筆」

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

○ 此程に思定めし出立ハ
けふきくこそ嬉しかりける

「絶筆」

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

○ 此程に思定めし出立ハ
けふきくこそ嬉しかりける

「絶筆」

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

○ 此程に思定めし出立ハ
けふきくこそ嬉しかりける

「絶筆」

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

○ 此程に思定めし出立ハ
けふきくこそ嬉しかりける

「絶筆」

「死罪が決定的となり、門人達に宛てて詠んだもの」

(13) 吉田松陰略年譜

1830年(天保元)

萩松本村に生まれる。

1835年(天保6)

吉田家を継ぐ。

1839年(天保10)

初めて藩校明倫館で兵学を講義する。

1840年(天保11)

藩主の前で「武教全書」を講義する。

1850年(嘉永3)

九州へ遊学、平戸・長崎・熊本などを回り見聞を広める。

1851年(嘉永4)

藩主に従い江戸へ出る。12月脱藩して東北へ旅立つ。

1854年(安政元)

金子重輔と下田にて米艦へ乗り込み渡航しようとしたがはたさず失敗し、自首する。後、萩の野山獄に移される。

1855年(安政2)

野山獄中の人々と勉強会を始める。12月実家杉家にお預けとなる。

1856年(安政3)

杉家の幽囚室で「武教全書」の講義を始める。門人が多くなる。

1857年(安政4)

杉家敷地内の小舎を修理して松下村塾をつくる。

1858年(安政5)

老中間部詮勝を諫めようと計画したが失敗する。

狙撃暗殺を計画したとして再び野山獄に入れられる。

1859年(安政6)

江戸へ送られ、伝馬町の獄にて処刑される。(10月27日)

— 吉田松陰遊歴地図 —

(「維新の先達吉田松陰」と「萩市報」より)



(14) 松下村塾と松陰門下生



国指定史跡 松下村塾（椿東）

前原
一誠



土原に生れる。
(1834～1876年) 維新前後
国事に活躍したが、政府
の方針に不満をいだき、
萩の乱の党首におされた。

山県
有朋



川島に生れる。
(1838～1922年) 明治、大
正期の軍人。政治家。二
次にわたり組閣、軍備拡
張につとめた。

高杉
晋作



菊屋横丁に生れる。
(1839～1867年) 奇兵隊を
組織、倒幕の気運を促進
したが、志なかばで病没
した。

久坂
玄瑞



平安古に生れる。
(1840～1864年) 尊攘急進
派の指導者、禁門の変で
重傷を負い、自害した。

伊藤
博文



熊本郡に生れる。
(1841～1909年) 大日本帝
国憲法制定に努力。初代
首相、中国のハルピンで
暗殺された。

野村
靖



土原に生れる。
(1842～1909年) 尊攘倒幕
運動に参加。内相、枢密
顧問官などを歴任した。

品川
弥二郎



松本に生れる。
(1843～1900年) 尊攘倒幕
運動に参加。内相をつと
め、商業組合を設立した。

山田
顕義



中ノ倉に生れる。
(1844～1892年) 戊辰戦争
西南戦争に功多く、伊藤
内閣の法相をつとめた。
日本法律学校（日本大学）
を創立した。



正木 退蔵 (1846～1896)
萩藩士、門下生の一人で1876年(明
治9)イギリスに渡った時、スティー
ヴンソン(『宝島』の著者)に吉
田松陰の教えや生涯を話した。東京
職工学校(後の東京工業大学)
の初代学校長。



「ヨシダ・トラジロウ」訳本
原本はスティーヴンソンの
著した「人物と書物に親しむ」
に収められている。

(15) くずれゆく封建制 —長州藩の攘夷運動—

1860年(万延元)3月、桜田門外の変で大老井伊直弼を失って、幕府は困難を切りぬけるため朝廷に接近し、公武合体策をとりましたが、開国後の経済・社会の混乱は著しく、攘夷の運動はますます高まりました。長州藩は、しばしば朝廷に対して外国との条約を破棄して攘夷実行の命令を出すようにと強く要求したので、ついに幕府は1863年(文久3)「外国船(外夷)が来襲すれば、これを攻撃(掃攘)してもよい」という但し書きをつけてそれを許可しました。ところが長州藩はその但し書きを無視し、この年5月、折から関門海峡を通過しようとしていたアメリカ商船に対して、軍艦と下関砲台から攻撃したのを手始めに、外国船への攻撃を続けました。しかし、翌6月には外国軍艦に反撃されて長州藩は大切な軍艦2隻を沈められ、砲台も大被害を受けました。

このような状況の中で、外国軍艦による萩城下攻撃が心配され、その対策として急遽造られたのが、菊ヶ浜の土塁「女台場」です。また、これをきっかけに一方では、高杉晋作によって正規の藩兵以外の身分にとらわれない有志による軍隊「奇兵隊」が創設されることになりました。これをきっかけに、さらに多くの民兵が集まり、次々に諸隊が編成されていきました。この年の年末には1,000人を越え、さらに数年後には5,000人にまでふくれあがりました。幕末の争乱では、これらの諸隊が大活躍をし、明治維新への道を切り開いていきました。



菊ヶ浜土塁「女台場」築造図屏風(長谷氏蔵)

現在の菊ヶ浜土塁跡

武士の妻や奥女中までが派手な装いで応援した姿が、印象的に語り継がれたことによって「女台場」と言われるようになりました。



(16) 倒幕の動き — 禁門の変・第一次長州戦争 —

長州藩の攘夷決行に対し、幕府は公武合体の立場をとる薩摩藩と会津藩、及び朝廷内の公武合体派の公家らと謀り、1863年（文久3）8月18日早朝、突如長州藩の宮門警衛の任を解き、三条実美ら7人の公家を追放しました。（8・18政変と七卿落ち）そのため長州藩では京都で失った勢力を取り返すべく、翌年7月京都に出兵し、幕府会津藩・薩摩藩などと衝突しましたが、長州軍はこれに敗れて朝敵にされ、幕府に長州征伐の口実を与えることになりました。（禁門の変と第一次長州征伐）さらに同年8月、四国連合艦隊が前年の攘夷に対する報復として下関の砲台を攻撃し、長州藩は内外ともに行き詰まってしまいました。

結局長州藩は、三人の家老に切腹を命じ、その首を幕府に献上することによって許しを願い出ました。その間、身の危険を感じて九州に逃れていた高杉晋作が12月に下関に帰り挙兵すると、各地の諸隊もこれに呼応して、長州藩の考えは尊王討幕に統一されました。



七卿都落図 沢 宣嘉 筆（萩市郷土博物館）

「奇兵隊」の構成



（田中彰著「未完の明治維新」より）



高杉晋作 誕生地

高杉晋作が結成した「奇兵隊」は、身分にとらわれない有志による軍隊でした。四境戦争（第二次長州戦争）の小倉口の戦では、臨機応変の手際よい行動力を存分に発揮し、わずか1,000人の兵で幕府軍20,000人の兵を撃退。これを機に、一気に「奇兵隊」の名が全国にとどろきました。

(17) 四境戦争 — 第二次長州戦争 —

長州藩内で高杉晋作らの討幕派が支配するようになったことを知った幕府は、1865年（慶応元）4月、再び長州征伐の令を発し、翌年6月7日、大島口を攻撃し、ついで芸州口、石州口、小倉口でも前後して長州藩と戦火を交えました。四つの国境に敵（幕府軍）を迎えたことから、この戦いを「四境戦争」とよんでいます。幕府は総力を挙げ、30数藩の兵を動員して戦いましたが、長州一藩に勝てず、長州藩の圧勝で終わりました。これによって幕府の無力が天下に暴露されることになったのです。



四境戦争の瓦版（萩市郷土博物館蔵）

(18) 武家政治の終わり —薩長同盟と戊辰戦争—

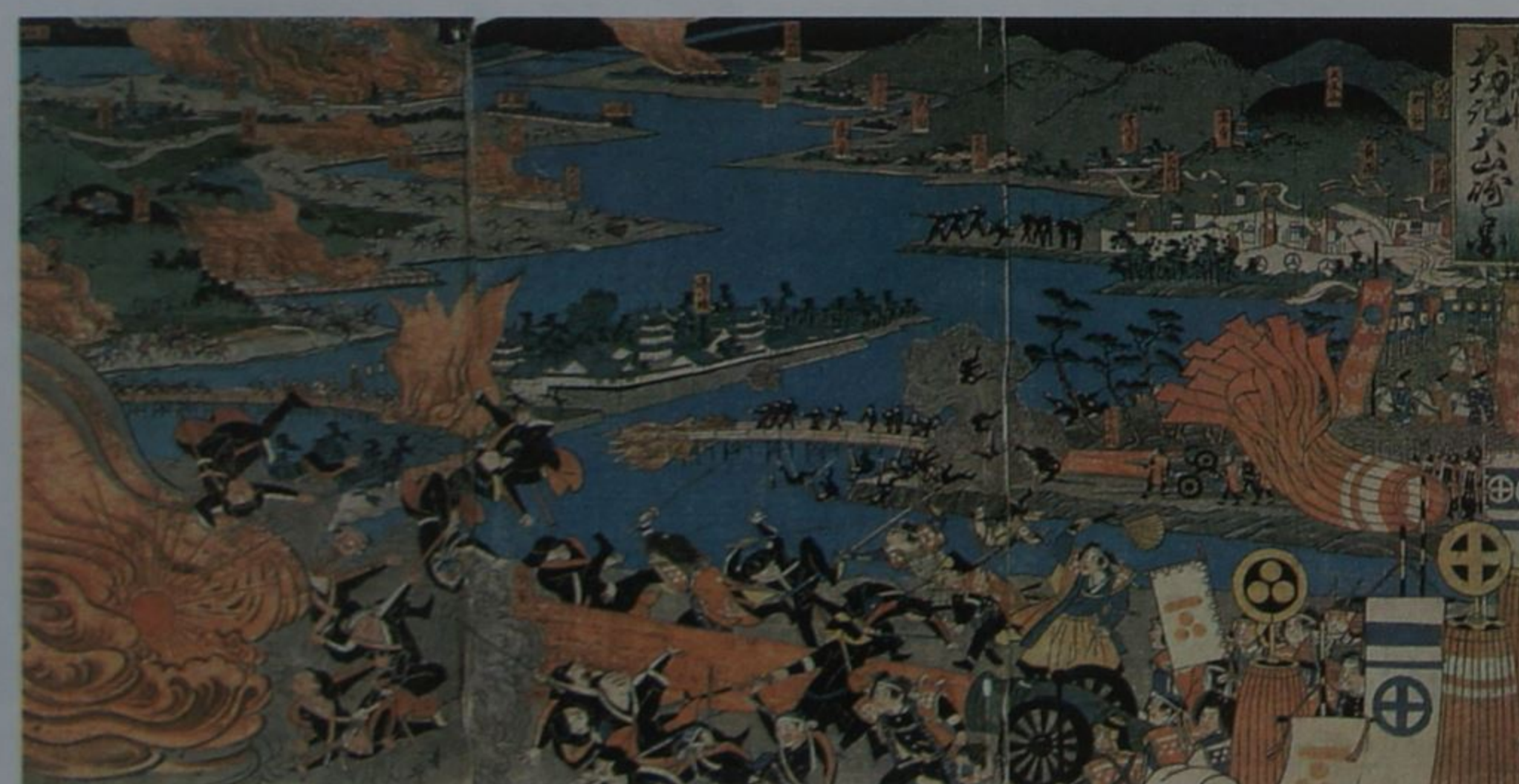
薩摩藩では、西郷隆盛らの努力で、藩の考えが公武合体から討幕へ統一されました。その様子を見ていた土佐藩の坂本龍馬らは、1866年（慶応2）1月20日、それまで反目しあっていた薩摩藩と長州藩に秘密同盟を結ばせて、討幕運動を大きく前進させました。これが薩長同盟です。

1867年（慶応3）10月14日、朝廷より薩摩藩、長州藩に対し、討幕の密勅が下されました。しかし、事前にその動きを察知していた将軍徳川慶喜は、幕府が自ら進んで朝廷に政権を奉還すれば薩長の討幕の大義名分をなくすことができると考え、大政奉還にふみきったのです。

こうして、260年続いた江戸幕府は倒れました。さらに討幕派は王政復古の号令を発し、徳川勢力を一掃するための戊辰戦争へと続いていくのです。



日本文化社「日本歴史シリーズ」より



鳥羽・伏見の戦い（萩市郷土博物館蔵）

4 近現代の郷土

明治時代（1868～1912年）

(1) 維新政府の出発 —廃藩置県・地租改正—

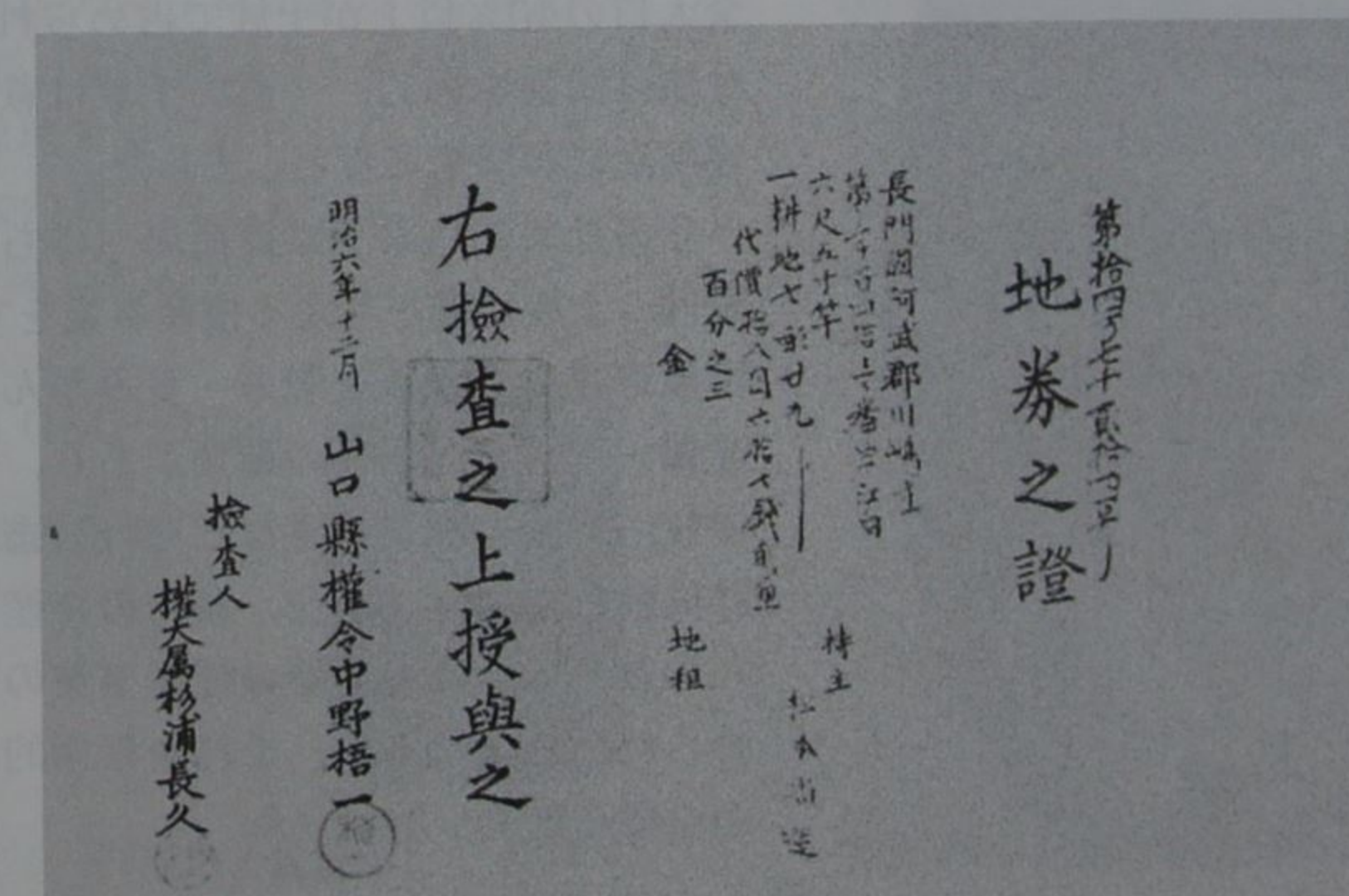
1871年（明治4）7月、廃藩置県により防長両国を併せて「山口県」、吉城郡山口町に山口県庁が置られました。萩、岩国、豊浦に支庁が置かれ、萩支庁は江向の勘場^{かんば}で事務をとっていました。後、萩の乱で焼失したため、再建されたのが右の建物で、阿武郡役所とよばれていました。



当時の萩支庁所管地域（1871年「山口県区画分界」より）

堀内、古萩、南・北片河町、呉服町、瓦町、米屋町、東・西田町、恵比須町、古魚店町、春若町、細工町、塩屋町、津守町、樽屋町、今魚店町、油屋町、平安古町、河添、江向、八丁筋、橋本町、御許町、唐樋町、上・下五間町、吉田町、熊谷町、浜崎町、浜崎新町、浜崎浦、大島、櫃島、羽島、尾島、相島、川島、下土原、椿西分、沖原、椿町、椿東分、中津江、小畑浦、越ヶ浜浦、鶴江浦、福井上・下村、紫福村、黒川村、大井村、大井浦、奈古村、奈古浦、木与村、宇田村、惣郷村、須佐村、須佐浦、江崎村、上・下田万村、吉部上・下村、高佐村、片俣村、嘉年上・下村、鈴野川村、上・中・下小川村、弥富上・下村、福田上・下村、宇生賀村、徳佐上・中・下村、地福村、篠目村、生雲東・西分、生雲中村、蔵目喜村、川上村、明木村、佐々並村、山田村、玉江浦、三見村、三見浦、見島（本村、宇津村、浦方）

新政府は財源を確保するために、地租改正を断行しました。江戸時代、重い年貢にあえいでいた農民たちは、地租改正に期待しましたが、地価の3パーセントという重い地租に再び苦しめられることになりました。



「地券」明治政府が発行した土地所有の権利書（萩市郷土博物館蔵）

*当時の1円は現在の1万円に相当

(2) 士族の没落と授産事業



萩の乱錦絵（萩市郷土博物館）

1871年（明治4）の廃藩置県により、これまでの家禄を離れて生計の道を絶たれた士族（旧武士階級）には公債（政府の出した借金証書、年々利子が支払われる）が渡されました。しかし、その利子だけではとうてい生活ができず、下級役人や教師・農業・商業を営む者もありましたが、多くは落ちぶれていきました。その他、帯刀などの特権もとりあげられました。

このようにして士族の不満が高まり、各地で反乱が起きました。萩でも1876年（明治9）10月、明治新政府で参議・兵部大輔をつとめた前原一誠らによる萩の乱が起きました。翌年2月、西郷隆盛の主導でおきた西南戦争は、最大で最後の士族反乱でした。

廃藩置県により家禄を失い、さらに1873年の徴兵令によって士族（旧武士階級）はその身分も職を失いました。生計の道を絶たれた士族の援護救済は、大きな社会問題となりました。特に萩では全人口の40%以上が士族で占められており、その救済は困難を極め、一部の士族は萩の乱などの士族反乱に参加するなどしました。

そのため山口県では授産局（のちの就産所）を設け、士族に職を与える授産事業をすすめました。授産事業には養蚕・製糸・夏みかん・木綿織物・運輸・養鶏など多くの種類があり、その他士族の移住、開墾、職業補導なども行いましたが、多くは失敗しました。現在、萩市の特産である夏みかんの栽培は、この当時の授産事業の一環として始められたものであり、これを積極的に推進したのが小幡高政でした。



小幡高政肖像（萩市郷土博物館蔵）

(3) 政界への進出

幕末から維新の激動期に、郷土萩から多数の人材や政治家が輩出したことは有名です。中でも、わが国の初代総理大臣である伊藤博文をはじめ、4人もの総理大臣が小さな地方都市・萩から誕生したことは他に類を見ません。ここでは明治時代に活躍した萩にゆかりのある主な政治家を紹介します。

明治年間における内閣閣僚の出身地別一覧表

出身地	人数	割合	内閣閣僚		
			内閣総理大臣	陸軍大臣	海軍大臣
薩摩	50	22.9	3	7	13
長州	46	21.1	8	8	0
土佐	15	9.9	0	0	0
備前	13	6.0	1	0	0
幕府	10	4.6	0	0	0
その他	84	38.5	2	2	3
計	218	100%	14	17	16

きど 木戸孝允 (1833～1877)

萩市呉服町出身



いのうえ 井上馨 (1835～1915)

山口市湯田出身



1868年、総裁局顧問となって明治政府に参画。版籍奉還、廃藩置県を主張し、維新の土台づくりに貢献した。世に言う「明治維新の三傑」と称される人物である。

維新後は参与として新政府に出仕した。1885年、外務大臣となり、以来農商務大臣、内務大臣、臨時総理、大蔵大臣を歴任した。引退後は実業界に力を尽した。

やまがた 山県有朋 (1838～1922)

萩市川島出身



いとう 伊藤博文 (1841～1909)

熊毛郡大和町出身



1889年、総理大臣に就任。以後、司法大臣、枢密院議長、参謀総長などを歴任。1898年には再び総理大臣に就任した。伊藤博文亡き後、最大の発言力をもつ元老として、軍や政界に君臨した。

1871年、岩倉大使の副使として欧米を巡歴。1882年立憲制度調査のため渡欧し、帰国後は憲法制定、内閣制度の創設、枢密院設置の任にあたった。1885年、初代総理大臣に任じられ、その後4次にわたり内閣を組閣した。

かつら 桂太郎 (1847～1926)

萩市平安古出身



たなか 田中義一 (1864～1929)

萩市呉服町出身



明治初年にヨーロッパへ留学し、陸軍の軍制をドイツ式に改めた。1898年に陸軍大臣に就任。1901年には総理大臣となり日英同盟の締結に尽した。その後、1908年、1912年と三次にわたって組閣した。

ロシア留学帰国後、軍政の中枢部を歴任。1925年政友会総裁に就任、1927年に総理大臣となる。外務大臣、拓務大臣を兼任し、普通選挙による最初の選挙を実施した。

5 萩市の文化財

(1) 萩市の文化財

萩市は数多くの歴史的資源に恵まれ、優れた環境を形成した、わが国有数の歴史都市です。そして、毛利氏36万石の城下町の形態や当時の古い建造物、明治維新前後の史跡など、数多くの文化財が保存されています。これら先人の残した貴重な文化遺産について、その保存継承に努めることは、私たち萩市民の使命ともいえます。萩市には現在、どこにどのような文化財があるのか見てみましょう。

① 指定文化財一覧

種 別		国	県	市	計	(平成15年4月1日現在)	
有形文化財	建 造 物	7	5	17	29	○国指定文化財 - 40 -	
	絵 画	1	1	0	2	・重要文化財 15	
	彫 刻	3	3	1	7	・無形文化財 1	
	工 芸	2	0	4	6	・史跡 12	
	書 跡	2	3	0	5	・天然記念物 5	
	考 古 資 料	0	2	1	3	・登録有形文化財 4	
	古 文 書	0	0	1	1	・重伝建地区(選定) 3	
無形文化財	芸 能	0	1	4	5	○県指定文化財 - 21 -	
	萩 焼	1	1	0	2	・有形文化財 15	
	史 跡	12	1	14	27	・無形民俗文化財 2	
名 勝		0	0	0	0	・史跡 1	
天 然 記 念 物		5	3	8	16	・天然記念物 3	
計		33	21	50	104	○市指定文化財 - 57 -	
重伝建群保存地区(選定地区)		3	0	0	3	・有形文化財 24	
登録有形文化財(登録)		4	0	0	4	・無形民俗文化財 4	
歴史的景観保存地区		0	0	7	7	・史跡 14	
合 計		40	21	57	118	・天然記念物 8	
						・景観地区 7	

② 国 指 定

重要文化財 (15)

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所 有 地	所 有 者
建 造 物	常念寺表門 附 棟札一枚	1 棟	昭29. 9. 17	下五間町	常 念 寺
建 造 物	東光寺 総門三門 附 棟札一枚 大雄宝殿 附 棟札三枚 鐘楼	4 棟	昭41. 6. 11	椎 原	東 光 寺
建 造 物	旧厚狭毛利家萩屋敷長屋 附 棟札一枚	1 棟	昭41. 6. 11	堀 内	萩 市
建 造 物	菊屋家住宅 主屋、本蔵、金蔵、米蔵、釜場、 附 土塀二棟、古図一枚	5 棟	昭49. 5. 21	呉 服 町	財団法人 菊屋家住宅会
建 造 物	熊谷家住宅 主屋、離れ座敷、本蔵、宝蔵、	4 棟	昭49. 5. 21	今魚店町	財団法人 熊谷美術館
建 造 物	口羽家住宅 主屋、表門	2 棟	昭49. 5. 21	堀 内	口 羽 公 男
建 造 物	大照院 本堂、庫裏、書院、鐘楼門、経蔵	5 棟	平14. 5. 23	青 海	大 照 院
絵 画	絹本着色春冬山水図 載文進筆	2 幅	昭31. 6. 28	呉 服 町	財団法人 菊屋家住宅会
彫 刻	木造 聖観音立像	1 軀	明35. 7. 31	沖 原	南 明 寺
彫 刻	木造 千手観音立像	1 軀	明35. 7. 31	沖 原	南 明 寺
彫 刻	木造 赤童子立像	1 軀	明35. 7. 31	青 海	大 照 院
工 芸 品	太刀 銘延吉 附 絲巻太刀拵	1 口	大 8. 4. 12	堀 内	志都岐山神社
工 芸 品	太刀 銘光房 附 革包太刀拵	1 口	大15. 4. 19	堀 内	志都岐山神社
書 跡	熊谷家文書	13 巻 (255通)	昭48. 6. 6	土 原	熊 谷 正 雄
書 跡	雪峯東山空和尚外集	1 冊	昭49. 6. 8	中 津 江	龍 藏 寺

重要無形文化財 (1)

種 別	名 称	認定年月日	保持者の住所	保持者氏名	雅 号
工 芸 技 術	萩 焼	昭58. 4. 13	無 田 ケ 原	三 輪 節 夫	休 雪

史跡・名勝・天然記念物 (17)

種 別	名 称	指定年月日	所 在 地	管 理 団 体 または所有者
史 跡	松 下 村 塾	大11. 10. 12	椎 原	松 陰 神 社
史 跡	吉 田 松 陰 幽 囚 ノ 旧 宅	大11. 10. 12	椎 原	松 陰 神 社

種 別	名 称	指定年月日	所 在 地	管 理 団 体 または所有者
史 跡	萩 反 射 炉	大13.12. 9 追加 昭55. 3.22	前 小 畑	萩 市
史 跡	明倫館水練池及び有備館 附 明倫館碑	昭 4.12.17 追加 昭24. 7.13	江 向	萩 市
史 跡	木 戸 孝 允 旧 宅	昭 7. 3.25	呉 服 町	萩 市
史 跡	伊 藤 博 文 旧 宅	昭 7. 3.25	椎 原	萩 市
史 跡	旧 萩 藩 御 船 倉	昭11.12.16 一部解除 昭37.11.10 追加 平 6. 8.15	東 浜 崎 町	萩 市
史 跡	萩 城 跡	昭26. 6. 9 追加 昭42. 1.10 追加 昭52. 4.27 追加一部解除 昭61. 5. 6 追加 平元. 8.14	堀 内 北 片 河 町 南 片 河 町 平 安 古 町	萩 市
史 跡	萩 城 城 下 町	昭42. 1.10 追加 昭54. 3.20 昭59. 2. 9	呉 服 町 南 古 萩 町	萩 市
史 跡	萩 往 還	平元. 9.22	大 屋	萩 市
史 跡	萩 藩 主 毛 利 家 墓 所	昭56. 5.11	堀内・青海・椎原	萩 市
史 跡	見 島 ジ ー コ ン ボ 古 墳 群	昭59. 7.25	見 島	萩 市
天然記念物	明 神 池	大13.12. 9	越 ケ 浜	萩 市
天然記念物	笠山コウライタチバナ自生地	大15. 2.25 名称変更 昭28.11.14	越 ケ 浜	萩 市
天然記念物	見 島 ウ シ 産 地	昭 3. 9.20	見 島	萩 市
天然記念物	見 島 の カ メ 生 息 地	昭 3. 9.20 名称変更 昭31. 7.31	見 島	萩 市
天然記念物	指 月 山	昭46. 3.16	堀 内	萩 市

③ 国 選 定

重要伝統的建造物群保存地区（3地区）				
種 別	名 称	選定年月日	所 在 地	面 積
重要伝統的建造物群保存地区	萩市堀内地区重要伝統的建造物群保存地区	昭51. 9. 4 追加 昭53. 5.31	堀 内 "	約70.3ヘクタール 約 7.1ヘクタール
重要伝統的建造物群保存地区	萩市平安古地区重要伝統的建造物群保存地区	昭51. 9. 4 追加 平 5.12. 8	平 安 古	約3.9ヘクタール 約0.1ヘクタール
重要伝統的建造物群保存地区	萩市浜崎地区重要伝統的建造物群保存地区	平 13.11.14	浜 崎 町 浜崎新町 東浜崎町 熊谷町	約10.3ヘクタール

④ 国 登 録

登録有形文化財（4）

種 別	名 称	指定年月日	所 在 地	管 理 団 体 または所有者
登録有形文化財	明 倫 小 学 校 本 館	平 8.12.20	江 向	萩 市
登録有形文化財	萩 駅 舎	平 8.12.20	椿	萩 市
登録有形文化財	三 見 橋	平10.10. 9	三 見	萩 市
登録有形文化財	鹿 背 隧 道	平11. 7.21	椿	萩 市

⑤ 県 指 定

有形文化財（15）

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所 有 地	所 有 者
建造物	萩 学 校 教 員 室	1 棟	昭44.12. 5	堀 内	山 口 県
建造物	長 寿 寺 十 三 重 塔	1 基	昭48.10.19	北 古 萩	長 寿 寺
建造物	旧 福 原 家 萩 屋 敷 門	1 棟	昭49.11. 8	堀 内	萩 市
建造物	旧 梨 羽 家 書 院	1 棟	昭52.11.11	堀 内	松 浦 政 実
建造物	花 月 楼	1 棟	昭54.12. 4	椎 原	松 陰 神 社
絵 画	絹 本 着 色 釈 迦 三 尊 像	3 幅 対	昭53.12.22	椎 原	東 光 寺
彫 刻	木 造 釈 迦 如 来 座 像	1 軀	昭41. 6.10	青 海	大 照 院
彫 刻	木 造 不 動 明 王 立 像	1 軀	昭41. 6.10	北 古 萩	長 寿 寺
彫 刻	木 造 義 翁 和 尚 倚 像	1 軀	昭53.12.22	青 海	大 照 院
書 跡	木 桂 榜 同 下 額 聯 牌 書	40 枚 29対と1枚 3 面 19 幅	昭48. 3.30	椎 原	東 光 寺
書 跡	三 祖 師 号	3 幅	昭48. 3.30	椎 原	東 光 寺
書 跡	石 屏 子 介 禪 師 墨 蹟	1 幅	昭50. 3.22	中 津 江	龍 蔵 寺
考古資料	見島ジーコンボ古墳群出土品	1 括	昭54. 3.31 追加 昭59. 4.10	江 向 山 口	萩 市 文 化 庁
考古資料	円 光 寺 古 墳 出 土 品	1 括	平 4. 5.29	江 向	萩 市
歴史資料	毛利氏日明貿易関係資料	1 流	昭57.11. 5	土 原	高 州 孝 次

無形民俗文化財（2）

種 別	名 称	指定年月日	保持者の住所	保持者の氏名
芸 能	住 吉 神 社 「お 船 謡」	昭43. 4. 5	浜 崎 町	住 吉 神 社 お 船 謡 保 存 会
工 芸 技 術	萩 焼	平14. 3.26	玉 江	野 坂 康 起
		平14. 3.26	堀 内	波 多 野 善 蔵

史跡・名勝・天然記念物（4）

種 別	名 称	指定年月日	所 在 地	所 有 者
天然記念物	河 内 の 大 ム ク	昭41. 6.10	河 内	田 村 甲 作
天然記念物	三 見 吉 広 の バ ク チ ノ キ	昭55.12. 5	三 見	吉 村 芳 子 ほか
天然記念物	志都岐山神社のミドリヨシノ	昭56. 3.24	堀 内	志 都 岐 山 神 社
史 跡	萩 焼 古 窯 跡 群	昭56.12.11	中 ノ 倉	坂 幸 子

⑥ 市 指 定
有形文化財 (24)

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所 有 地	所 有 者
建造物	旧 周 布 家 長 屋 門	1 棟	昭37. 1. 11	堀 内	萩 市
建造物	平 安 橋	1 基	昭37. 1. 11	平安古町	萩 市
建造物	問 田 益 田 氏 旧 宅 土 塀	1 棟	昭37. 12. 24	堀 内	山 田 正 次
建造物	旧 福 原 家 書 院	1 棟	昭42. 12. 25	堀 内	志都岐山神社
建造物	小 川 家 長 屋 門	1 棟	昭46. 3. 26	土 原	小 川 成 一
建造物	龍 蔵 寺 観 音 堂	1 基	昭46. 3. 26	中津江	龍 蔵 寺
建造物	明 倫 館 遺 構 南 門	1 棟	昭48. 2. 13	西 田 町	本願寺山口別院 萩 分 院
建造物	明 倫 館 遺 構 観 徳 門	1 棟	昭48. 2. 13	江 向	萩 市
建造物	明 倫 館 遺 構 聖 廟	1 棟	昭48. 2. 13	北古萩町	海 潮 寺
建造物	明 倫 館 遺 構 万 歳 橋	1 基	昭48. 2. 13	堀 内	志都岐山神社
建造物	花 江 茶 亭	1 棟	昭48. 2. 13	堀 内	萩 市
建造物	端 坊 鐘 楼	1 棟	昭49. 3. 23	恵美須町	端 坊
建造物	円 政 寺 金 毘 羅 社 社 殿 附 石 鳥 居・山 門・石 燈 籠	1 棟	昭51. 6. 10	南古萩町	円 政 寺
建造物	亨 徳 寺 三 門	1 棟	昭52. 10. 11	北古萩町	亨 徳 寺
建造物	奥 平 家 長 屋 門	1 棟	昭54. 2. 23	土 原	奥 平 忠
建造物	南 明 寺 観 音 堂	1 棟	昭55. 9. 19	沖 原	南 明 寺
建造物	明 倫 館 遺 構 聖 賢 堂	1 棟	昭58. 3. 19	江 向	萩 市
彫 刻	木 造 薬 師 如 来 座 像	1 軀	昭46. 3. 26	松 本 市	広 厳 寺
工 芸 品	讃 岐 坊 梵 鐘	1 口	昭48. 2. 13	見 島	讃 岐 坊
工 芸 品	見 島 八 幡 宮 鰐 口	1 口	昭48. 2. 13	見 島	見 島 神 社
工 芸 品	端 坊 梵 鐘	1 口	昭49. 3. 23	恵美須町	端 坊
工 芸 品	不 動 明 王 立 像	1 軀	昭51. 6. 10	沖 原	南 明 寺
古 文 書	大 井 八 幡 宮 文 書	14 点	平 9. 4. 25	大 井	大 井 八 幡 宮
考古資料	元 寇 の 碇 石	1 基	昭55. 4. 25	大 井	出 口 栄 城

無形民俗文化財 (4)

種 別	名 称	指定年月日	保持者の住所	保持者の氏名
芸 能	玉 江 浦 「天 狗 拍 子」	昭37. 12. 24	玉 江 浦	天狗拍子保存会
芸 能	木 間 「神 代 の 舞」	昭37. 12. 24	木 間	木間神代の舞保存会
芸 能	越ヶ浜 「巫 女 の 舞」	昭46. 3. 26	越 ヶ 浜	越ヶ浜郷土芸能保存会
芸 能	越ヶ浜 「大 網 声」	昭46. 3. 26	越 ヶ 浜	越ヶ浜郷土芸能保存会

史跡・名勝・天然記念物 (22)

種 別	名 称	指定年月日	所 在 地	管 理 団 体 または所有者
史 跡	萩 城 下 街 割 原 標 石	昭37. 1. 11	江 向	萩 市
史 跡	村 田 清 風 別 宅 跡	昭37. 12. 24	平 安 古 町	萩 市
史 跡	玉 木 文 之 進 旧 宅	昭39. 3. 28	椎 原	萩 市
史 跡	円 光 寺 穴 観 音 古 墳	昭46. 3. 26	大 井	田 中 一 久
史 跡	八 橋 検 校 の 碑	昭46. 3. 26	香 川 津	赤 崎 神 社
史 跡	吉田松陰の墓ならびに墓所	昭47. 2. 9	椎 原	杉 丙 三
史 跡	小 倉 四 賢 墓 所	昭47. 2. 9	大 屋	萩 市
史 跡	菊ヶ浜土塁 (女台場)	昭48. 2. 13	今 魚 店 町	萩 市
史 跡	野 山 獄 ・ 岩 倉 獄 跡	昭48. 7. 31	今 古 萩 町	萩市・吉田惣一郎外七名
史 跡	旧 湯 川 家 屋 敷	平 5. 12. 1	川 島	萩 市
史 跡	長 添 山 古 墳	平 7. 2. 1	新 川	萩市護国神社
史 跡	桂 太 郎 旧 宅	平10. 1. 27	川 島	萩 市
史 跡	伊 藤 博文 旧 宅 地 邸 附 伊 藤 博文 別 邸	平10. 8. 31	椎 原	萩 市
史 跡	吉 田 松 陰 誕 生 地	平13. 12. 21	椎 原	萩 市
天然記念物	大 照 院 の 大 フ ジ	昭37. 1. 11	青 梅	大 照 院
天然記念物	指 月 山 の ミ カ ド ア ゲ ハ	昭37. 1. 11	堀 内	萩 市
天然記念物	笠 山 ハ マ ボ ウ 自 生 北 限 地	平 5. 1. 26	越 ヶ 浜	藤 田 敏 夫
天然記念物	笠山虎ヶ崎タチバナ自生北限地 およびコウライタチバナ自生地	平 5. 1. 26	越 ヶ 浜	山口はぎ漁業協同組合越ヶ浜支所
天然記念物	笠山のホソイノデ・カサヤマイ ノデ・カタホソイノデ混生地	平 7. 2. 1	越 ヶ 浜	上 村 ハ ル
天然記念物	櫃島八幡宮リュウキュウエノキ	平 7. 2. 1	櫃 島	櫃 島 八 幡 宮
天然記念物	見島日崎のタダムシオイガイ・ミシ マヒメベッコウおよびその棲息地	平13. 12. 21	見 島	弘 長 一 成
天然記念物	笠山虎ヶ崎ヤブツバキ群生林	平14. 8. 1	越 ヶ 浜	越ヶ浜自治会

歴史的景観保存地区 (7)

種 別	名 称	指定年月日	管理団体または所有者
歴史的景観 保 存 地 区	萩市歴史的景観保存地区	昭47. 10. 5	○堀内地区 ○今魚店地区 ○東光寺及び吉田松陰誕生地付近 ○大照院付近 ○藍場川及び藍場川周辺 ○南明時境内及び参道 ○藍玉座跡土塀

(2) 萩市文化財一覧

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ① 指月山 | ⑤⑤ 東光寺鐘楼 |
| ② 指月山のミカドアゲハ | ⑤⑥ 東光寺大雄宝殿 |
| ③ 太刀「延吉」 | ⑤⑦ 三祖師号 |
| ④ 太刀「光房」 | ⑤⑧ 本額・柱聯・傍碑・同下書 |
| ⑤ 旧福原家書院 | ⑤⑨ 絹本着色釈迦三尊像 |
| ⑥ 明倫館遺構万歳橋 | ⑥⑩ 吉田松陰の墓ならびに墓所 |
| ⑦ 花江茶亭 | ⑥① 木像 葉師釈迦座像 |
| ⑧ 志都岐山神社のミドリヨシノ | ⑥② 萩焼古窯跡群 |
| ⑨ 旧厚狭毛利家萩屋敷長屋 | ⑥③ 龍蔵寺観音堂 |
| ⑩ 萩藩主毛利家墓所（3ヶ所） | ⑥④ 雪峯東山空和尚外集 |
| ⑪ 旧福原家萩屋敷門 | ⑥⑤ 石屏子介禅師墨蹟 |
| ⑫ 口羽家住宅 | ⑥⑥ 木造 千手観音立像 |
| ⑬ 間田益田氏旧宅土堀 | ⑥⑦ 木造 聖観音立像 |
| ⑭ 萩学校職員室 | ⑥⑧ 不動明王立像 |
| ⑮ 旧梨羽家書院 | ⑥⑨ 南明寺観音堂 |
| ⑯ 平安橋 | ⑦⑩ 小倉四賢墓所 |
| ⑰ 旧周布家長屋門 | ⑦① 木像 赤童子立像 |
| ⑱ 菊ヶ浜土塁（女台場） | ⑦② 大照院鐘楼門 |
| ⑲ 住吉神社「お船謡」 | ⑦③ 木造 義翁和尚倚像 |
| ⑳ 旧萩藩御船倉 | ⑦④ 大照院庫裡 |
| ㉑ 熊谷家住宅 | ⑦⑤ 大照院本堂 |
| ㉒ 享徳寺三門 | ⑦⑥ 木造 釈迦如来座像 |
| ㉓ 明倫館遺構聖廟 | ⑦⑦ 大照院経蔵 |
| ㉔ 野山獄・岩倉獄跡 | ⑦⑧ 大照院書院 |
| ㉕ 常念寺表門 | ⑦⑨ 大照院の大フジ |
| ㉖ 長寿寺十三重塔 | ⑧⑩ 玉江浦「天狗拍子」 |
| ㉗ 木造 不動明王立像 | ⑧① 元寇の礎石 |
| ㉘ 瑞坊鐘楼 | ⑧② 円光寺穴観音古墳 |
| ㉙ 瑞坊梵鐘 | ⑧③ 笠山虎ヶ崎タチバナ自生北限地外 |
| ㉚ 明倫館遺構南門 | ⑧④ 笠山コウライタチバナ自生地 |
| ㉛ 菊屋家住宅 | ⑧⑤ 笠山ハマボウ自生北限地 |
| ㉜ 絹本着色春冬山水図 | ⑧⑥ 越ヶ浜「巫女の舞」 |
| ㉝ 木戸孝允旧宅 | ⑧⑦ 越ヶ浜「大綱声」 |
| ㉞ 円政寺内金毘羅社社殿 | ⑧⑧ 明神池 |
| ㉟ 村田清風別宅跡 | ⑧⑨ 萩反射炉 |
| ㊱ 明倫館遺構聖賢堂 | ⑨⑩ 歴史の道 萩往還 |
| ㊲ 明倫館水練池および有備館 | ⑨① 河内の大ムク |
| ㊳ 明倫館遺構観徳門 | ⑨② 木間「神代の舞」 |
| ㊴ 見島ジーコンボ古墳群出土品 | ⑨③ 三見吉広のバクチノキ |
| ㊵ 円光寺古墳出土品 | ⑨④ 見島ウシ産地 |
| ㊶ 萩城下街割原標石 | ⑨⑤ 見島ジーコンボ古墳群 |
| ㊷ 小川家長屋門 | ⑨⑥ 見島のカメ生息地 |
| ㊸ 毛利氏日明貿易関係資料 | ⑨⑦ 讃岐坊梵鐘 |
| ㊹ 奥平家長屋門 | ⑨⑧ 見島八幡宮鰐口 |
| ㊺ 熊谷家文書 | ⑨⑨ 明倫小学校本館 |
| ㊻ 八橋検校の碑 | ⑩⑩ 萩駅舎 |
| ㊼ 萩焼保持者 三輪節夫 | ⑩⑪ 三見橋 |
| ㊽ 松下村塾 | ⑩⑫ 旧湯川家屋敷 |
| ㊾ 花月楼 | ⑩⑬ 長添山古墳 |
| ㊿ 吉田松陰幽囚ノ旧宅 | ⑪⑭ 桂太郎旧宅 |
| ① 伊藤博文旧宅 | ⑪⑮ 笠山のホソイノデ他混生地 |
| ② 玉木文之進旧宅 | ⑪⑯ 櫃島八幡宮リュウキュウエノキ |
| ③ 東光寺総門 | ⑪⑰ 大井八幡宮文書 |
| ④ 東光寺三門 | ⑪⑱ 藍玉座跡土堀 |



蕨市文化財所在地図



- 東大寺講經樓
東光寺大雄宝殿
三福堂
本願・柱聯・傍碑・同下書
彌木善色釈迦三尊像
吉田松陰の墓ならびに墓所
木造 婆伽釈迦座像
東照宮竊群
東照寺觀音堂
東照堂山空和尚外集
石塚子介神師墨蹟
木造 千手觀音立像
木造 聖觀音立像
不動明王立像
南明寺觀音堂
小倉源賢墓所
木造 赤童子立像
大照院鐘樓門
木造 義翁和尚倚像
大照院東裡
大照院本堂
木造 釈迦如來座像
大照院経藏
大照院書院
大照院の大フジ
江田藩「天狗拍子」
元寇の礎石
日光寺の觀音古墳
聖山虎ヶ崎タチバナ自生北限地外
聖山コウライタチバナ自生地
聖山ハマバウ自生北限地
龍ヶ坂「巫女の舞」
龍ヶ坂「大綱声」
龍神池
龍反射が
歴史の道 森往還
堀内の大ムク
木間「神代の舞」
日見吉広のバクチノキ
見島ウシ産地
見島ジーコンボ古墳群
見島のカメ生息地
濃姫松梵鐘
見島八幡宮門口
南陵小学校本館
南陵倉
三見橋
田原川家屋敷
長嶺山古墳
松太郎旧宅
聖山のホソイノデ他混生地
龍崎八幡宮リウキュウエノキ
江戸八幡宮文書
龍王御土庫



-
- 1 萩城跡(史跡)
- 2 萩城城下町(史跡)
- 3 萩市平安古地区(伝建)
- 4 萩市堀内地区(伝建)
- 5 堀内地区(歴観)
- 6 今魚店地域(歴観)
- 7 藍場川周辺(歴観)
- 8 東光寺及び
吉田松陰誕生地付近(歴観)
- 9 南明寺境内及び参道(歴観)
- 10 大照院付近(歴観)



松陰誕生地から萩市を眺めて

第2部 萩市のすがた（地理編）

—— 活用にあたって ——

地理には、自然・産業・社会・交通・文化などさまざまな事象や要因が影響をおよぼしています。対馬海流の影響を受けた温暖な気候、代表的な風景とされる土堀と夏みかん、多くの先賢者を輩出した風土、伝統産業萩焼……。

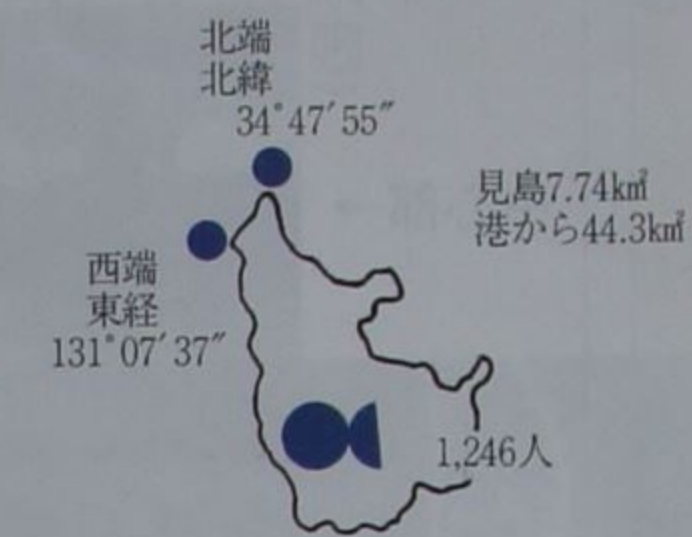
こうした一つ一つの事象が互いに影響しあって、私たちの「ふるさと萩」が形づくられているのです。

この地理編には、様々な面からの最新の資料がたくさん掲載されています。みなさんがこの資料の中から興味・関心のあるものを選び、その活用の方法を考え、創意工夫を生かして積極的に郷土学習に取り組めるようにと考えて編集しました。ふだんよく知っているつもり地域の地域でも、くわしく調べたり別の角度から眺めてみると、新たな発見が次々と生まれてくるものです。

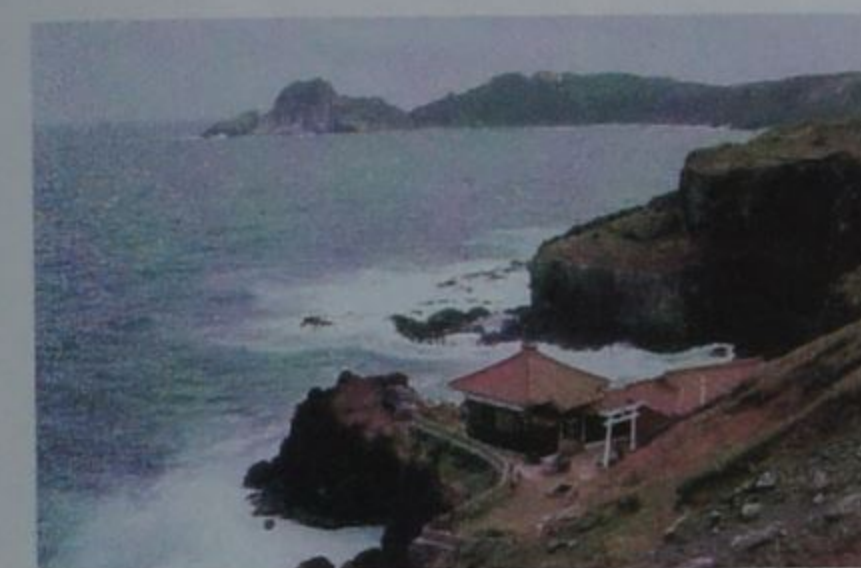
さあ、「ふるさと萩」の野外調査に出かけてみましょう。

1 自然のようす

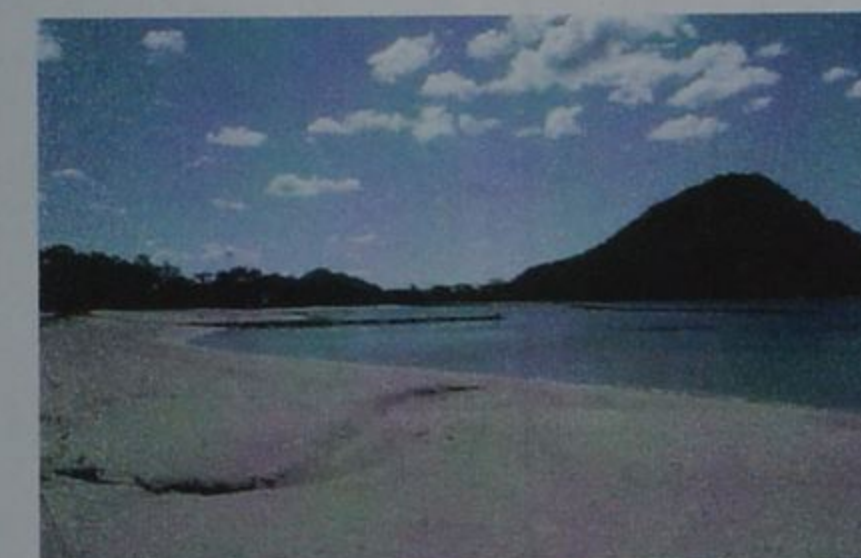
(1) 位置・範囲・面積・人口



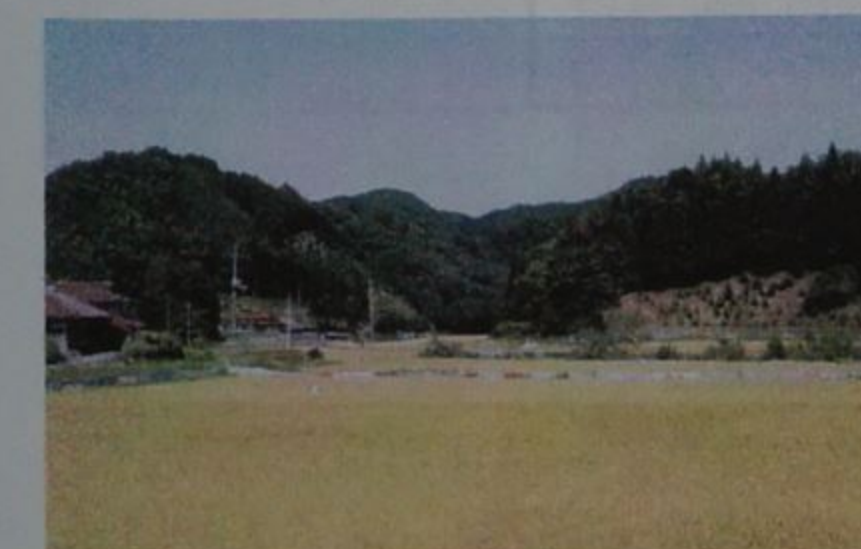
① 見島の観音崎



② 菊ヶ浜から見た指月山



③ 山あいの里 木間



●10,000人 ●1,000人

面積 計 138.27ha ※2001年10月

人口 計 46,054人

※資料提供:住民基本台帳2002年8月

市役所の位置:萩市江向510番地

北緯 34°24'02" 東経 131°23'57"

陸地 東西 18.07km 南北 21.68km

※資料提供:萩市郷土博物館、市総務課

④ 椿の群生林

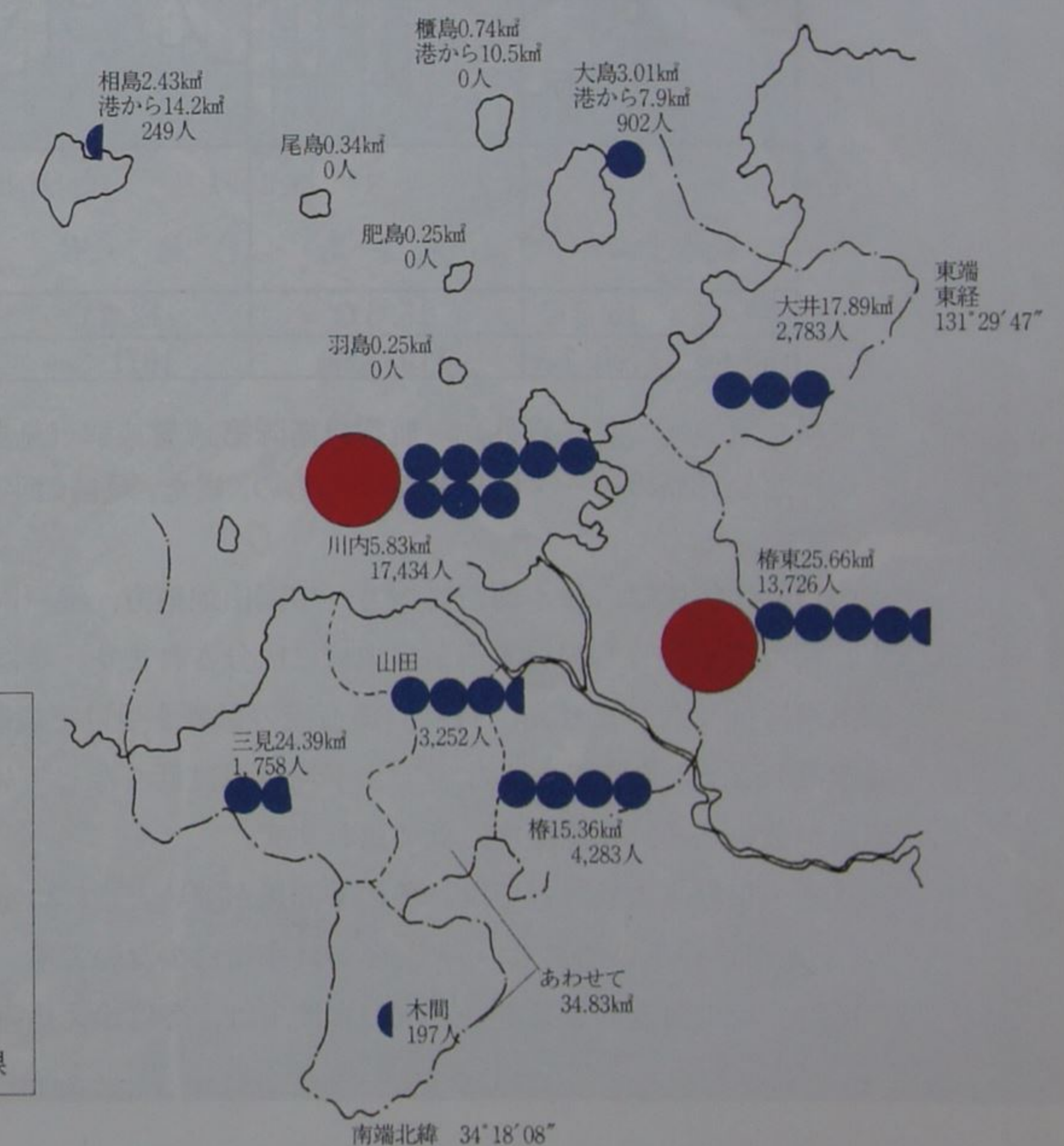


⑤ 明神池



⑥ 阿武川の分岐点

左阿武川 中央橋本川 右松本川



(2) 気 候

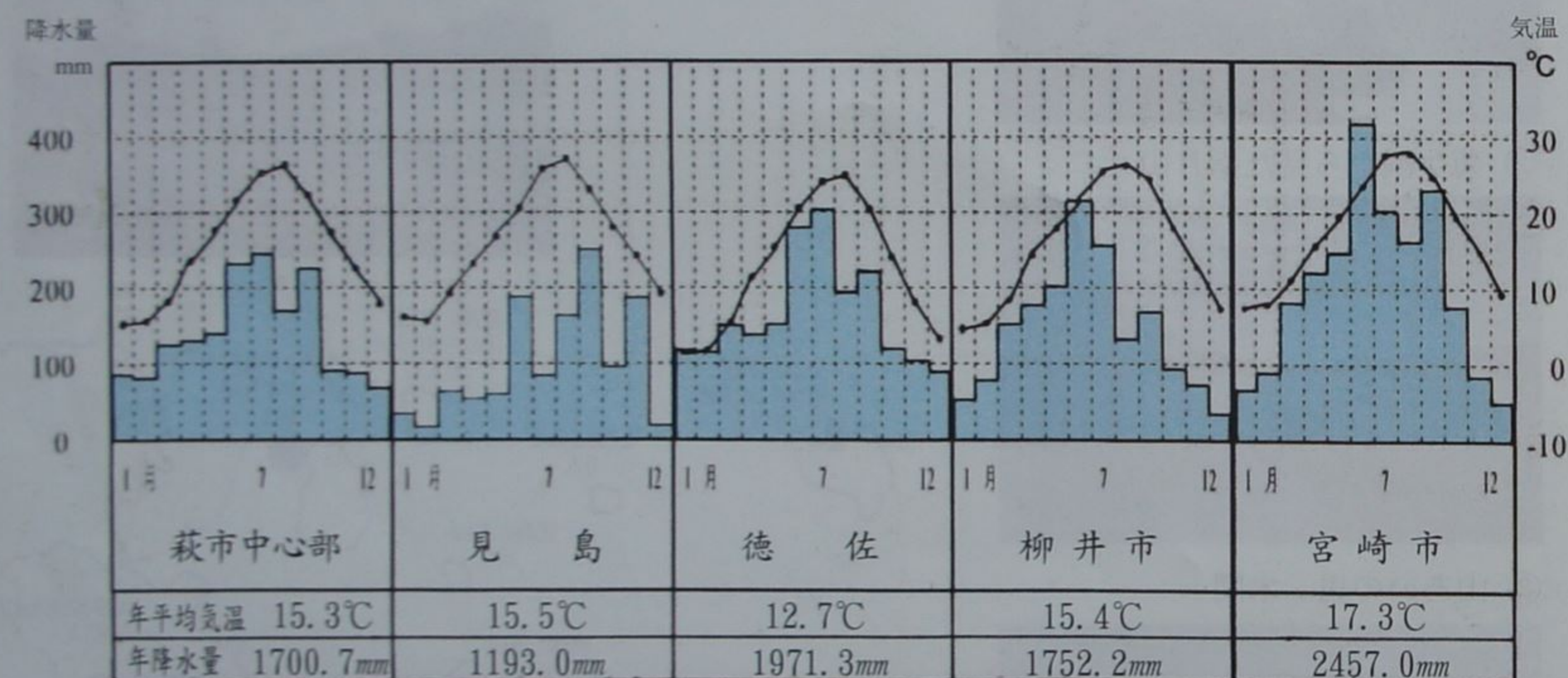
1 山口県の気候区分



2 萩市の冬の風景



3 雨温図



資料：気象庁（見島以外） 航空自衛隊第17警戒群（見島 標高182m）

※ただし見島のデータは平成12年のもの。また、見島の平均気温は最高気温・最低気温の平均値。

山口県の気候は、日本海沿岸地方、中国山地地方、瀬戸内海沿岸地方の3つの地域に区分されます。萩市はそのうちの日本海沿岸地方に区分されます。冬は、暖流である対馬海流のおかげで比較的气温は低くなりません。特に対馬海流の影響を受けて温暖なのは見島です。（ただし、この資料は標高182mの地点のもので、平均気温は低くなっています。）しかし、全体的には、冬の季節風が強いため、体感温度は低く感じます。

見島・相島・大島などでは、冬の季節風が強いときには定期船が欠航することもあります。しかし、土地が狭く高い山がないので、冬の降水量は少ないです。

逆に、対馬海流の影響を受けない木間では、冬は冷え込み、中心部より雪が多く積もります。

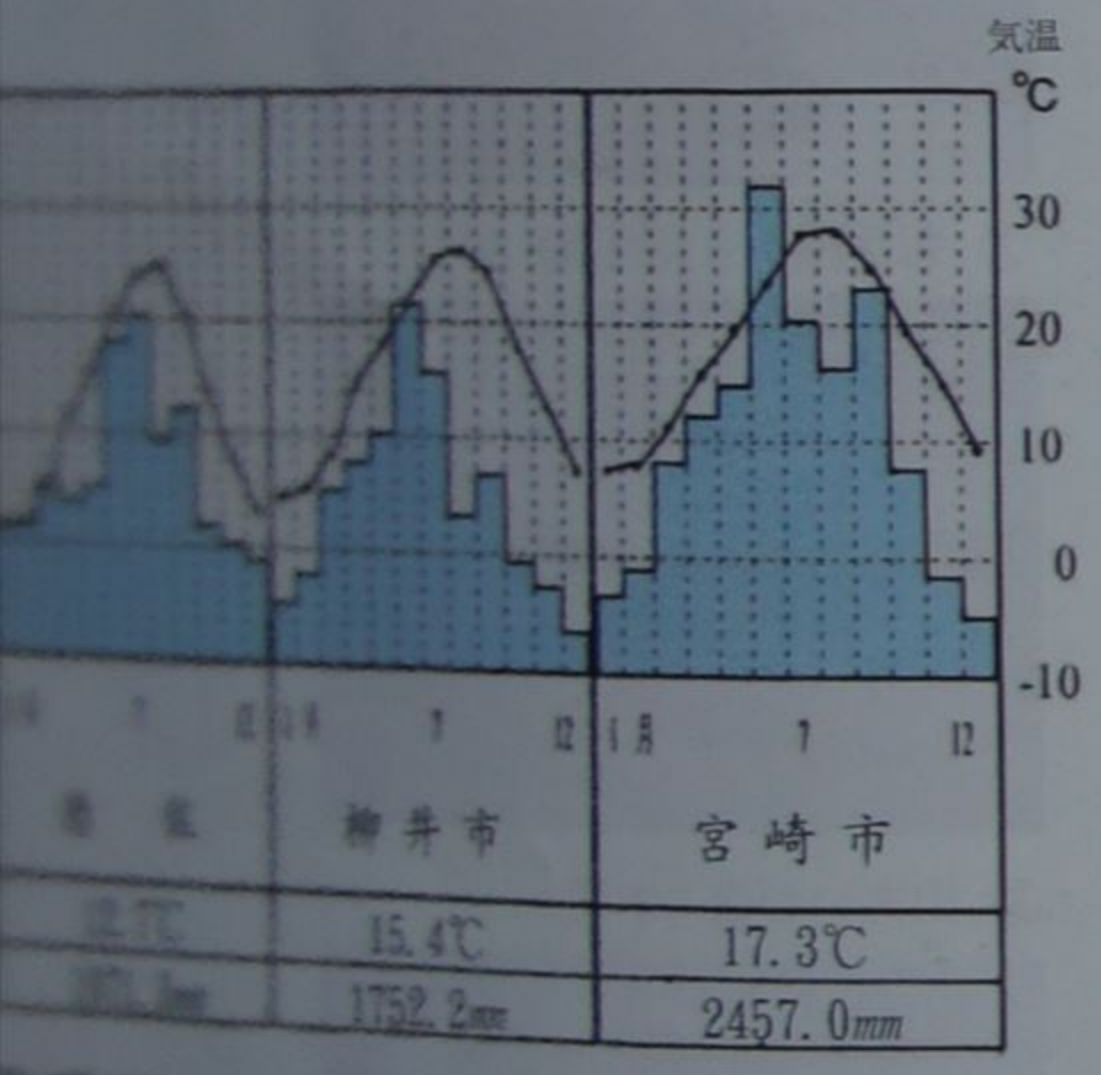
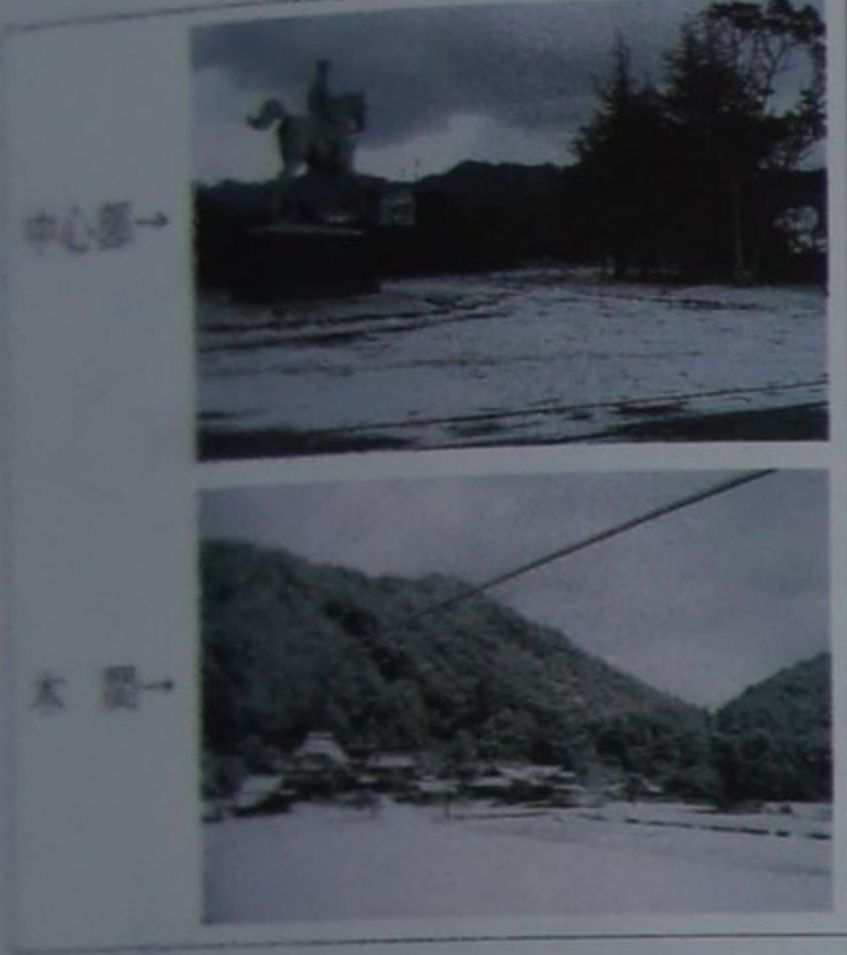
(4) 航空写真

萩市三角州

1947年（昭和22）
アメリカ軍撮影
（国土地理院蔵）



2 萩市の冬の風景



気温
℃

30
20
10
0
-10

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

最高気温 最低気温

12.7℃ 15.4℃ 17.3℃

1752.2mm 1752.2mm 2457.0mm

見島 (見島 標高182m)

また、見島の平均気温は最高気温・最低気温の平均値。

また、見島の平均気温は最高気温・最低気温の平均値。

また、見島の平均気温は最高気温・最低気温の平均値。

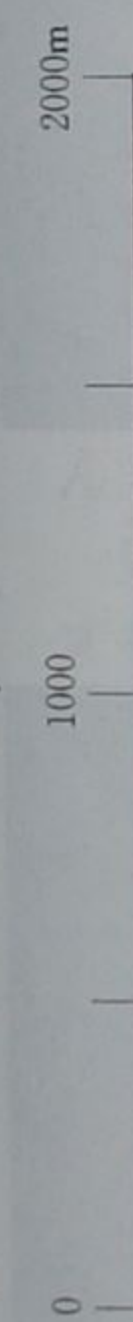


(3) 地形図 1:50,000

萩市三角州
1997年(平成9)



(5) 地形図 1 : 25,000



(6) 地区別航空写真



見 島 撮影年不明



大 島 1996年（平成8）



相 島 1997年（平成9）



大 井 1992年（平成4）



三 見 2000年（平成12）



木 間 1991年（平成3）

(7) 島と山間部のようす

見 島



集落のようす



見島ダム



子どもの成長を祈り正月にあげる鬼揚子



見島牛



ジーコンボ古墳群



石垣で囲まれた墓地

<歴史>

見島は、縄文時代から人が住み、奈良時代初期から大陸との交易で栄えた古い歴史を持ちます。本土を望む海岸には、ジーコンボ古墳群が分布しています。これは奈良時代後半から平安時代初期にかけての防人の指揮官の墓と考えられています。（6ページ参照）大陸に近い防衛拠点としての役割は長く、明治時代以降は海軍、終戦後は連合国軍、現在では自衛隊が基地を置いています。

<自然と産業>

見島は川内より広く、萩市で最も大きい島です。他の島は平らな形をしています。見島は形成された時期が違いため、平地が少なく山がちです。本村と宇津の2地区に分かれ、約1,200人が住んでいます。夏には観光や釣り、春・秋にはバードウォッチングの来島者にぎわいます。

見島には天然記念物が2つあります。見島牛は、離島で生育しているため他の種類のウシと混血することがなく、日本で最も古い和牛と言われている。小柄ですが力が強く、昔は役牛として農耕用に使われていました。また、見島のカメ（イシガメ、クサガメ）は、見島が本州から離れた頃から生き続ける生物の一つです。

おもな産業は、農業と漁業です。地形が山がちのため、昔の人々は棚田を作って山の奥まで利用してきました。また、大きな川がないのでため池を作り、農業用水を確保しました。しかし、水不足に悩んだり、干ばつにおそわれることが多く、苦勞が絶えませんでした。2002年（平成14）に完成した見島ダムは、農業用水や生活用水の確保に大きく役立っています。

農業では稲作だけでなく、キュウリの栽培もさかんです。平均気温が高いのでビニールハウスの暖房がいらず重油代がかからない一方、出荷に船賃がかかるため他の産地より値段が高くなるという欠点があります。しかし、年2回収穫したり、病気や連作に強いかぼちゃの苗に接ぎ木して育てたり、輸送中に品質が落ちないように鮮度保持用袋を用いるなど、品質で他の産地との競争に勝つ工夫をしています。

見島沖には、水深が浅い八里ヶ瀬というよい漁場があります。また島の周辺でもよく魚がとれ、ブリ、イカ、アマダイ、マグロ等の漁がさかんです。また、ウニやサザエ、アワビの素潜り漁もさかんです。しかし、他県や韓国の漁船も八里ヶ瀬で漁をするため、漁獲量の減少が心配されています。

相 島



港のようす



スイカ畑



葉たばこの乾燥場



集落のようす



壮観な段々畑



相島小・中学校

<歴史>

いつごろ相島に人々が定住し、生活を始めたのか正確な資料はありませんが、相島中村家所有の記録によると、平安時代の末期に島の西の海上に大日如来像とその他の仏像が漂着し、この仏像を安置するために大日如来堂が建てられたと伝えられています。また、1508年(永正5)の記録には、相島という地名が初めて現れます。しかし、相島ではなくて「優島」と記されています。「優」とは、「かすかに見える」という意味です。1889年(明治22)の市町村制施行により六島村のひとつとなり、1955年(昭和30)に六島村が萩市と合併し、現在に至っています。

<自然と産業>

相島は萩六島(大島、尾島、^{ひつしま}櫃島、羽島、肥島、相島)のうち萩港から最も遠いところにあり、片道で14.6kmあります。テーブル状をなしている相島は、そのほとんどが安山岩で形成されており、周囲は断崖絶壁です。北長門海岸国定公園に属しており、ライオン岩、^{とおりがはな}通ヶ鼻に代表されるように奇岩絶景の宝庫とも呼ばれています。現在、島の人口は約250人で、住宅のほとんどが中央部にあります。フィッシングスポットとしても有名で、釣りを楽しみに来る人も多く見られます。

おもな産業は農業と漁業で、多くの世帯が半農半漁で生計を立てています。農業ではスイカの栽培が有名です。5月下旬から8月下旬にかけて県内外へ糖度の高いスイカが出荷されます。連作障害などの問題も抱えていますが、品種の改良や日々のたゆまぬ努力により生産を維持しています。スイカと並んで葉たばこの栽培もさかんで、2001年(平成13)には相島たばこ乾燥場も建設され、今以上の生産の活性化を図っています。その他、さつま芋やブロッコリーなどの農作物の栽培もさかに行われています。

漁業は本島沿岸から見島周辺に及んでいます。経営種類は、たて網やもぐりが主で一本釣も取り入れられており、イカ、ウマヅラハギ、ブリ(ワカナ)、マグロ、サザエ、アワビ、ウニなど豊富な魚介類が水揚げされます。しかし、他の地域と同様、相島においても漁獲量の減少が心配されています。

また、少子高齢化にともない、島で農業や漁業に従事する人が激減しており、過疎化対策等、今後真剣に考えていかなければなりません。

大 島



集落のようす



七名塚



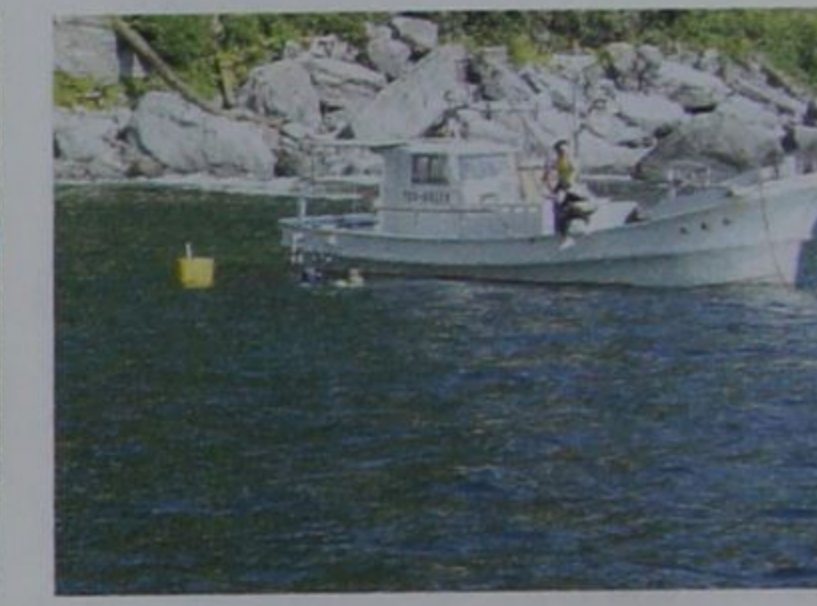
江戸時代中頃(1740年)の大島



葉たばこの収穫



まき網の水揚げ



漁師志願者の試験

<歴史>

いつごろ大島に人々が定住し始めたのかはわかりませんが、大島八幡宮は792年(延暦11)に豊前国(現在の大分県)の宇佐八幡宮から勧請されたと伝えられています。

大島には、下関の壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平家の武士7人が鎌倉時代の初めに流れ着いたという「大島の七名」^{しちみょう}伝説が語り継がれています。この七名は、豊田・貞光・池部・国光・長岡・刀祢・吉光といて、今でも大島には多い名字です。

また、1740年(元文5)に描かれた古地図からは、当時は農業中心の生活だったことがわかります。

<自然と産業>

大島は萩六島(大島、尾島、^{ひつしま}櫃島、羽島、肥島、相島)のうち最大の島で面積が3.09kmあり、人口1,000人あまりの半農半漁の島です。島はテーブル状になっていて、本州側斜面に民家が密集し、テーブルの上にあたる台地は農地として利用されています。2002年(平成12)には、本土からの上水道の海底送水が完成し、生活がより便利になりました。

おもな農産物は、葉たばこ、ブロッコリー、タマネギです。葉たばこの栽培は1932年(昭和14)に始まりました。今では県内有数の葉たばこの産地となっています。周囲を海で囲まれているために温暖で1日の温度変化が少ない気候と、アルカリ性で水はけがよい土壌が葉たばこの栽培に適しているのです。近年では、葉たばこの需要は減っていますが、逆に、品質のよいものを生産することで他の産地との競争に勝ち、収入は増えています。

大島の漁業生産額は約15億円で、県内の離島では最高額です。中型まき網漁業によるアジ漁がさかんで、7~8隻の漁船に17~18人が乗り組み、船団を組んで見島沖や相島沖に出かけて漁をします。大島にはこのような船団が4船団ありますが、これらの船団だけで6億円あまり(大島の漁業生産額の約41%)を水揚げしています。また、萩沖の浅瀬で獲れるアジを「萩の瀬つきあじ」と名づけ、ブランド化して売り出しています。

このような新しい経営方法に取り組んでいるため、漁業従事者1人あたりの漁業生産額は県内平均369万円に対し、大島は518万円と高くなっています。また、40歳未満の漁業従事者の割合をみても、県内平均は9%と後継者が不足している中、大島では27%と後を継ぐ若者が非常に多いのも特徴です。2002(平成14)には都市部の若者を対象とした漁師就職試験が開催され、20~30代の12名が受験しました。試験の合格者1名は2年間大島で研修を受けた後、漁師として生活します。このように、大島は離島という環境にも関わらず、活気にあふれた島となっています。

木 間



田園風景



モーモーファームの牛舎



ビニールハウスでのネギ栽培



冬のようす



平家の落人伝説と女屋敷



神代の舞

<歴史>

木間には、平安時代末期に下関の壇ノ浦で源氏に敗れた平家の武士や女官たちが逃れて来て隠れ住んだという落人^{おちうど}の里伝説があります。また、女屋敷という集落は、女性の長者が屋敷を構えていたためこの名がついたといわれています。

毎年、春、夏、秋には若宮神社^{かみよ}に神代の舞が奉納されます。これは江戸時代に京都や大阪から習い伝えられた、農作物の豊作を祈る舞です。地区内の幼・小・中学生の男子も舞子として踊ります。

<自然と産業>

木間は旭村、美東町、三隅町に囲まれ、面積のほとんどを山林が占めています。山間にいくつかの集落が点在しており、200人ほどが住んでいます。高齢者の割合が34%（萩市全体では26%）と高いのが特徴です。

おもな産業は農業で、稲作が中心です。2002年（平成14）には国・県・市が協力して建設した萩木間畜産団地（愛称HAGI-KOMAモーモーファーム）が完成しました。ふんを乾燥させて牛の寝床に再利用する設備や、干し草を丸めて発酵させる大型機械、乳牛から自動的に乳を搾る設備など、牛乳・牛肉を大規模で効率よく生産するための設備が整っており、畜産団地としては県内最大規模のものです。2002年現在、乳牛を飼育する農家、肉牛を飼育する業者、肉牛用の子牛を飼育する農家が1軒ずつ入居しています。

ビニールハウスを使ってネギを水耕栽培する農家もあります。水耕栽培とは、土ではなく、栄養や水質を調節した水で植物を育てることをいいます。この農家では、地下水をくみ上げ、ビニールハウス2棟を使ってネギを栽培しています。ネギは、夏は40日、冬は90日ほどで出荷できる大きさに成長するため、1つの栽培用ベッドで1年に6～7回収穫できる生産効率のよい野菜です。また、木間は山間部なので夏は涼しく、暑さを嫌うネギに適した生育環境にあります。寒さの厳しい真冬以外の1年中収穫し、「木間里のねぎ^{こまのり}」としておもに萩や山口市に出荷しています。この新しい取り組みは、山口県では三隅町や周辺の若い農家が集まって始めたもので、萩木間畜産団地とともに、木間の農業を活性化する取り組みとして注目されています。

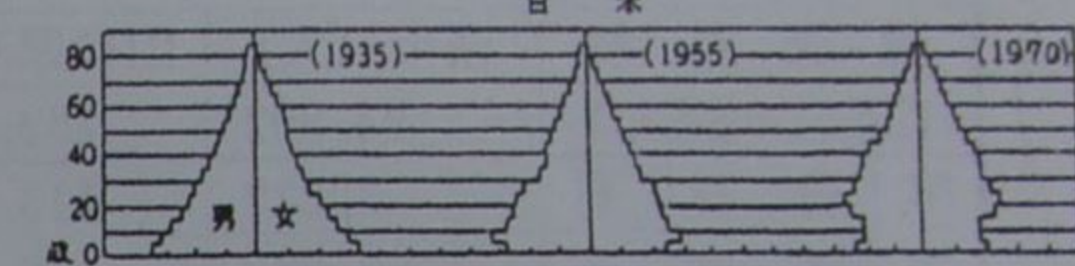
2 人口のようす

(1) 萩市の人口の推移

1 萩市の人口 ※2000年（平成12）国勢調査（単位：人）

	総 数	男	女
合 計	46,004	21,025 (45.7%)	24,979 (54.3%)

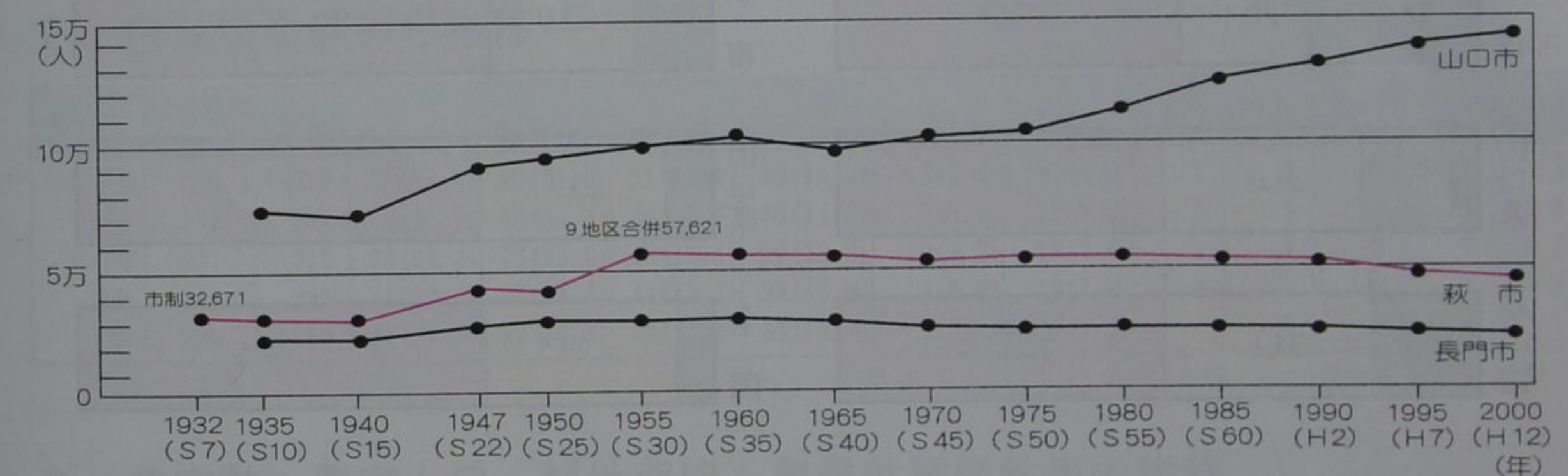
〔参考〕日本の人口ピラミッドの推移



2 人口ピラミッド「5歳階級男女別分布」



3 人口の推移



※資料提供：萩市役所総務部企画課統計係

萩市が1932年（昭和7）に市政をしいた時の人口は32,671人でした。そして1955年（昭和30）近隣の9地区が合併した時の人口は57,621人となりピークを迎えますが、以後徐々に減少し、1995年（平成7）の国勢調査ではついに5万人をわることになりました。

人口ピラミッドについては、その形から国や地域の年齢別の人口分布の特色が読み取れます。わが国では、第2次世界大戦までは典型的な「富士山型」でしたが、戦後出生率・死亡率が低下していったことにより、「つりがね型」となり、自然増加の著しく少ない状態が続き「つぼ型（紡錘型）」となりました。しかし、地域別に見るとその形は様々な特色を示しています。たとえば、人口流入の多い都市部では20～30歳代が多い「星型（ひし形）」、人口流出の多い農村部では20～30歳代が少ない「ひょうたん型」を示します。

萩市はおおむね「ひょうたん型」と読みとれますが、ひょうたんの上部が異常にふくらんだ「逆さひょうたん型」といえます。近年の少子高齢化を反映した形といえますが、将来的には、様々な問題がでてくることが予想されます。

(2) 産業別人口

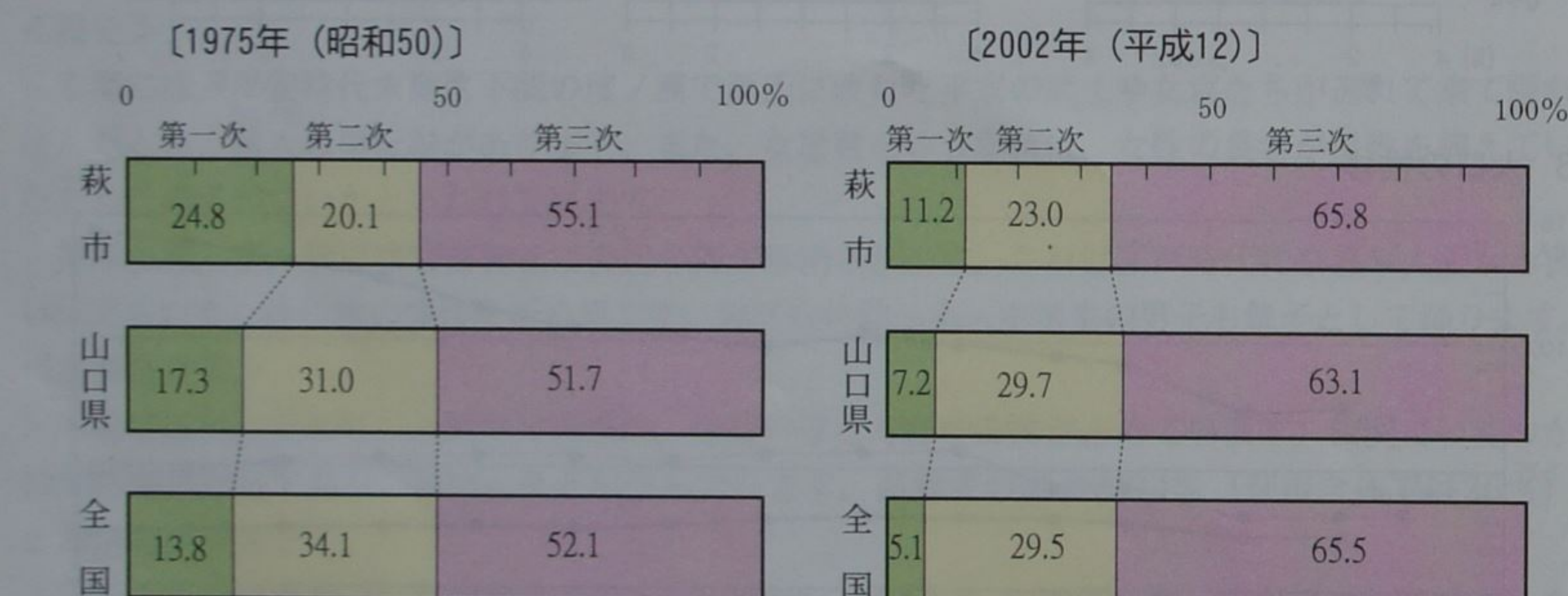
1. 産業別人口（15歳以上）

※各年度：国勢調査
※資料提供：萩市市役所総務部企画課統計係

年 次		1 9 7 5 年（昭和50）			2 0 0 0 年（平成12）		
調 査 対 象		萩市（人）	山口県（人）	全国（千人）	萩市（人）	山口県（人）	全国（千人）
15歳以上の就業人口		24,902	762,617	53,141	23,086	746,704	62,978
第 一 次 産 業	農 林 業	3,222	113,454	6,871	1,382	45,985	2,919
	水 産 業	2,960	18,162	475	1,205	7,909	253
	%	24.8	17.3	13.8	11.2	7.2	5.0
第 二 次 産 業	建 設 業	2,074	76,600	4,861	2,783	89,357	6,343
	製 造 業	2,935	159,923	13,245	2,537	132,677	12,228
	%	20.1	31.0	34.1	23.0	29.7	29.5
第 三 次 産 業	卸 売 小 売	5,588	147,063	11,372	5,129	159,375	14,319
	金 融 関 係	495	17,680	1,755	593	21,629	2,505
	運 輸 通 信	1,600	64,569	3,365	1,507	48,977	3,902
	※サービス	4,733	124,068	8,749	6,806	199,156	17,265
	そ の 他	1,345	40,419	2,280	1,144	41,639	3,244
	%	55.1	51.7	52.1	65.8	63.1	65.5

※サービス業（狭義のサービス産業）：洗濯・理容・欲場業、旅館・宿泊所、娯楽業、修繕業、物品貸借業、放送業、情報サービス業、広告業、医療・宗教・教育等の事業、社会保険・社会福祉等

2. 産業別就業者の割合



産業別就業者の割合は、15歳以上の人口から非労働力人口（主に高齢者・学生）をひいた人口をもとに表した比率です。山口県や萩市では、働くことができる人口が減少していく傾向がうかがえます。

資料2から、萩市は昔も今も全国と比べ、第一次産業に従事する人口、とりわけ水産業にたずさわる人口が多いことがわかります。これは、玉江、小畑、越ヶ浜、大井をはじめ多くの漁港が存在し、減少してはいるものの、伝統的に漁業が受け継がれてきているからです。

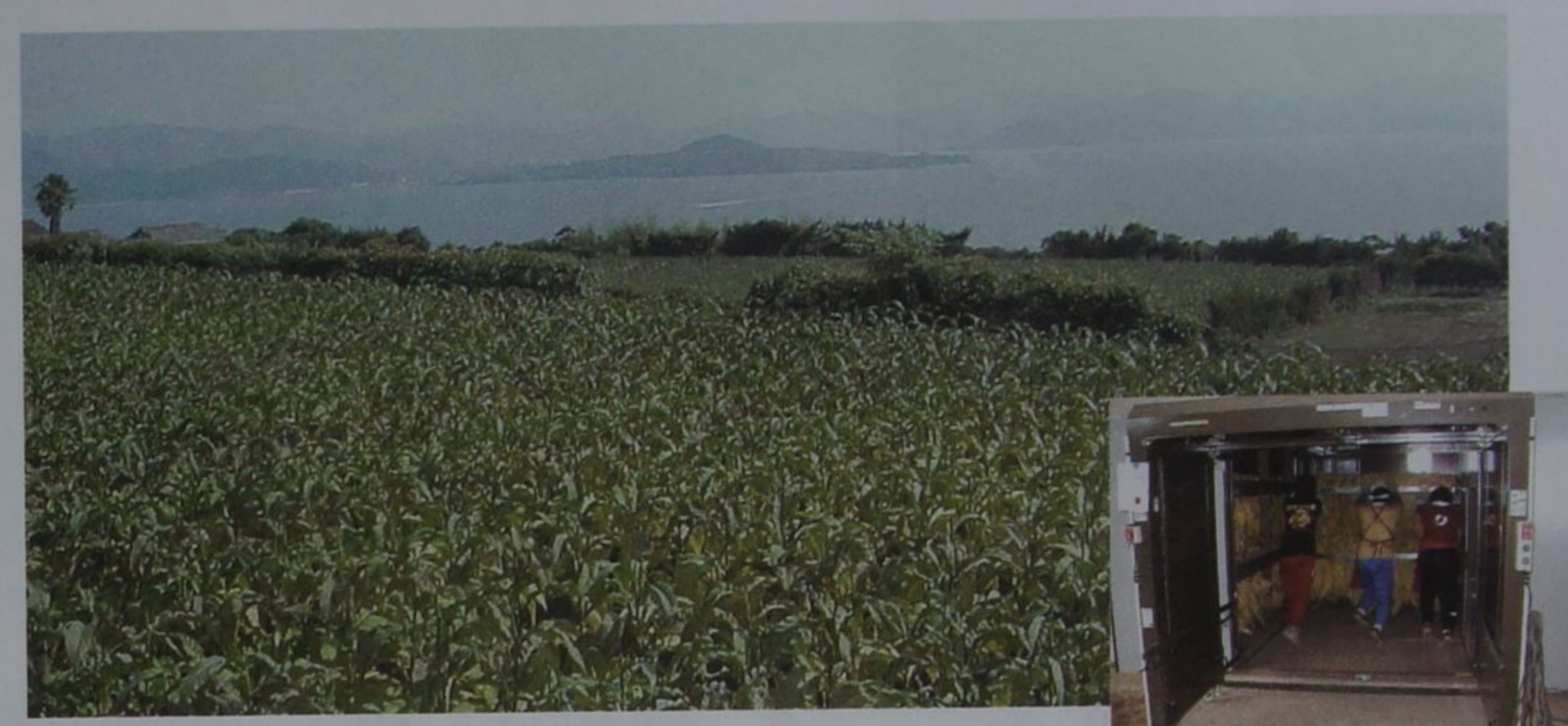
また、第二次産業の比率、とりわけ製造業の比率が低いというのが特徴です。これは、萩市に工業製品をつくる企業が少ないからだといえるのですが、その原因として、工場を誘致する土地や、高速交通網等の環境が整っていないためと考えられます。

また、第三次産業の「※サービス」が比較的高い伸びを示していますが、これは観光地特有のホテル業や遊戯・娯楽業の増加が原因と考えられます。また、近年では社会福祉施設の増加もあげることができます。しかし、全国的にもこの「※サービス」は高い伸びを示す傾向にあるのは注目すべきところ です。

3 産業や生活のようす

(1) 農業のようす

1 大島のたばこ畑



一面に広がる大島のたばこ畑です。（奥に見えるのが笠山。）葉たばこは4月頃に定植し、6～8月にかけて収穫されます。収穫された葉たばこは、100～120度の火力乾燥作業を行った後、日本たばこ産業（J T）に納入されます。右下の写真は、刈り取ったたばこの葉を乾燥機に入れる作業をしているところです。

2 農業生産額等の推移

（単位：千万円）

年 次	粗精算額 合 計	作 物						畜 産					
		小計	米(%)	野菜(%)	果実(%)	工芸作物(%)	その他(%)	小計(%)	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他
平成7年	285	272	73(25.6)	90(31.6)	51(17.9)	45(15.8)	13(4.6)	14(4.9)	3	4	3	1	3
8年	252	237	63(25.0)	86(34.1)	39(15.5)	36(14.2)	13(5.2)	14(5.6)	3	5	3	1	2
9年	237	219	53(22.4)	73(35.0)	43(18.1)	29(12.2)	10(4.2)	18(7.6)	3	4	2	7	2
10年	249	231	51(20.5)	88(35.3)	44(17.7)	39(15.6)	16(6.4)	18(7.2)	6	0	0	X	3
11年	226	209	49(21.7)	82(36.3)	32(14.2)	37(16.3)	9(4.0)	17(7.5)	7	0	0	X	1

（資料：山口農林水産統計年報）

3 農家数・農家人口・耕地面積・農業就業者数等の推移

年 次	農家数 (戸)	内 訳					農家人口 (人)	農業就業 者数(人)	耕 地 面 積(ヘクタール)				一戸当 たり耕 地面積 (7-ル)
		専業農家 (%)	兼 業 農 家			計			計	田(%)	畑(%)	樹園地 (%)	
			計(%)	1 種	2 種								
1980年 (昭55)	2,640	419 (15.9)	2,221 (84.1)	495	1,726	10,715	3,706	1,520	723 (47.6)	350 (23.0)	447 (29.4)	58	
1985年 (昭60)	2,315	462 (20.0)	1,853 (80.0)	276	1,577	9,064	3,257	1,346	656 (48.8)	351 (26.1)	338 (25.1)	58	
1990年 (平2)	1,861	428 (23.0)	1,433 (77.0)	303	1,130	7,044	2,664	1,198	631 (52.7)	291 (24.3)	276 (23.0)	64	
1995年 (平7)	1,690	422 (25.0)	1,268 (75.0)	195	1,073	5,943	2,325	1,125	579 (51.4)	290 (25.8)	256 (22.8)	67	
2000年 (平12)	1,007	249 (24.7)	758 (75.3)	130	628	2,360	1,595	1,001	512 (51.1)	274 (27.4)	215 (21.5)	99	

（資料：農業センサス）

萩市は農業がさかんな地域です。米の他にも野菜や果実、工芸作物の生産が目立っています。特産物としては、萩市のシンボルとも言える夏みかん、大島の葉たばこ、相島のスイカ、見島のキュウリ、大井のタマネギなどがあげられます。しかし近年は、他地域同様、農家数や農業就業者数は激減し、後継者不足の問題が深刻になってきています。資料を参考にして、萩市の農業の変化を調べたり、全国や山口県と比較して萩市の農業の特色をまとめてみましょう。

4 萩市の特産品

大島のブロッコリー



たばこ栽培農家の経営安定策の一環として導入された大島のブロッコリーは飛躍的に拡大し、ブロッコリーの中心産地として発展しました。

萩市の特産品夏みかん



夏みかんの生産は、明治維新後、士族救済のために始まりました。堀内地区の建物や庭園はほとんどが取り壊されましたが、土堀は夏みかん畑を守るために残されました。

大井のタマネギ



大井産のタマネギは、1つ1つ手で磨き上げられ、表面が黄金色に輝く「磨きタマネギ」として、市場から最高の評価を受けています。収穫は4～6月ですが、貯蔵がきくため5～10月の間出回ります。

相島のスイカ



葉たばこが主な生産物だった相島で昭和40年代からスイカが作られるようになりました。豊富な労働力と水はけの良い土壌といった好条件が重なり、生産は大きく伸びています。

見島のキュウリ



日本海の暖流の影響と、粘土質の土壌を利用した見島のキュウリは島の農業生産高の50%以上を占める特産品として県内外に出荷されています。

5 農業の後継者を目指す高校生にインタビュー

私は現在、農業高校に通っています。今は白菜や二十日大根を栽培したり、養豚農家にホームステイをしたりして農業の勉強をしています。将来は勉強した成果を生かし、家の農業の手伝いをしたいと考えています。



(2) 漁業のようす

1 水揚げのようす



明け方、漁船から卸売市場に次々と魚が水揚げされていきます。水揚げされた魚は一匹ずつ手作業で種類別に仕分けされます。

2 年間水揚げの推移

(単位：t、万円)

年次	計		魚類		貝類		水産動物		藻類		遠洋漁業	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
平成 8年	9,329	780,451	6,497	367,896	313	45,111	847	115,772	4	797	1,668	250,875
9年	8,346	720,742	5,714	370,438	340	42,457	779	120,283	6	971	1,507	186,593
10年	9,909	643,213	7,561	357,577	335	36,317	792	114,074	3	498	1,218	134,747
11年	7,612	575,490	5,149	281,934	327	36,695	882	117,148	5	651	1,249	134,062
12年	8,224	570,513	5,903	309,719	304	35,984	717	100,857	8	791	1,292	123,162

(資料：萩市水揚げ調査)

* 水産動物：ウニ、タコ、イカ等

近海的好漁場に恵まれた萩市は、県内では下関市とともにトップクラスの総生産額を誇っています。越ヶ浜や玉江浦、大井湊は東シナ海でのアマダイ延縄、黄海でのフグ延縄、イカ釣り、大島や越ヶ浜の大型定置網漁業、見島や大井浦の浅海漁業、大井浦の加工事業など、各種の特色ある漁業が行われています。また、阿武川や大井川で行われるアユ漁や松本川で行われるシロウオ漁は季節の風物詩としてもよく知られています。しかし、水揚げ金額は年々減少しています。中でも遠洋漁業における水揚げ金額の減少が大きな原因であることが、上の表から読み取れます。

2001年(平成13)、阿武萩の14漁協が広域合併を行い、阿武萩漁業協同組合が発足しました。この合併により、新漁協は組合員数、貯金高、販売取扱高で県下1位、全国でもトップレベルの組合となりました。

3 山口はぎ水産物地方卸売市場のようす



車両の乗り入れ防止（段差）
と靴底消毒用プール

午前2時、一番せりがはじまります。14漁協の合併に伴い、市場統合を目指した新卸売市場「山口はぎ水産物地方卸売市場」が完成しました。一元集荷による漁価の向上を目指すとともに、消費者に安全で新鮮な水産物を提供することを目的に、防鳥対策、車両消毒装置、海水殺菌装置等の高度な衛生管理設備が施されています。

4 萩の春の風物詩「シロウオ漁」 5 漁業にたずさわる人にインタビュー



シロウオは体長5cmほどのハゼ科の魚です。春の訪れとともに産卵のため川に上がってきます。

萩は漁業環境に大変恵まれています。水揚げされた魚の8割は関西方面に出荷され、おいしい魚として高い評価を得ています。しかし、後継者不足等の問題から水揚げ高は年々減少しています。私たちは漁業の活性化を目指し、努力しているところです。



6 どこよりも元気な大島の漁業

大島の漁業は、山口県でも指折りの業績を上げています。この島では家業を継ぐ10代から30代の若者が非常に多く、島民の約30%を若者で構成しています。さらに近年はUターンして戻ってくるケースも増加しており、全国の漁業において深刻な問題である後継者問題はあまり気にならないほどです。下の表で、大島と他地区を比較すると、その違いがよくわかると思います。

漁業地域別就業者数および年齢構成

		(単位：人)							
漁業地区名	計	19才以下	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才以上	
萩市	1,356	7	63	108	291	358	403	126	
大井	113	0	4	6	28	34	31	10	
大井浦	63	0	0	0	4	23	31	5	
大越	226	3	18	40	61	41	41	24	
小越	331	0	19	27	71	87	102	25	
越後	59	0	7	1	12	22	13	4	
小萩	160	4	7	20	42	49	28	10	
江浦	92	0	6	6	12	18	32	18	
見島	114	0	1	3	8	37	51	14	
宇津	112	0	1	3	22	22	51	13	
(見島)	86	0	0	2	31	31	23	5	

(資料：平成10年漁業センサス)

(3) 商業のようす



買い物客でにぎわう市の中心部



街の中にあるコンビニエンス・ストア



観光客の多い土産店



古風な萩焼販売店



郊外に広がる店舗

城下町として発展してきた萩市は、今も「樽屋町」「米屋町」「塩屋町」など、昔ながらの地名を残しています。江戸時代の商業の中心は、現在の呉服町周辺であったといわれています。以後、東田町周辺へ移ってきました。最近では広い駐車場をもつ大規模な小売店が進出し、その周辺には多くの専門店が集まり、商業の中心地となっています。また、24時間営業のコンビニエンス・ストアも進出し、スーパーの中にも24時間営業する店舗もできました。

漁業がさかんな萩市は、新鮮な魚介類や塩干物、伝統工芸の萩焼を販売する店舗が多いことが特色です。これらの店舗の中には、大型バスが入る広い駐車場をもつ観光客めあての店舗や工場を一体化し、工場内を見学できるような店舗も少なくありません。自動車の普及とともに商業も大きく様変わりしてきたといえます。また、伝統的建造物が多く残る堀内地区では、周囲の景観を配慮した古風な萩焼販売店や喫茶店もあります。



現在の田町商店街のようす



田町イベント広場

田町商店街の復興にたずさわる人にインタビュー

以前は活気がありにぎわっていましたが、大規模な小売店舗の進出に車社会が発達し、閉店する店舗が増えてきました。また、後継者不足のため、閉店後も新規に店を開かずにシャッターを下ろしたままの店舗も少なくありません。お客さんを多く呼び寄せるため、無料駐車場をつくったり、夏の土曜市、七夕祭り、秋の萩焼祭りなどのイベント開催するなどの工夫をしています。また、お客さんのニーズにあわせた店舗を多くつくればと考えています。



1980年頃までは、田町商店街は買い物客でにぎわっていました。しかし、大規模な小売店の進出により閉店する店舗も増えてきました。そのため、田町商店街は復興のための努力をしていますが、アーケードという立地条件のもとでは大幅な改装や店の拡張が難しいなどの問題も多くかかえています。また、土原商店街も市の中心部にあるものの、閉店したり、大規模小売店内の一角に店をかまえるなどの傾向があります。理由としては田町商店街と似た面があり、復興が期待されています。

このように、萩市の商業は観光業を軸にしながら、市民のニーズ（要求）にも対応しているという両面をもっているといえます。この傾向は今後も続くものと思われ、同時に活性化に向けてさまざまな取り組みをしている田町商店街の復興も市民に期待されています。

(4) 工業のようす



盛んな水産加工業



柑橘類の加工場



夏みかん加工製造のようす



観光客に人気の高い夏みかんの加工品

水産業や観光業が中心であるため、工業はかまぼこなどを製造する水産加工業や土産品の製造が主です。生産から販売を一本化した観光客めあての大規模な水産加工業の店舗もあります。「えそ」を使ったかまぼこは絶品で県内を中心に販売されています。特に、「萩の瀬つきあじ」、「萩の甘だい」は日本海・萩沖の逸品です。また「萩の焼き抜きかまぼこ」は元祖といわれ、初代藩主毛利秀就の時代から、萩名産の一つです。道の駅「しーまーと」では水産加工品だけでなく新鮮な魚介類が販売されており、観光客だけでなく地域の人々も多く利用し、いつもにぎわっています。

夏みかんと土堀は萩の象徴です。萩市はわが国で初めて夏みかんの経済栽培をし、産業の中心として発達してきました。現在、夏みかんの栽培は以前に比べて下火となったものの、夏みかん畑は市内の各所に見受けられます。加工品の中でも丸漬け、ジュース、マーマーレードなどは全国的に有名で、東京や大阪の大都市や遠くは東北地方へも出荷している企業もあります。

山陽側とは異なり、萩市は原材料や、製品の輸送に不便なため、重工業はあまり発達していません。第二次産業に従事している人口の割合が少ないのも、このためです。高速交通網が整備されると、先端工業の進出などが期待され経済の活性化につながっていくものと思われます。

(5) 伝統産業「萩焼」のようす



職人による萩焼づくり



登り窯のようす

萩焼の歴史

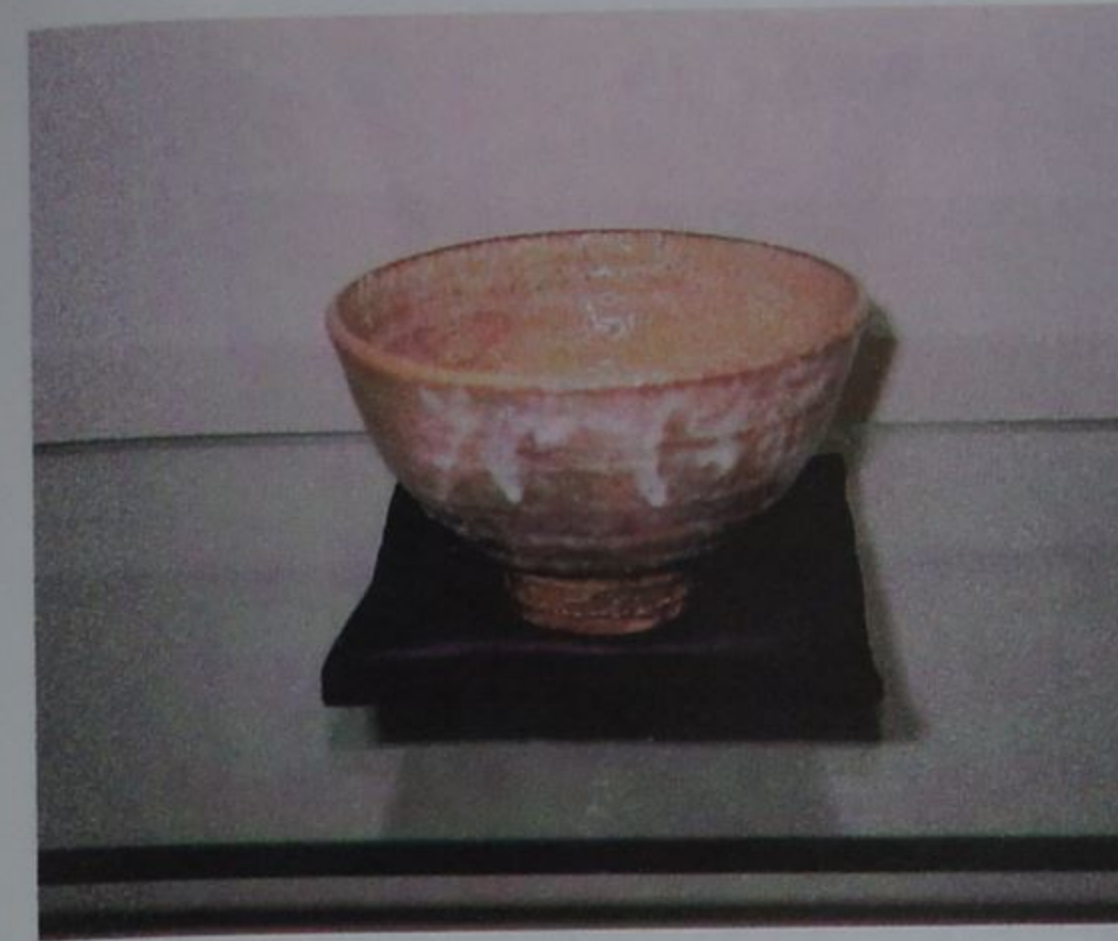
1593年(文禄2)	朝鮮の陶工「李勺光」が日本に連れて来られる。
1604年(慶長9)	この頃松本中ノ倉に李勺光・李敬が藩の御用焼き物所を開窯する。
1625年(寛永2)	李敬(日本名:坂助八)は藩主より「坂高麗左衛門」の名をたまわる。
1663年(寛文3)	三輪忠兵衛利定(初代の三輪休雪)が藩に召し抱えられる。
1717年(享保2)	この頃から大道士(防府市の土)が萩焼に用いられるようになる。
1882年(明治15)	この頃から萩焼は衰退していく。
1956年(昭和31)	山口県指定無形文化財萩焼保持者として、12代坂倉新兵衛、10代三輪休雪が認定される。
1970年(昭和45)	三輪休和(10代休雪)が重要無形文化財萩焼保持者(人間国宝)に指定される。
1982年(昭和57)	吉賀大眉が芸術院会員となる。
1983年(昭和58)	11代三輪休雪が重要無形文化財萩焼保持者(人間国宝)に指定される。
1990年(平成2)	吉賀大眉が文化功労者に選ばれる。
2000年(平成12)	「萩焼400年展」パリで開催。
2001年(平成13)	「萩焼400年展」東京、京都、福岡、萩で開催。
2002年(平成14)	萩焼が国の伝統的工芸品に指定される。

茶器の世界では「一楽二萩三唐津」という有名な言葉があるように、萩焼はわが国屈指の焼き物です。色などで飾り立てることもなく、火で焼かれた土の色合いという素朴さが特徴です。表面はつややかで淡紅色を帯び、枯淡さと重厚感にあふれています。茶器・酒器・花瓶等が作られていますが、特に茶器が優れ、使えば使うほど細かいひび割れに茶がしみ込み、しだいに色が変化していきます。これを「七化け」とよんでおり、萩焼の魅力になっています。

萩焼発祥の地である松本中ノ倉で焼かれたものを「松本焼」と称し、後に設けられた長門深川三之瀬の窯で焼かれたものを「深川焼」と称し、さらに近年になって両者を「萩焼」と称するようになりました。藩の御用窯であったため、一般庶民に普及するのは後のことになります。

明治になり、藩の保護が断ち切られた旧御用窯は苦境に立たされました。また、瀬戸や有田で陶磁器の大量生産が開始されたことや、明治以降の不況にも見舞われ、第二次世界大戦が終わるまで、萩焼にとって苦しい時代が続きました。

戦後、昭和30年代の高度経済成長のもとで、国民の生活にも少しゆとりができました。茶道の広まりに伴う萩焼の需要の増大は、萩焼ブームを巻き起こし、萩市内の窯元にもわかに増え続け



伝統的な作品



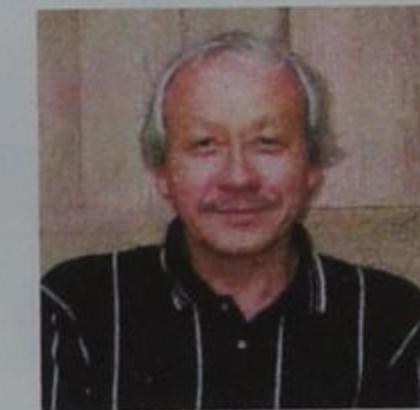
前衛的な作品

萩焼の陶芸家にインタビュー

萩焼独自の土味を生かしながらも、自分なりの「かたち」を創り上げ、釉薬を含めた炎の妙味の追求を心がけています。

萩焼の陶土は、焼き上がるまでに約20%収縮します。中でも、砂入りの陶土(鬼萩土)は特に粘り気も少なく、ロクロ形成では熟練を要します。また、焼き上げる際の炎のあたり具合で発色も異なります。特に、登り窯は、その日の風の方向や強さ、湿度などでも焼き上がり方が左右されるので注意が必要です。今まで100回以上登り窯を炊きましたが、一度も同じ条件で炊き終えたことはありません。いつも、神に祈りつつ、火を入れています。

今後、生活に即した新しい用(実用性のあるもの)の美も求めていきたいと思います。



萩焼まつりのようす

ました。このような萩焼市場の拡大を支えたのが、技術の向上をめざす陶芸家の人たちの取り組みでした。

1970年(昭和45)には、萩焼が国の重要無形文化財に指定され、その技術保持者(人間国宝)として三輪休和(10代休雪)が認定されました。三輪休和は、萩焼の源流である高麗茶碗の研鑽を深めることで独自の世界をつくり、茶陶としての萩焼の評価をゆるぎないものにしました。また、1983年(昭和58)、11代三輪休雪は、伝統を受け継ぎながらも、すぐれた造形力と個性的な感覚で萩焼に新風をもたらし、人間国宝に認定されました。さらに、2002年(平成14)には、萩焼は国の伝統的工芸品に認定され、その文化的価値をいっそう高めています。

現代の萩焼は、伝統的な茶陶の制作だけでなく、陶芸家によっては、新しい作風で花器などの鑑賞陶芸やオブジェなどの前衛的陶芸にも取り組んでおり、その作品も多様化してきています。

萩焼の販売店は市内各所にあり、多くの観光客が萩観光の記念として、また、おみやげ品として萩焼を買って帰ります。5月の大型連休中には市内の販売店を一堂に集めた大即売市「萩焼まつり」(5月1日～5日)が開催され、毎年県内外からの多くの人々でにぎわっています。このように、400年の歴史をもつ萩焼は、萩をもっとも代表する特産品の一つになっているのです。

(6) 観光のようす



松下村塾を訪れた観光バスと観光客



レンタサイクルで散策する修学旅行生

観光客数の推移

年次	観光客数				県外客						
	総数	県外客	県内客	内宿泊客	中国	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
平成7年	1,403	1,263	140	657	173	40	149	282	149	197	273
8	1,458	1,239	219	613	170	30	146	276	146	193	278
9	1,592	1,353	239	645	340	35	453	265	69	99	92
10	1,436	1,221	215	597	286	35	267	270	117	231	15
11	1,302	741	561	542	156	41	209	134	53	129	19
12	1,267	1,006	261	524	121	55	234	181	94	236	85
13	1,450	1,329	121	530	140	56	291	271	34	331	206

萩市は、日本海に臨み、三方を山に囲まれ、清流阿武川が市街地を流れています。町全体が箱庭的風景をもち、日本の雰囲気に満ちた静かな町です。

町並みは、今なお江戸時代の典型的な城下町の姿をとどめ、市内のあちこちに明治維新胎動の舞台となった松下村塾や伊藤博文旧宅、高杉晋作旧宅などの数多くの史跡や文化財が残っています。さらに、夏みかんと土塀、武家屋敷の織りなす風物と市内に散在する萩焼の窯元は、萩の情緒をより一層魅力的なものにしています。

また、日本海に点在する大小の島々と海岸線の美を一望できる笠山からの展望は、長門市の青海島とともに北長門国定公園の絶景と称されています。

このように美しい自然と町並みに恵まれた萩市は、全国的にも有名な観光地であり、毎年全国から150万人前後の人々が訪れます。観光雑誌にも、いろいろなかたちで萩市が紹介されており、また、旅行会社の企画するツアー旅行の中にも萩観光を中心にしたものが多いです。観光客を相手にする観光業は、萩市の産業収入の中でも重要な割合を占めており、まさに「観光の町、萩」といえるでしょう。

かつて、萩観光は、中学や高校の修学旅行の定番コースでしたが、近年、修学旅行の多様化に伴い、訪れる修学旅行生が以前より減ってきています。また、宿泊客数についても、以前に比べかなり落ちこんでいる現状があります。その理由としては、修学旅行生の減少、自動車の普及や高



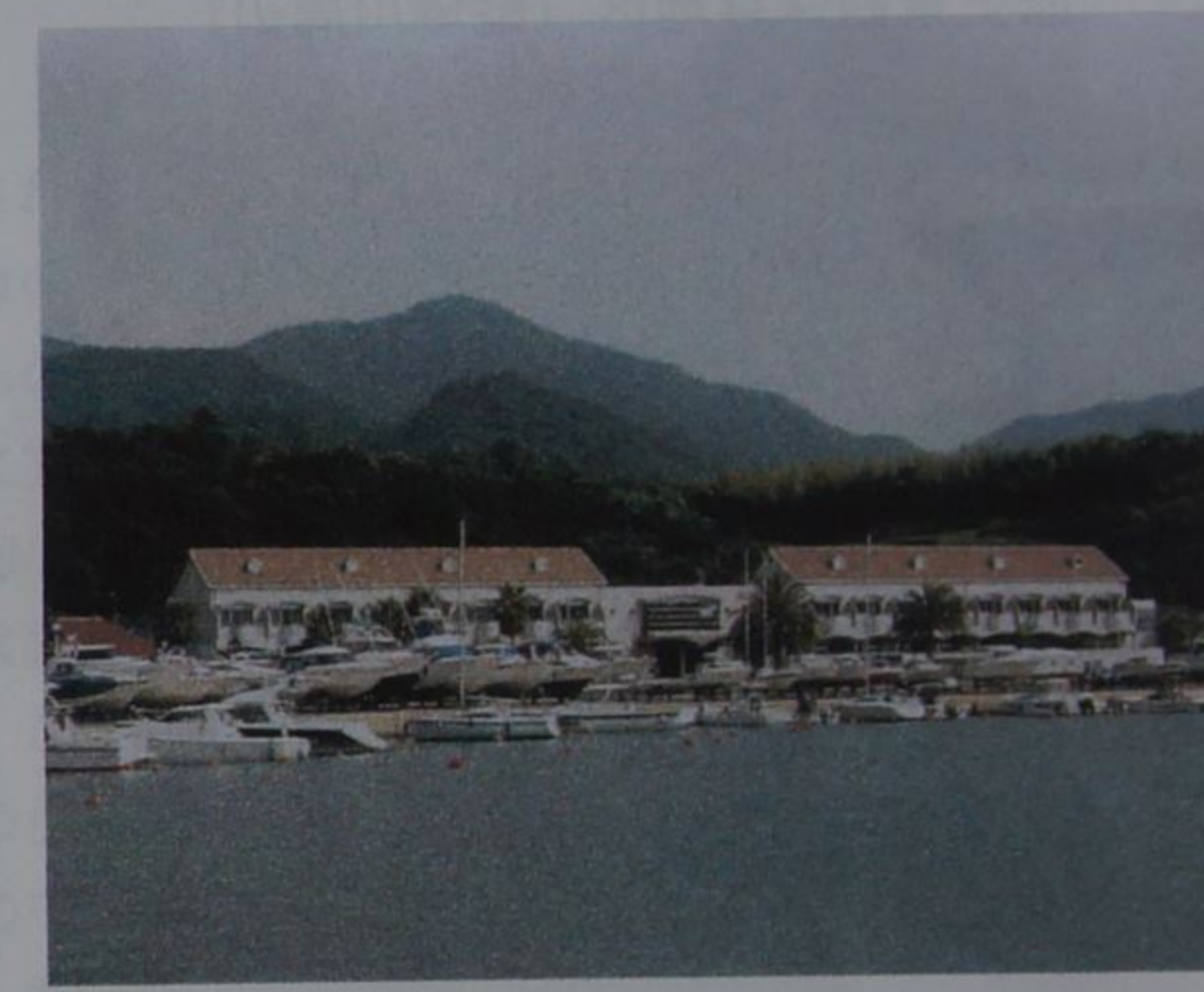
東萩駅周辺



萩博物館



和風旅館と洋風ホテル



リゾート風の宿泊施設

速自動車道の整備による日帰り旅行の増加、全国的な温泉ブーム、観光やレジャーの多様化などがあるようです。

これに対し、市としても、インターネットで観光情報を提供したり、観光宣伝隊を大都市に派遣するなど観光客誘致に努めています。

市内には、観光客相手の宿泊施設が多くあります。特に、東萩駅周辺、笠山周辺、松陰神社周辺、そして、古い町並みが多く残る三角州内の川内地区に、宿泊施設が集まっています。宿泊施設の立地条件としては、交通の便がよい場所、観光名所の近く、海や川の近くの景色のよい場所や古い町並みが残る萩らしい景観が見られる場所などがあるようです。

宿泊施設にも、ホテルや旅館、民宿、保養所などさまざまな種類があります。しっとりとしたおもむきのある和風旅館もあれば、若い世代が好みそうなしゃれた洋風ホテルもあります。また、天然温泉のある宿泊施設や、テニスコートや室内プールが備えられ、ヨットなどのマリンスポーツもできるリゾート風の宿泊施設もあります。萩市を訪れる観光客の多様なニーズ（要求）に対応して、各宿泊施設においても、施設・設備の面やサービス面での充実に努めています。

これからも、多くの観光客をあたたく迎え入れ、「また、訪ねてみたい」という気持ちを抱かせる、美しい自然と町並みのある、そして、人情あふれる観光都市をつくってきたいものです。

(7) 古い町並み保存のようす



歴史景観保存地区「藍場川周辺」



重要伝統的建造物群保存地区
「益田家物見矢倉周辺」



明倫小学校本館



まわりの景観に配慮した建造物
(萩西中学校)

毛利氏の城下町として260年間にわたり栄え、また、明治維新発祥の地でもある萩市には、古い町並みが残り、幕末から明治にかけて活躍した志士や政治家の旧宅や、当時の面影を伝える史跡をはじめ各時代の文化財が数多く残っています。萩が町であった頃から、その保存には力を入れてきました。1960年（昭和35）には「萩市文化財保護条例」を定め、市内にある国・県指定の文化財を保護・顕彰し、その活用を図ることにしました。これは、山口県内では初めてのことでした。

そして、1972年（昭和47）、萩市は「歴史的景観保存条例」を定め、これによって指定以外の歴史的景観や景観地区または保存家屋などを広い範囲で保護してきました。

さらに、1976年（昭和51）には都市計画によって「伝統的建造物群保存地区保存条例」を定め、古い町並み保存と景観の保全を中心とする町づくりのために積極的な整備を進めてきました。現在、堀内地区・平安古地区・浜崎地区が国の伝統的建造物群保存地区に指定されており、その数はわが国の古都である京都市について全国で2番目です。

指月山山麓から外堀跡までの堀内地区一帯は、江戸時代には上級武士が住んでいた所です。古びた土塀や武家屋敷の遺構が多く、重要伝統的建造物群保存地区・歴史的景観保存地区になっており、「夏みかんと土塀」という萩を象徴する景観もこの地域でよく見られます。

近年、新たに「文化財登録制度」が発足し、県内で初めて、『萩駅舎』『明倫小学校本館』が登録

歴史的景観保存地区の景観保存基準 (一部)

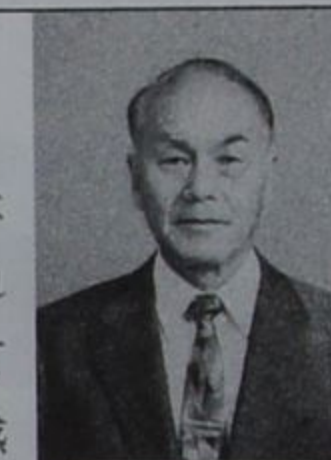
項目	建築物の具体的基準
外観	和風の歴史的雰囲気が醸し出されるものとする。
階数	2階建て以下とする
屋根	日本瓦又はこれに類するものとする。



景観を意識した自動販売機

堀内町内会長さんにインタビュー

歴史あるすばらしい環境の中に、今自分が住んでいることに大きな誇りと幸せを感じています。これまで、この歴史ある環境を守ってこられた地域の先輩のご努力に感謝したいと思います。



これからも、伝統的建造物の保存に対して、地域の住民の一人ひとりがさらに理解を深め、保存活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。そのためにも、月一度発行の「町内会だより」による啓発、町内会の組織である「伝建地区等を守る会」を中心とした環境美化活動の継続などを大切にしていきたいと思っています。

されました。これは、従来の文化財保護のための法律の対象となる文化財を近現代のものまで延長するものです。また、規制の枠を少しゆるめて、ただ単に文化財をそのまま保存していくのではなく、積極的な活用を考えて、そのための現状変更をある程度は認めていこうという制度です。

このように、行政の取り組みとして、古い町並みの保存や貴重な文化財の保護が様々に行われているのです。

歴史的景観保存地区や重要伝統的建造物群保存地区において、建築物や広告物などの新築、増築、改築を行う場合は、市長や教育委員会への届出や許可が必要になります。そして、市が定めた保存基準に

にもとづいて、工事が行われることになります。古い町並みの中に、ひときわ目立つ高い建物があったり、洋風づくりの家があったり、派手な色の大きな看板があると、せっかくの景観が台無しになってしまいます。そこで、まわりの景観と調和するように、建築物の外観、外壁、高さ、屋根などにおいて、細かい配慮が求められるのです。これには、市民や各事業所の理解と協力が欠かせません。

保存地区以外でも、萩市内の建造物を注意してよく見てみると、歴史の町としてさまざまな工夫や配慮がされていることに気づきます。例えば、街灯のデザインや地下道の入り口にしても、自動販売機やガードレールの色などにしても城下町の雰囲気に合ったものが使われています。

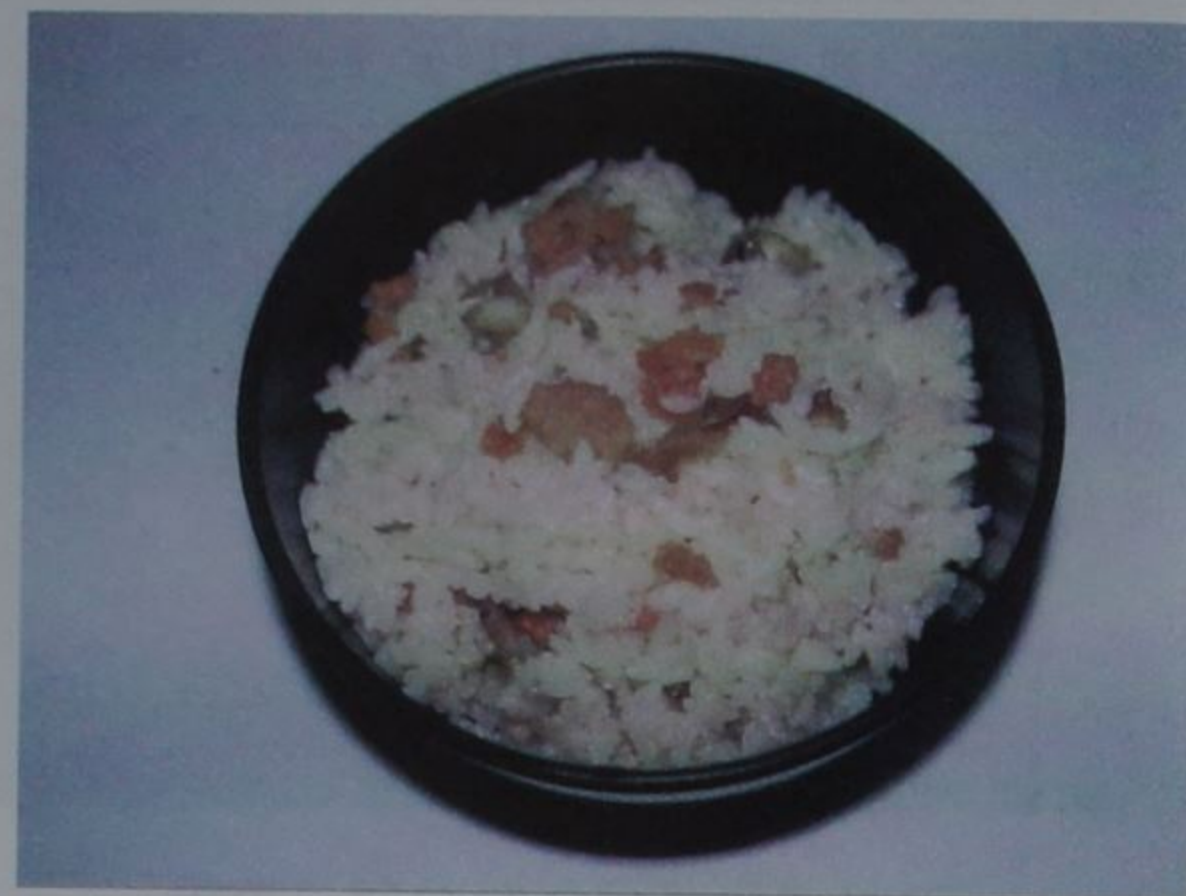
また、1984年（昭和59）から1987年（昭和62）にかけ、堀内の伝統的建造物群保存地区内の一部で道路の電柱を取り除く工事を行いました。この種の工事は県内では初めてのことで、歴史的街路にふさわしい景観がよみがえりました。

毛利氏36万石の城下町としての伝統をもち、古い町並みや数多くの史跡に恵まれた萩市は、近年、生きた歴史資料の町として注目され、その美しい自然のたたずまいとともに魅力ある町として、毎年多くの人々が訪れています。今後、これらの文化財は観光を支える貴重な観光資源という面だけでなく、萩市民の誇りとして、また、日本人の「心のふるさと」として愛護し、責任をもって次の時代に伝えていきたいものです。

(8) 郷土料理



おどり食い



うにめし



のっぺい



いとこ煮

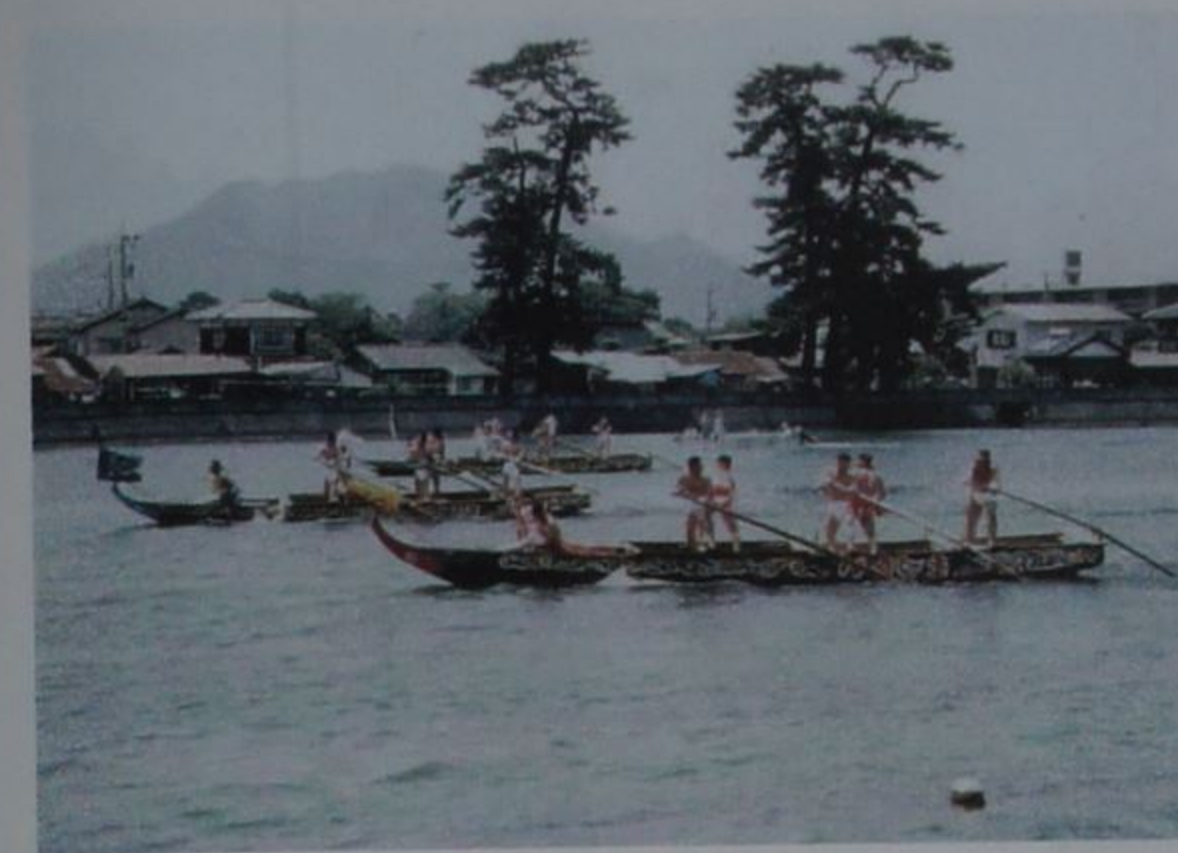
郷土料理は地域の自然の風土、特産物と深くかかわっています。季節によってもさまざまで、春のしろうおは四つ手網を使う独特な漁法で、風物詩となっています。中でもしろうおを生きのまま食べる「おどり食い」は名物になっています。産卵期の春から夏を中心としたうには、生うにだけでなく、瓶詰め塩うに、粒うにや「うにめし」も有名です。秋には里芋などの野菜を中心に煮込んだ「のっぺい」が食べられます。「いとこ煮」は冬だけでなく冠婚葬祭の席にも出され、萩を中心に山口県を代表する味の筆頭です。

また、地域によってもさまざまで、木間の白菜漬けや見島のうに料理は特産物を活かした郷土料理です。このようにそれぞれの郷土料理の生まれた背景があるわけです。

郷土料理以外にも、夏みかん菓子やかまぼこをはじめとする水産物加工品は、観光客にも人気があり土産物の代表的なものです。また、最近では「見蘭牛」、「瀬つきあじ」も有名になり市内のスーパーでもよく売られています。

(9) 祭と信仰のようす

1 おしくらごう



6月に玉江浦厳島神社大祭の奉納行事として行われる船競漕。

玉江浦地区に今でも残る漁業後継者の修行の一つである「おしくらごう」は江戸時代から行われており、レースに挑む姿は実に壮観です。

3 住吉祭り



浜崎住吉神社の住吉祭りは、1650年代より城下全域の夏祭りとして行われてきました。

現在も旧城下の町内が、交代で祭りに奉仕することになっています。御船や踊り車、御輿などが華やかに、また勇壮に街を練り歩きます。この御船の上で「お船謡」がうたわれます。

2 天神祭り



天神祭りとして親しまれる金谷天満宮祭礼には、江戸時代からさまざまな町内より山車や行列の奉納が行われてきました。

いわゆる大名行列と呼ばれる御備の行列もそのひとつで、華やかな所作を見るために多くの人が集り、祭りの特徴にもなっています。

4 管弦祭



越ヶ浜の厳島神社は、江戸時代(1677年)に安芸(広島県)の宮島から勧請したと伝えられています。

現在でも旧暦6月17日の夜、御輿を乗せた船や明かりを灯した船が、連なって海上を巡航する管弦祭(おかげん)が行われています。漁船2そうを横に並べてつくった舞台の上で「巫女の舞」が演じられます。

(10) 交通のようす



萩市の中心駅、東萩駅のようす



萩の玄関口、萩有料道路の料金所付近

萩市の交通のあゆみ

1912年(大正1)	萩～小郡間乗合自動車(防長自動車株式会社)が営業開始
1915年(大正4)	萩～山口間乗合自動車が営業開始
1925年(大正14)	東萩～長門三隅間の鉄道が開通
1929年(昭和4)	東萩～奈古間の鉄道が開通
1933年(昭和8)	山陰本線全線が開通 東萩～山口～三田尻間国鉄バス(現在のJR)の営業開始
1956年(昭和31)	(有)萩海運設立。見島航路が営業開始
1963年(昭和38)	山陰本線に特急「まつかぜ」が運行開始
1974年(昭和49)	萩～小郡間道路の完全舗装が完了 特急バス「はぎ号」運行開始
1981年(昭和56)	常盤大橋が開通
1990年(平成2)	萩～大阪間高速バスが運行開始
1992年(平成4)	萩有料道路が開通
1993年(平成5)	萩石見空港が開港
1996年(平成8)	「松陰大橋」が完成
1998年(平成10)	見島航路に高速船「おにようず」が就航
2000年(平成12)	萩循環まあるバス(松陰先生・晋作くん)運行
2002年(平成14)	国道191号の拡幅事業が完成

萩市の道路図



 国道
 主要地方道
 一般国道

萩市には、JR山陰本線の駅が7つあります。その中心駅が東萩駅で、1973年(昭和48)に城下町にふさわしいデザインで改築されました。東萩駅には、北浦唯一の特急「いそかぜ」も停車します。かつての山陰本線は、北浦の人々の重要な交通手段でしたが、近年、道路が整備され、自動車が急速に普及するにつれ、列車の利用客はしだいに減ってきています。この東萩駅と小郡駅新幹線口を約1時間20分で結んでいるのが、特急バス「はぎ号」(JRバス・防長バス)です。

山陰本線にほぼ平行な国道191号は、萩市と北浦の各市町村を結ぶ主要幹線道路です。2002年(平成14)には、メインストリートである市役所前の拡幅事業が完成したことで、市内の交通渋滞が緩和し、走行安全性も向上しました。現在、三隅・萩間の自動車専用道路の建設が進められています。

国道262号は、山口市を経て防府市に通じる山陰と山陽を結ぶ、最も重要な幹線道路です。この262号から分かれ、明木と萩の最短距離を結んでいるのが、萩有料道路です。毎日、多くの車が通行しており、有料道路の料金所は、さながら萩市の玄関口になっています。



見島と萩港を結ぶ
高速船「おにようず」



萩市民や観光客の大切な足
「まあるバス」



東京と萩を結ぶ高速バス

萩市から主要都市や観光地までの所要時間



日本海に浮かぶ見島、大島、相島との間には定期船が就航しており、島の人々の大切な交通手段になっています。見島航路には、1998年(平成10)より高速船「おにようず」が就航し、萩港と見島との間が約1時間10分と所要時間が大幅に短縮されました。このように、昔に比べ、ずいぶん離島と萩港を結ぶ交通は便利になってきましたが、冬場には日本海が荒れるため船が欠航する場合もあり、島の住民の生活は天候に大きく左右されます。

2000年(平成12)より、萩循環「まあるバス」が、市民病院や老人健康施設の郊外移転に伴う不便を解消し、また、点在する観光名所を結ぶ交通手段として運行を始めました。これまで路線バスが走っていない地区や、高齢者が多い地区を走り、市役所、市民病院、防長交通バスセンターおよび市中心部のJR各駅を結んでいます。東回りコース・西回りコースともに30分間隔で運行をしており、市内のあちこちでその姿を見かけます。誰もが気軽に利用できるように100円と運賃も安く、市民や観光客の足として大切な役割を果たしています。

萩市と大阪や東京などの大都市を直接結ぶ交通手段としては、高速夜行バスがあります。萩・大阪間を約10時間、萩・東京間を約13時間で結び、運賃も比較的安く、利用客も少なくありません。

萩市には、空の交通の拠点となる空港はありませんが、山口県と隣接する島根県益田市には空港があります。「萩・石見空港」と呼ばれるこの空港とは、バスで約1時間15分の距離にあり、空の便を生かしての観光客の誘致が期待されています。

(11) 「道の駅」のようす

「道の駅」とは、ドライバーが安心して利用できる休憩のための施設です。その「道の駅」が萩市に2つあることを知っていますか。ひとつは萩市の玄関口萩有料道路の料金所に併設された「萩往還公園」、そしてもうひとつは2001年（平成13）にオープンした「萩しーまーと」です。同一市町村に2つも道の駅があるのは、県内でも萩市だけです。まったく異なる性格を持った2つの「道の駅」からも萩市の性格をのぞくことができます。

1 道の駅「萩往還公園」



「松陰記念館」のようす

道の駅「萩往還公園」は、国道に面していない道の駅であること、文化施設（吉田松陰記念館）と併設されていることなど、全国でも類を見ない新しいタイプの道の駅です。萩市を訪れた人は、まずここに立ち寄るだけで萩市の雰囲気を感じ取ることができます。

2 道の駅「萩しーまーと」



連日多くの人で賑わう店内

漁協をはじめ、地元生産者が集結して運営している道の駅が「萩しーまーと」です。隣接する魚市場と直結することで輸送コストや中間流通コストがかからず、新鮮な魚介類を安価な価格で提供しています。観光客も、昔懐かしい市場のような雰囲気の中で地元価格で買い物ができるとあって、人気のスポットとなっています。

(12) 国際化の動き

ウルサン
蔚山市との交流の経緯（1993年以降）

1993年(平成5)	姉妹都市スポーツ交流会のため、萩市中学校選抜バスケットボールチーム訪韓
1994年(平成6)	蔚山市よりスポーツ団来萩、中学校男子バレーボール親善試合を行う
1995年(平成7)	萩市中学校選抜軟式野球チーム訪韓
1998年(平成10)	萩市民号蔚山広域市訪問(合計76名)
2001年(平成13)	萩市・蔚山広域市交流少年サッカー大会開催
2002年(平成14)	ワールドカップ萩市民号蔚山広域市訪問(合計81名)



蔚山市の中学生との交流（平成13年度）



萩国際大学の入学式のようす

本州の西の端に位置する山口県は、古くから大陸との結びつきが強く中国や朝鮮の文化の大きな影響を受けてきました。現在、中華人民共和国・大韓民国などの国々と日本との結びつきが深まる中で、アジア諸国と比較的近い距離にある山口県の重要性も、高まっています。

1968年（昭和43）10月、萩市は、韓国の蔚山市と姉妹都市の盟約を結びました。蔚山市は、人口約105万の韓国を代表する工業都市です。三国時代には新羅領域の中心地として栄えた古い歴史をもつ都市でもあります。

日本海をはさみ、日本と韓国間でもっとも近い距離にある両市が交流を深めていくことは、両国の親善だけでなく、両市の経済や文化の発展にもつながるものと期待されています。両国の明日を担う少年・少女の交流も、スポーツや文化面を中心に行われています。

1999年（平成11）4月、『歴史の町から未来へ発信 萩国際大学』というキャッチフレーズのもと、萩国際大学が開校しました。山陰地方唯一の4年制大学に対する地域の期待も大きなものがあります。萩市の地理的・歴史的・文化的な特色を活かし、国際的な視野に立って行動し、活躍できる人材の育成をめざしています。学生は国内だけでなく、大韓民国や中華人民共和国を中心にアジア諸国からの留学生を積極的に受け入れており、開校4年目には、約200名の数になりました。多くの留学生が、萩で気持ちよく4年間勉学・生活していくためにも、萩市民の温かい受け入れ体制の整備がぜひ必要です。

2002年（平成14）には、地域が抱える課題について、市民自らが中心となって考え、個性ある地域づくりを推進していこうという目的で「21はぎ市民会議」が発足しました。その中には、国際化部会も設置されており、国際化による地域の活性化、生活や企業の国際化、萩国際大学の留学生との交流による地域の活性化などが、市民レベルでも話し合われています。



東 光 寺



し ろ う お 漁

第3部 これからの萩市

活用にあたって

この第3部は、「萩市の行政のはたらき」「広域行政の取り組み」「萩市の将来展望」の三つの内容から成り立っています。

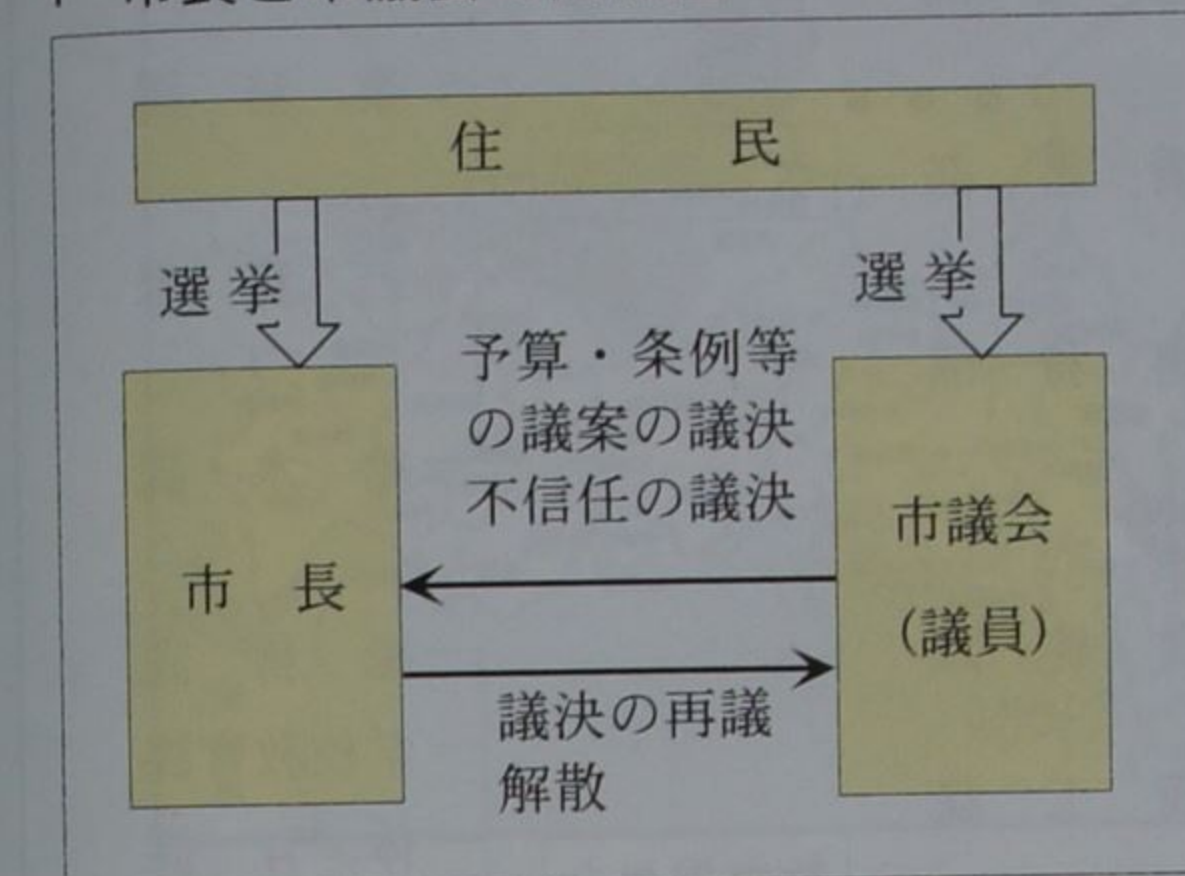
将来、みなさんは地域社会を築き支えていく一員となります。そのためにも、自分たちが生活している地域社会の政治のはたらきやしくみ、そして、地域社会が抱えている問題や力を入れて取り組んでいること、さらに、地域社会がめざしている将来像を学ぶことには大きな意味があると思います。自分なりのしっかりとした見方や考え方をもって地域づくりに参画できる、よき主権者をめざしてください。

みなさんの中には、これからもふるさと萩にとどまって生きていく人もいれば、いつかは萩の地を出て他の地域で生きていく人もいます。その生き方はさまざまでしょう。しかし、いずれにしても、みなさんにとって、萩がいつまでも大切な「心のふるさと」であることにはまちがいません。いつまでもふるさと萩を愛する人であってほしいと願っています。

これからの萩市

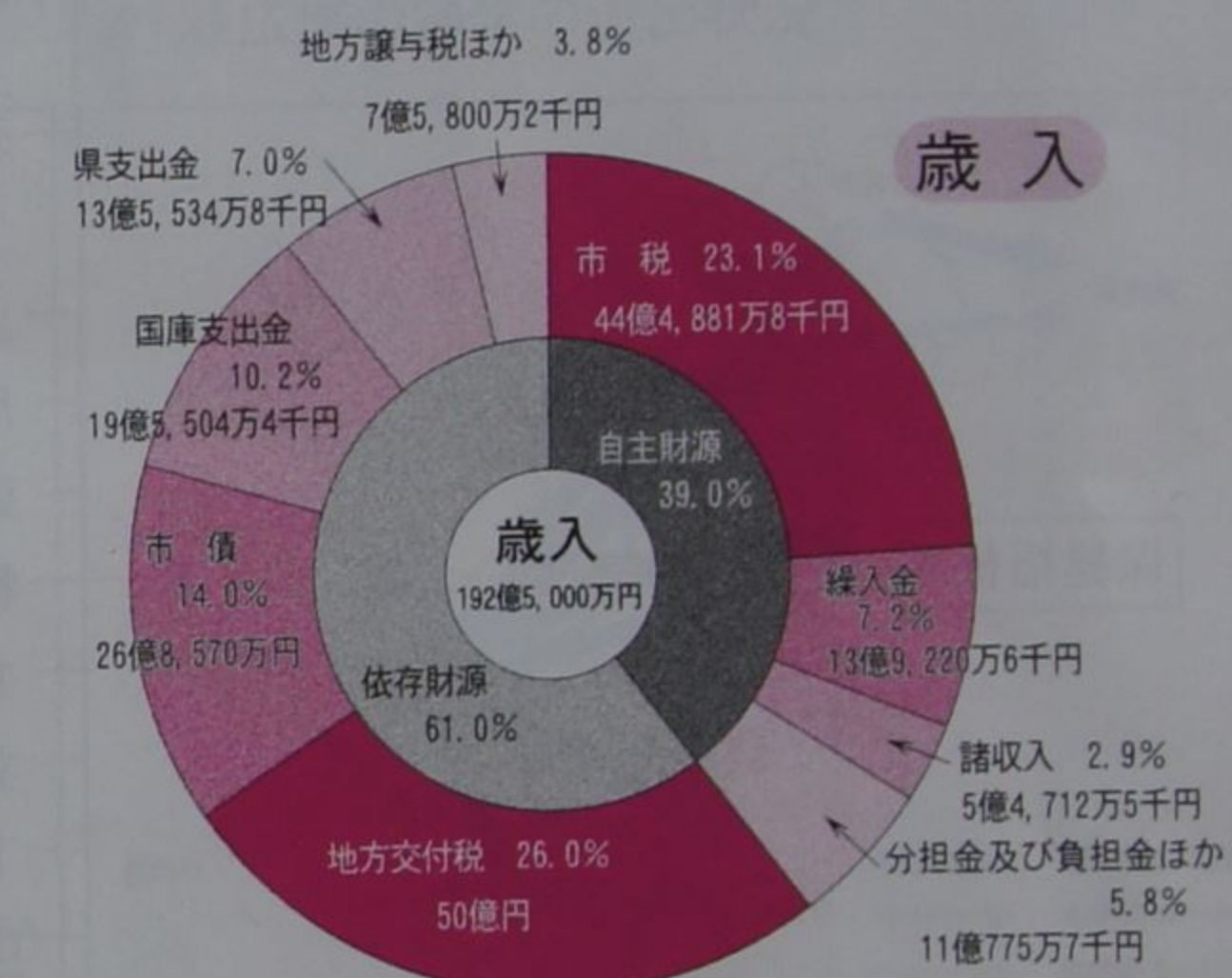
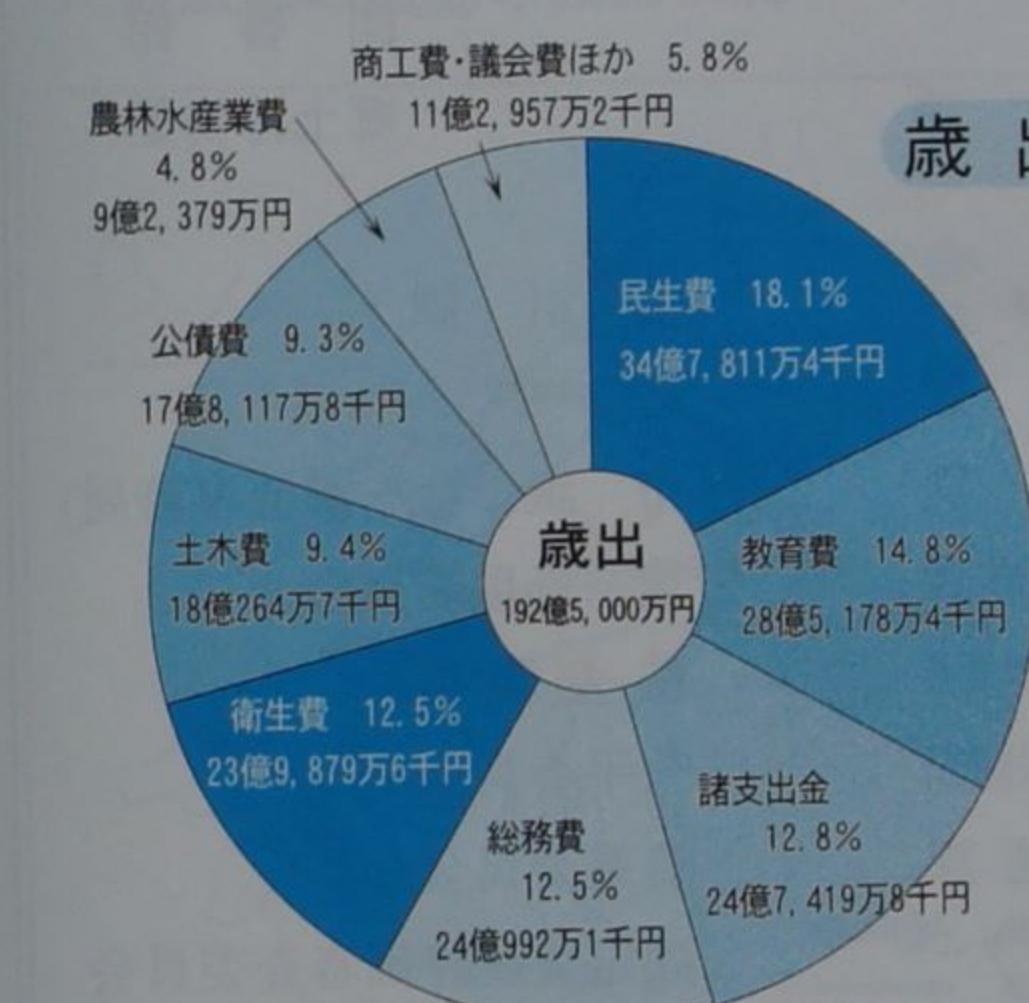
(1) 萩市の行政のはたらき

1 市長と市議会の関係図



市議会本会議のようす

2 歳入と歳出（平成15年度一般会計予算）



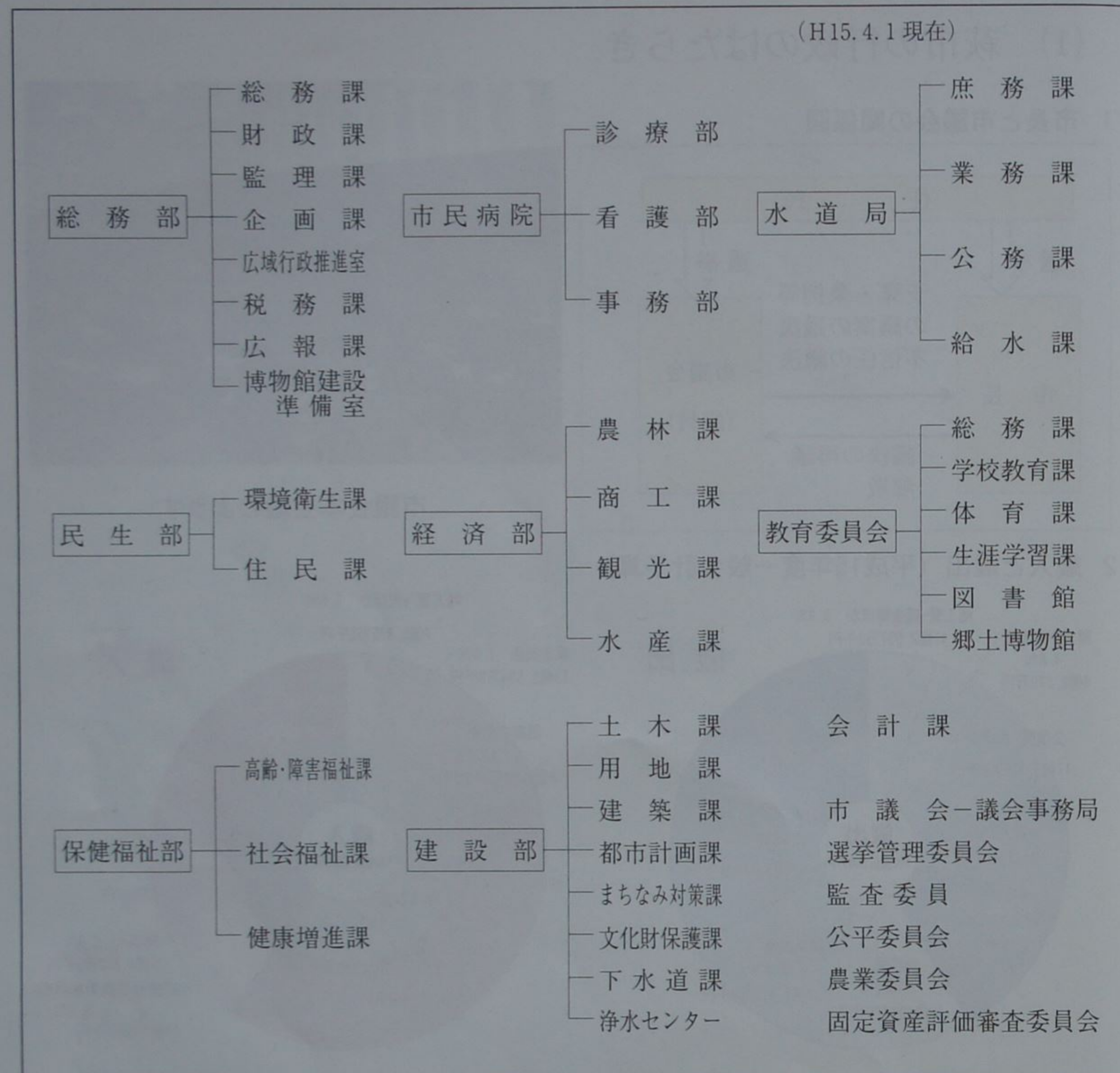
市長は、萩市の行政の最高責任者であり、執行機関の中心として活動しています。市長が行う仕事の重要なものの一つに予算の編成と執行があります。その他にも、市長は市民の要望に耳を傾けたり、市内の各種行事や催物に参加したりするなど、大変忙しい毎を送りながら、萩市の発展と市民生活の向上に日々努めています。

市議会には、定期的にかれる定例会と必要に応じて開かれる臨時会があります。市議会の仕事としては、おもに予算や条例などの議案の議決を行います。また、教育問題や福祉問題について、議員が市長や各担当責任者に対して質問をするなど、よりよい市政が行われるように努めています。議員は、日頃から市民の声をできるだけ市政に反映させようと活動しています。

市長と市議会議員は、それぞれ市民から選挙によって選ばれており、互いに市の発展のために話し合いをもちながら、みんなが住みやすい萩市のまちづくりを進めています。

行政が市民のために様々な仕事を行っていくために必要な収入を歳入、そして実際に使った支出を歳出といいます。歳入の内訳を見てみると、市民や各事業所が納めた各種の市税が23.7%を占めていることがわかります。市民が納めた大切な税金が使われているわけです。そして、国からの補助金も全体の36.2%を占めていることがわかります。また、歳出の内訳を調べていくと、萩市の行政がどの分野に力を入れて仕事を進めているかが見えてきます。

3 萩市役所のおもな組織図



市役所には様々な部や委員会があり、その下にさらに課や係が置かれていて、それぞれが専門的な仕事を担当しています。毎日、多くの市民が自分の生活や仕事のために市役所を訪れ、利用しています。

例えば、住民票の交付を申請したり、婚姻届などを提出する際には、民政部の住民課に行くと、担当職員が対応してくれます。

組織図を見ると、総務部の広域行政推進室のように、現在の萩市が力を入れている取り組みを担当する課が設置されていることもわかります。



市役所での窓口業務の様子

(2) 広域行政の取り組み

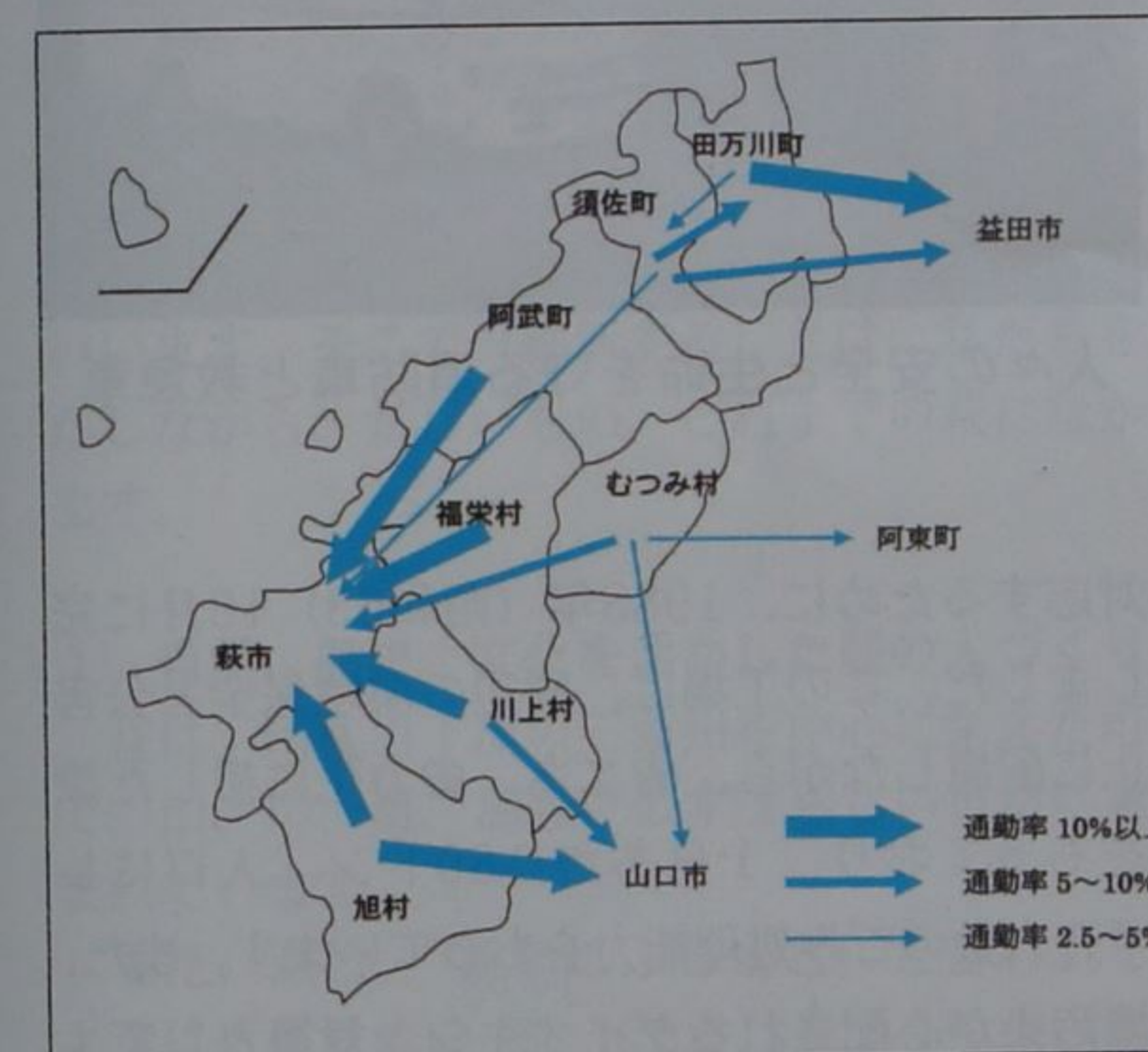
1 萩地区広域市町村圏の範囲



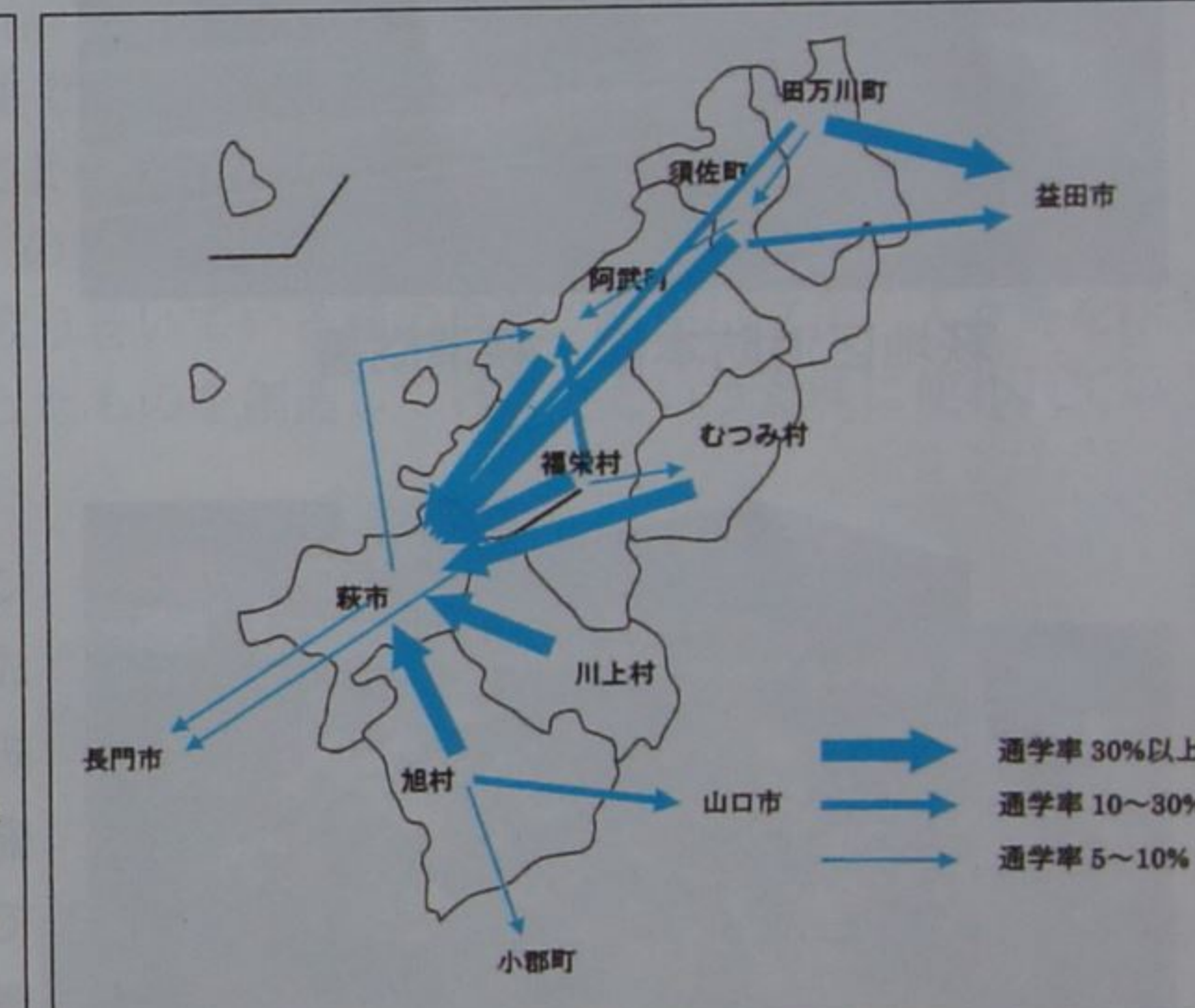
2 萩広域の人口

市町村名	人口
萩市	46,004
川上村	1,220
阿武町	4,555
田万川町	3,725
むつみ村	2,217
須佐町	3,792
旭村	2,170
福栄村	2,617
町村計	20,296
圏域合計	66,300

3 萩広域の通勤の流出状況



4 萩広域の通学の流出状況



萩地区広域市町村圏は、本州の最西端の山口県の北東部に位置し、北西は日本海に面し、東は島根県と県境を接し、西は三隅町、美東町と隣接し、南は山口市および阿東町と境を接しています。人口は66,300人、面積は約814.83 km²です。

萩広域を構成しているのは萩市、川上村、阿武町、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の1市3町4村です。これらの市町村は、高度経済成長に伴う都市化の進展と行政に対する住民の需要の増大、さらには自動車の普及に伴う社会生活圏の広がり（たとえば、通勤圏の広がりや通学圏の広がり）といった地域社会の変貌に対応するため、1969年（昭和44）9月に萩地区広域市町村圏振興整備協議会を設置し、萩地区広域市町村圏振興整備計画を定めました。

さらに1971年（昭和46）1月には、萩地区広域市町村圏組合に組織を替え、萩総合福祉センター、須佐・むつみ・阿武老人憩いの家の建設、萩清掃工場の建設、広域観光のPR、北浦ふるさとまつりの実施、圏域職員の共同研修、常備消防の広域化など、市町村の枠をこえて各種施策を進めてきました。

萩清掃工場は、1974年（昭和49）に運転を開始した旧萩清掃工場の老朽化とごみ処理量の増加



萩清掃工場



リサイクルセンター



萩地区消防本部・萩消防署



人々の安全と生命を守る消防車と救急車



北浦ふるさと祭り

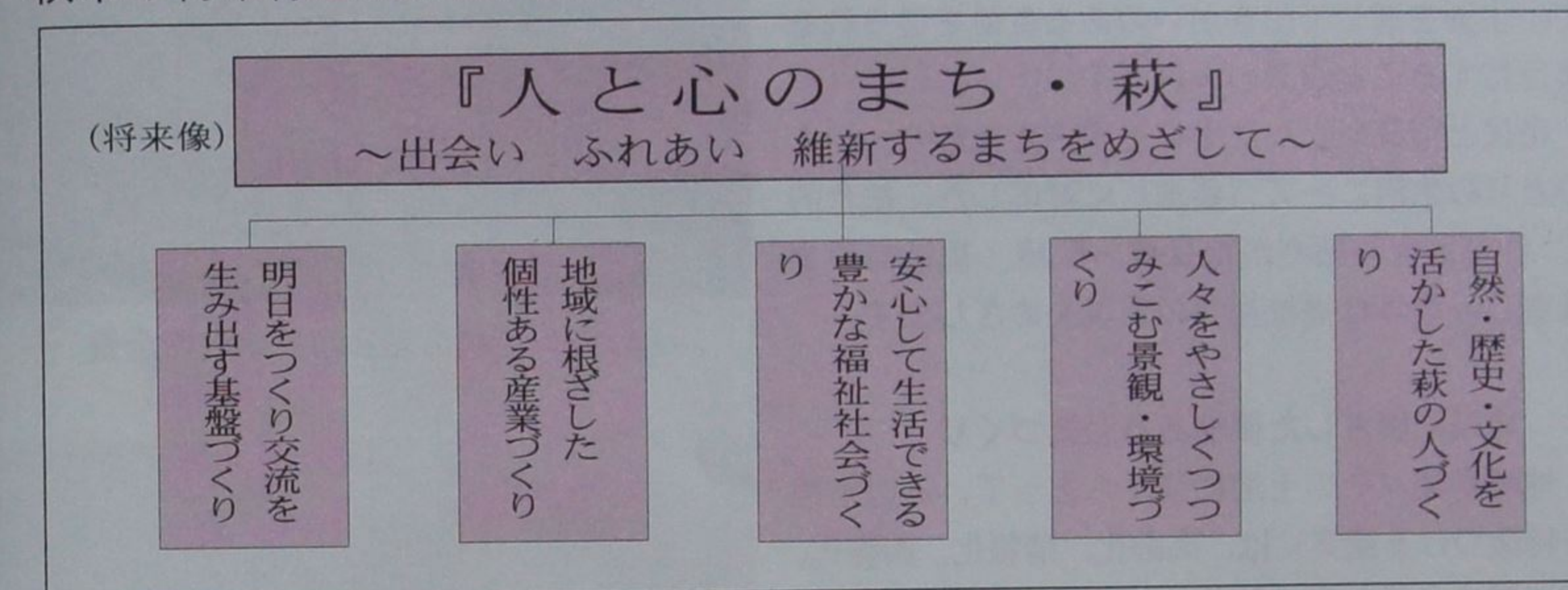
長年、地域住民の要望であった広域消防についても、2000年（平成12）4月から開始されました。これに先だって1999年（平成11）9月に萩消防署が改築され、また、2001年（平成13）4月には、須佐町に弥富出張所が、さらに2002年（平成14）4月には福栄村に紫福出張所がそれぞれ開設されました。これにより、当初の計画どおりの救急業務体制が整えられ、住民の生命と財産を守る常備消防として、24時間体制で消防、防災、救急業務に対応しています。

広域圏の活性化を図る取り組みとしては、1978年（昭和54）11月より北浦ふるさと祭りが始まり、年々その取り組みも盛大なものになっています。

現在、社会情勢の変化に対応し、将来にわたり地域の住民が安心して暮らすことができる地域社会を築いていくための有効な手段として、広域圏の「市町村合併」も考えられており、話し合いが進められています。

(3) 萩市の将来展望

萩市の将来像と具体的な取り組み



萩市では、1996年（平成8）に2005年（平成17）を目標年次とする「萩市将来展望」を定め、「人と心のまち・萩～出会い ふれあい 維新するまちをめざして～」を将来像として、さまざまな取り組みを積極的に進めています。

将来像の中にある「人」は交流する人々を、「心」は本物を追い求めることを表しています。人々が萩で出会うのは、素晴らしい自然であり、歴史であり、文化です。また、萩に住んでいる人、萩を訪れる人もそれぞれが出会い、ふれあうことによって互いに心動かされ、人生が豊かになります。

また、「維新」とは、維（これ）新（あらた）の意味で、すべてがあらたまり新しくなることをいいます。そこで「維新する」とは、私たちを取り巻いている萩の自然、歴史、文化、人々等を活かしながら、新しいもの、これまでの萩になかったものを創造していこうという意味に使われています。

1 自然、歴史、文化を活かした萩の人づくり

萩は、阿武川下流の三角州を中心に栄えた町で、山、川、海、島などのすばらしい自然に恵まれています。

また、萩は、「維新のふるさと」と言われるように近代日本の礎（いしづえ）（土台）をつくり上げた数多くの人材を育て世に送り出した土地でもあります。

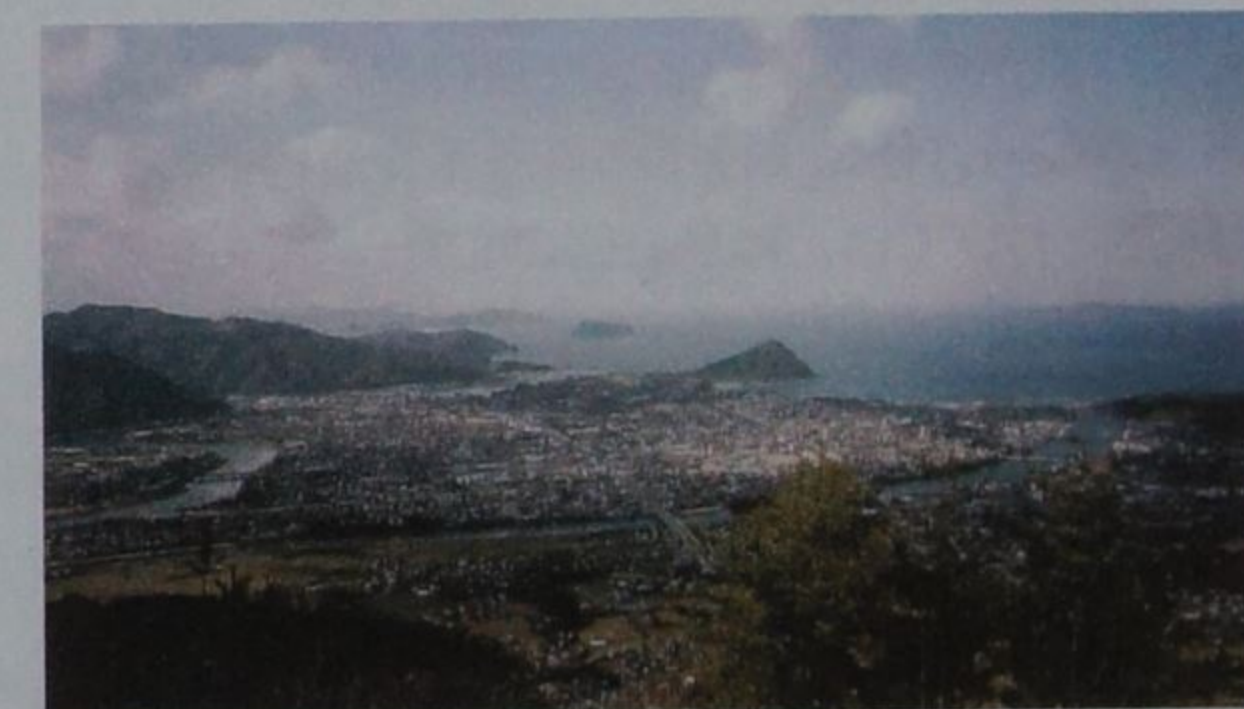
新たな時代に向けて、これまでの先人が築いてきた歴史・伝統・文化を尊重し活かしながら、豊かな心と創造性のある萩の人づくりを進めていきます。

2 人々をやさしくつみこむ景観・環境づくり

萩には、「日本の心のふるさと」と言われるのにふさわしい、昔ながらの町並みや自然の景観が残っています。

萩の町を散策すると、心がなごみ、うるおいを与え、人々を歴史と自然の空間へやさしくつみ込んでくれるかのように思えます。

このような萩の町並みや自然の景観を守り育てていきます。



田床山から見た萩の三角州



古い町並みの様子

3 安心して生活できる豊かな福祉社会づくり

これまでにない長寿社会を迎え、女性の社会進出や少子化が進む状況の中、市民の誰もが安心して、生涯を通じて生きがいのある生活を送られるようにすることが求められます。

市民と行政がともに手をたずさえながら、一人ひとりの生活ニーズ（要求）に対応した、総合的でしかもきめ細やかな保健・医療・福祉対策を推進し、豊かな福祉社会の実現をめざします。

4 地域に根ざした個性ある産業づくり

地場産業（その土地に昔からあって、その土地を特徴づける産業）は、高齢化、情報化、国際化、価値観の多様化等の時代の流れの中で大きく変わろうとしています。

このような中で、観光と連動した農林水産業の振興、萩焼を核とする窯業や食文化産業の育成など、若者や女性に魅力のある個性的な産業づくりを進めます。

5 明日をつくり交流を生みだす基盤づくり

人・もの・情報の交流が早く、大量に、スムーズに行えるような土台づくりを進めます。

そのためにも、快適で便利な生活の確保と活力のある産業の発展を促し、生活・産業・文化を支えていく土台として、高速交通時代に対応した道路網の整備、移動手段である各種交通機関の充実（離島においては、離島航路の充実）、情報化の促進を進めます。

6 萩まちじゅう博物館構想

萩には、毛利藩政期260年間に形成された城下町のたたずまいが今もたくさん残っており、「江戸時代の古地図がそのまま使えるまち」として知られています。その傍らで、近世そのままの空間が市民によって住みこなされており、優れた都市遺産であると言えます。

「萩まちじゅう博物館構想」は、この萩のまち全体を博物館としてとらえ、萩の近世都市遺産を保存、活用しようとするもので、今後の萩市のまちづくりの基本となるものです。

新博物館は、この「萩まちじゅう博物館」の中核的施設として整備され、萩市や萩地域の特質、萩にかかわる事柄などについて、さまざまな分野から総合的に調査研究を行い、データの蓄積や発信を行うなど、「萩学」のセンター的役割を担います。



市民の健康を守る市民病院の全景



観光と連動したかまぼこ工場



拡幅工事が完了した国道191号



中核となる萩博物館



藍 場 川

課題学習の取り組み方

活用にあたって

ふるさと萩は、みなさんが生まれ育った身近な地域です。しかし、実際には知っていることよりも知らないことの方がはるかに多いのではないかと思います。注意深くふるさと萩をとらえていくと、自分にとって、興味・関心が湧く事や疑問に思う事がいろいろあるはずです。それらを自分の力で納得がいくまで追究していくのが課題学習です。

ここには、地理的分野の「身近な地域の地域調査」の学習や歴史的分野の「身近な地域の歴史」の学習、選択社会において郷土萩を取り上げる学習、そして、総合的な学習の時間における「ふるさと学習」等で、課題学習に取り組む際の学び方がまとめてあります。

自分が本当に学びたいと思っている事を時間をかけてとことん調べていく姿は、まさに「学びの主人公」としての姿だと思います。課題学習に取り組むことによって、「学ぶことのおもしろさや楽しさ」、そして「手ごたえ」を大いに実感してほしいと願っています。

また、「学び方」をしっかり身につけておくと、今後、様々な学習を進めていく上で、必ず役立つと思います。知識は、時間が経つと忘れ去っていきますが、身についた学び方は、いつまでも残るからです。

課題学習の取組み方

1 課題のつくり方

(1) 課題について

課題とは、自分自身に問題の追究・解決を課したものである。課題は、自分の興味・関心・疑問をもとにつくられる。「なぜかな?」「どうなっているのかな?」「どうすればよいのだろうか?」を大切にしよう。

(2) 望ましい課題の条件

- ① 自分自身が賢くなり、他の人にも伝える価値がある。
- ② 調査などの方法や手順について、ある程度自分で予想が立つ。
- ③ いろいろな方向に発展したり、広がりや深まりが期待できる

(3) 課題の表記の仕方の例

- 「なぜ、～だろうか」・・・疑問から生まれた課題
- 「～を探る」・・・・・・興味・関心があることをさらに深く追究しようとする課題
- 「～するにはどうすればよいか」・・・問題を見つけ、その解決を考えていこうとする課題

(4) 課題づくりの段階で気をつけたいこと

- ① しぼり込まれた明確な課題（何をやりたいのかがはっきりとわかる課題）をつくる。
〈課題になっていない例〉
 - × 夏みかんについて
 - × 水産加工業について
 - * 上の二つは、課題ではなく課題の材料である。〈しぼり込まれた明確な課題の例〉
 - 夏みかん栽培の現状と今後の見通しを探る
 - 萩市の水産加工業は、どのような工夫や苦労をしながら製品をつくっているのだろうか
- ② 人との関わりをもたないと追究が難しい課題をつくると、やりがいがある。
 - * 本で調べたらわかることではなく、地域の人々に直接話を聞いて初めてわかる世界を大切にしたい。

2 課題の例 (総合的な学習の時間に取り組んだ「ふるさと学習」の例)

- なぜ、吉田松陰の教えは、学校で取り上げられるほど人々に大切に受け継がれているのか
- おいしい柑橘類をつくるには、どのような努力・工夫がいるのか
- 食べやすくて人々に好まれる夏みかんの加工品の特徴を探る
- 萩市の道の駅の一つひとつの違いを探る
- 今と昔の漁の違いから、未来の水産業を考える
- 焼の特長・魅力を学び、未来の萩焼をつくろう
- 萩焼とガラス工芸の魅力を探る
- 見島や相島の産業の違いや特徴を調べる
- 観光客を集めるために、ホテルや旅館はどのようなサービスをしているか
- 萩の町並み保存の様子と地元の人々の思いを探る
- 祭りのおこりと人々の生活との関わりを探る
- 郷土料理と人々の生活との関わりを考える
- 藍場川の昔と今の利用法から、人々の思いを探る
- 拝んでいる人々の気持ちを探る ー御利益や宗派の関係からー

3 課題の追究方法と活動計画

- (1) 興味・関心・疑問をもとに課題を設定する。
- (2) 課題設定の理由(なぜ、そのような課題を立てたのか)をはっきりさせる。
- (3) 活動計画を立てる。
 - ① 課題追究に必要な訪問調査場所を決める。
 - ② 訪問調査場所へ連絡をとる。(訪問調査が可能かどうか)
 - ③ 訪問調査の日時を決める。
 - ④ 訪問調査場所での質問事項を考える。
 - ⑤ 訪問調査をする。

話を聞く、メモをとる、実物を見る、触ってみる、臭いをかいでみる、舌で味わってみる、写真を撮る等、身体の手五感をフルに使って調査をする。
- (4) 調査結果をまとめ、学習成果を互いに発表し合う。

4 訪問調査先の例

- | | | | |
|----|--------------------|-------------------------|-------------------|
| 例1 | 萩市役所(25-3131) | 萩市郷土博物館(25-6447) | 萩市教育委員会(25-3141) |
| | 萩市立図書館(25-6355) | 萩清掃工場(22-9731) | 萩市観光協会(25-1750) |
| | 山口県萩環境保健所(25-2663) | J A 萩市(22-3737) | 山口はぎ漁協本所(25-0231) |
| | 萩商工会議所(25-3333) | J R 東萩駅(22-0271) | 松陰神社(22-4643)) |
| | 松陰記念館(22-9889) | 山口県立萩美術館・浦上記念館(24-2400) | |
| | 熊谷美術館(25-5535) | | |

例2：その他 神社・寺院、教会、J A 支所、農家、漁協支所、青果・魚市場、各商店、窯元、水産加工業者、道の駅、宿泊施設など

5 訪問調査の仕方

- (1) 自分の(または、自分たちの)課題追究に必要な訪問調査場所を決める。
- (2) 訪問日時を考えておく。
- (3) 事前に訪問調査場所に連絡して、行ってもよいかどうかの了解をとる。以下は、受け答えの例です。

* 場合によっては、担当の先生にまず連絡をとってもらい、その後かわってもら。
「〇〇中学校2年の□□と申します。ふるさと学習で△△について調べています。」
「◇◇のことについて、おうかがいしたいのですが、よろしいでしょうか。」
* 訪問の日時を指定されたら、それに従う。きちんとメモを取り、相手にも確認してもらう。
* いつでもよいと言われたときは、
「〇日の△時にうかがいますので、よろしくお願いします。」
- (4) 訪問調査の準備をする。

服装は制服。訪問調査場所によっては、学校ジャージ上下。
記録のための用具(カメラ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、テープレコーダー、メモ)を準備する。質問事項をよく練っておく。
学校・家庭への連絡と訪問調査場所・交通手段及び訪問調査時間の確認。
- (5) あいさつの例
行き「おはようございます。〇〇中学校の□□です。今日はお忙しいところ、わざわざ時間をとっていただき、ありがとうございます。よろしくお願いします。」
帰り「いろいろ教えていただき、たいへん勉強になりました。ありがとうございました。」

《訪問調査で注意すること》

- ① 常に礼儀正しくふるまい、相手に不快感を与えないようにする。身なりもきちんとすること。
- ② 予定の時刻の少し前には、現地に集合して打ち合わせのための時間をとる。
- ③ 予定の時間に遅れそうな場合は、必ず訪問先に連絡を入れること。
- ④ 訪問先の方のお話は、メモをとりながら一生懸命聞くこと。
- ⑤ 写真等を撮ってもいいのか、あるいは録音してもいいのかなど、何かするときには必ず了解をとること。
- ⑥ 仕事のじゃまにならないように気をつけること。
- ⑦ 行き帰りの交通事故には十分に気をつけること。

* 以上、訪問先の方は、貴重な仕事の時間を自分たちのためにさいてくださっているということを忘れることなく、終始誠意ある行動を心がけること。
- ⑧ 後日、訪問先に礼状を送付すると、お世話になったことへの感謝の気持ちが伝わる。訪問先によっては、事前に訪問調査に対する依頼状が必要な場合もある。



6 調査結果のまとめ方 (ポスターのまとめ方の例)

分野【夏みかん】 () 班 No.1

班員氏名

課題

夏みかん栽培の〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

課題設定の理由

なぜ、上の課題を立てたのかをまとめる。

☆ 課題追究に関わって訪問調査活動をした場所

5/13 午前 山口県柑橘試験場
午後 阿武さん(大井の夏柑農家)

分野【夏みかん】 () 班 No.3

☆ 見出しをつけ、調べてわかったことを簡条書きでまとめる。

☆ まとめ 半分から3分の1のスペースでまとめを入れること

分野【夏みかん】 () 班 No.2

☆ 見出し(タイトル)をつけ、調べてわかったことを簡条書きでまとめる。

* 見出しの表現を工夫すること

例 酸っぱさこそが魅力!!

・〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

・〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

* 写真、グラフ、図、地図、表等を効果的に使う。

* 文字だけのポスターにならないように。

* 伝えたい内容は簡潔にまとめる。くわしくは、口で説明すればよい。読ませるためのポスターではなく、発表のために使うポスターである。

* まとめは、自分たちの課題に対する自分たちの結論であり、この部分がもっとも大切。まとめがしっかりしている発表は、とても光る。

7 調査結果の発表の仕方

◇ ポスターを使つての発表

- (1) ポスターにまとめてある内容をもとに発表原稿をつくる。
- (2) 発表原稿をただ棒読みするのではなく、時々聞く人の顔を見ながら発表するとよい。
- (3) ポスターに使った資料(写真・グラフ・図・地図・表等)の説明を必ず入れる。
- (4) 指示棒でポスターを指しながら発表すると、聞く人はわかりやすい。
- (5) グループで発表する場合は、全員がそれぞれ分担を決めて発表することを原則とし、発表する人と指示棒でポスターを指す人に分けられるとよい。

◇ レポートを使つての発表

- (1) レポートにまとめてある内容をもとに発表原稿をつくる。
- (2) レポートに使った資料(写真・グラフ・図・地図・表等)の説明を必ず入れる。
- (3) 発表原稿をただ棒読みするのではなく、時々聞く人の顔を見ながら発表するとよい。

(2) 調べ学習 連絡先一覧

種別	調 査 先	電 話	住 所	ホ ー ム ペ ー ジ
役 所	萩市役所	25-3131	江向510	http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagicity/
	萩広域市町村合併協議会	22-3803	江向356-5	http://www.hagiabu.jp
	萩郵便局	22-0881	江向440-1	
	萩警察署	26-0110	土原476-1	
	萩消防署	25-2772	江向428-2	
環 境	萩市リサイクルセンター	26-3196	椿東463-1	
	萩市大井不燃物処分場	28-1308	大井1163-1	
	萩清掃工場	22-9731	椿東4730	
健 康 ・ 福 祉	萩市保健センター	26-0500	平安古209-1	
	山口県萩健康福祉センター(萩環境保健所)	25-2663	江向531-1	
	萩市社会福祉協議会	22-2289	江向356-3	
	萩市民病院	25-1200	椿3460-3	
	萩・福祉複合施設かがやき	24-4111	椿3460-2	
	楽々園	25-4700	山田4293-1	
労 働	さんみ苑	27-5000	三見3852-1	
	萩公共職業安定所(ハローワーク萩)	22-0714	平安古599-3	
	萩広域シルバー人材センター	26-0505	山田4253-1	
租 税	山口県萩税務事務所	25-3111	江向531-1	
	萩税務署	22-0900	唐樋3-7	http://www.hiroshimantago.jp/hagi/
司 法	山口地方裁判所萩支部	22-1464	江向469	
	山口家庭裁判所萩支部	22-0447	江向469	
	山口地方検察庁萩支部	22-0430	江向469	
交 通	J R 西日本東萩駅	22-0271	椿東2997-3	
	萩有料道路管理事務所	26-2221	椿1256-1	
	萩海運	25-2040	東浜崎139-1	http://www.j6.ocn.ne.jp/~hkaiun/
産 業	J A 萩市	22-3737	江向431-2	
	山口はぎ漁協	25-0231	椿東6466-5	http://www.jf-ne.jp/vghagigyokyo/
	山口食料事務所萩支所	22-0955	椿3620-1	
	山口県秋水産事務所	25-3377	江向531-1	
	山口県萩農林事務所	22-4800	江向531-1	
	山口県経済農業連萩加工場	25-2801	椿東3082-2	
	山口県たばこ耕作組合	25-1852	土原370-58	
	山口県萩柑きつ試験場	22-2474	椿東後小畑2区	
	萩青果市場	22-0392	椿3395-13	
	萩商工会議所・萩青年会議所	25-3333	江向457-2	http://www.joho-yamaguchi.or.jp/hagi-cci/
美 術 館 ・ 博 物 館	萩市観光協会	25-1750	椿3537-3	
	見島観光協会(萩市役所見島支所内)	23-3311	見島251-1	http://www.hagi.or.jp/mishima/
	萩シーマート	24-4937	椿東4160-61	http://www.axis.or.jp/seamart/
	道の駅 萩往還公園	22-9889	椿1256-1	
	山口県萩美術館・浦上記念館	24-2400	平安古586-1	http://www.hum.pref.yamaguchi.jp/
	萩市郷土博物館	25-6447	江向552-11	
	熊谷美術館	25-5535	今魚店町47	http://www3.ocn.ne.jp/~kumaya/
	萩史料館	25-2132	堀内83-33	
	石井茶碗美術館	22-1211	南古萩町33-3	
	菊屋家住宅保存会	25-8282	呉服町1-1	
教 育 施 設 等	萩陶芸美術館・吉賀大眉記念館	26-5180	椿東426-1	
	松陰神社	22-4643	椿東松本	
	萩市教育委員会	25-3141	江向510	
	山口県萩教育事務所	22-0590	江向531-1	
	萩市民体育館(萩市教育委員会体育課)	25-7311	椿3395-1	
	萩ウエルネスパーク	25-7311	椿字霧口73-7	
ホ ー ム ペ ー ジ	萩市立図書館	25-8355	江向552-2	
	山口県萩青年の家	22-4730	堀内211-1	
	萩国際大学	24-4000	椿東5000	http://www.hagi.ac.jp/
	萩観光総合情報サイト「萩・情報の駅」			http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/
	山口県			http://www.pref.yamaguchi.jp/
	ふるさと学習コンテンツ「知っちゃう!?やまぐち」			http://www.ysn21.jp/furusato/
山口県観光連盟	山口環境ホームページ			http://eco.pref.yamaguchi.jp/
	山口県観光連盟			http://www.oidemase.or.jp/
	山口県農林水産情報センター			http://www.yamaguchi.info.maff.go.jp/



虎 ケ 崎

私の研究ノート

このページからは、あなたのページです。あなた自身の追究活動に活用してください。そして、あなたならではの研究成果のまとめをしてもらえればと思います。

イー・衣箱の店

（左ページ）
（右ページ）

萩市のうた「萩のなないろ」

作詞 五嶋千夏
作曲 津室ひとみ

なつみかんのきのしたで そつとめをーとじ てごらん
まつをゆらす はまのかぜ そつとみみをすましてごらん
じょうかのさくら べにつばき そつとしきをかんにてごらん

さわやかなかおりにのって れきしのあしおとがきこえるでしょ
ゆたかなるいのちのうみが しょうもんの一わかぎはぐくんでき
きよらかなあい ばのながれ と一わのあーいまにかたりかける

う ゆめは な な い ろ
た けしき な な い ろ
よ はぎの な な い ろ

に じ の し た に は あ し た を つ む ぐ
に じ の し た に は み ら い に か け る
に じ の し た に は や さ し く む か え る

しらかべのーま ち
いしーんのーま ち
みんなのふるさ と

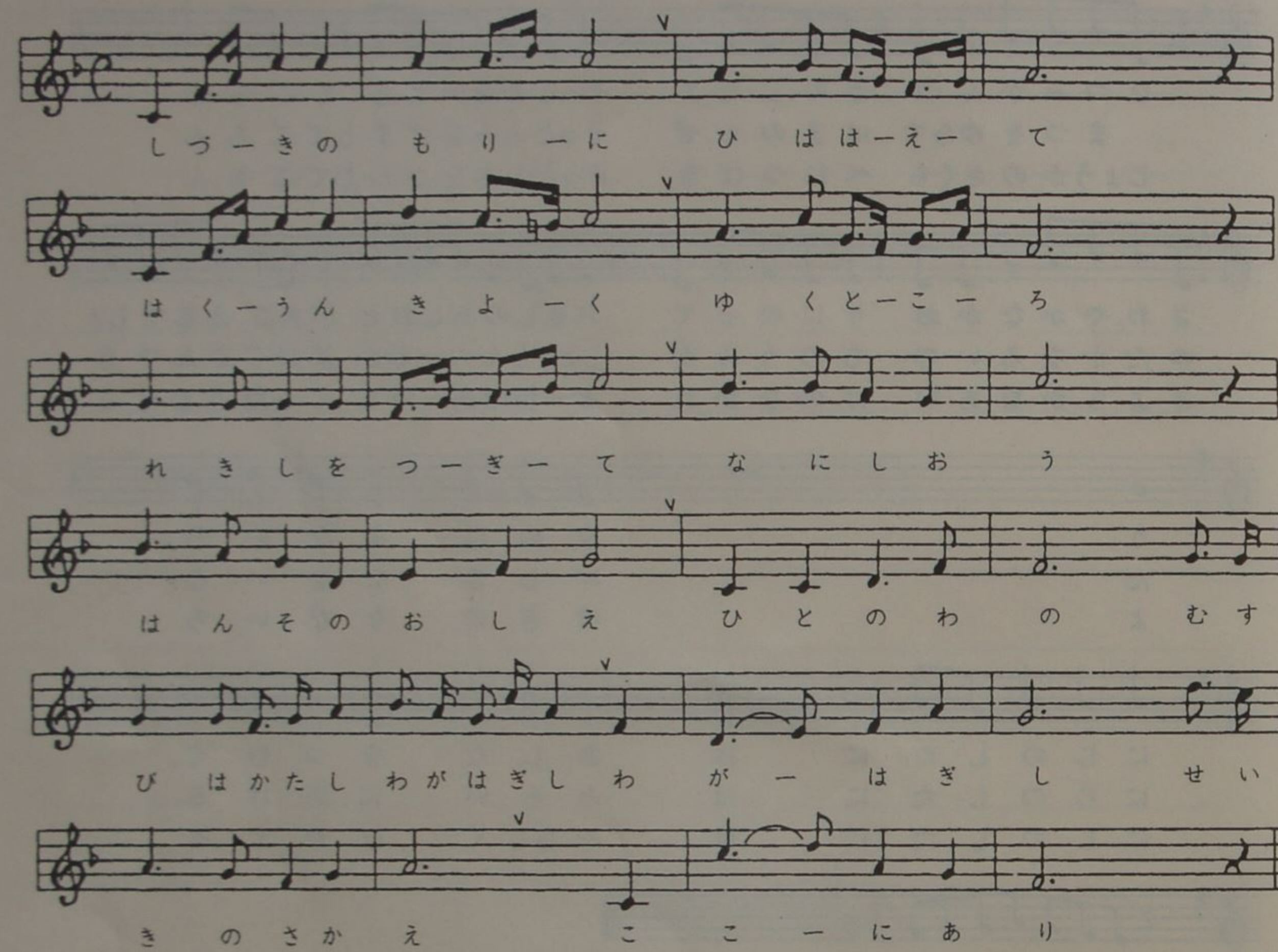
一. 夏みかんの樹の下で
そつと目を閉じてごらん
さわやかな香りにのって
歴史の足音がきこえるでしょう
夢はなないろ 虹の下には
明日をつむぐ 白壁のまち

二. 松をゆらす浜の風
そつと耳をすましてごらん
豊かなる いのちの海が
松門しょうもんの若木わかぎ はぐくんできた
景色なないろ 虹の下には
未来に架ける 維新のまち

三. 城下の桜 紅椿
そつと四季を感じてごらん
清らかな藍場の流れ
永遠とわのあいまに 語りかけるよ
萩のなないろ 虹の下には
優しく迎える みんなのふるさと

萩市民の歌

作詞 山本 鳳亮
作曲 和 真人



一、指月の森に 陽ははえて
白雲清く ゆくところ
歴史を継ぎて 名にし負う
藩祖の遺訓 人の和の
結びは固し わが萩市 わが萩市
世紀の栄光 ここに在り

二、阿武の流れの たゆみなく
みどりの風の 呼ぶところ
躍進の意気 高く鳴り
自治のいしずえ 築かんと
あふるる息吹 わが萩市 わが萩市
世紀の希望 ここに湧く

三、長門の要津 ゆるぎなく
海山の幸 寄るところ
みかんの花と 咲き匂う
文化のかおり いっぱいに
羽ばたくみやこ わが萩市 わが萩市
世紀の平和 ここに来る

中学校郷土読本『郷土萩』 監修・編集・協力委員

監 修 萩 市
萩市教育委員会
萩市郷土博物館

編集委員長	大井中学校	校 長	岡 山 龍 夫
編 集 委 員	大井中学校	教 諭	網 本 徳 文
	越ヶ浜中学校	教 諭	井 町 恵 一
	三見中学校	教 諭	山 根 貴 美 子
	萩東中学校	教 諭	柳 林 浩 一
	萩西中学校	教 諭	植 野 健 二 朗

協力委員	大島中学校	教 諭	権 代 知
	相島中学校	教 諭	古 川 幸 史
	見島中学校	教 諭	四 元 努
	木間中学校	教 諭	緒 方 利 江

挿 し 絵 萩市美術協会 会 長 吉 村 隆之助

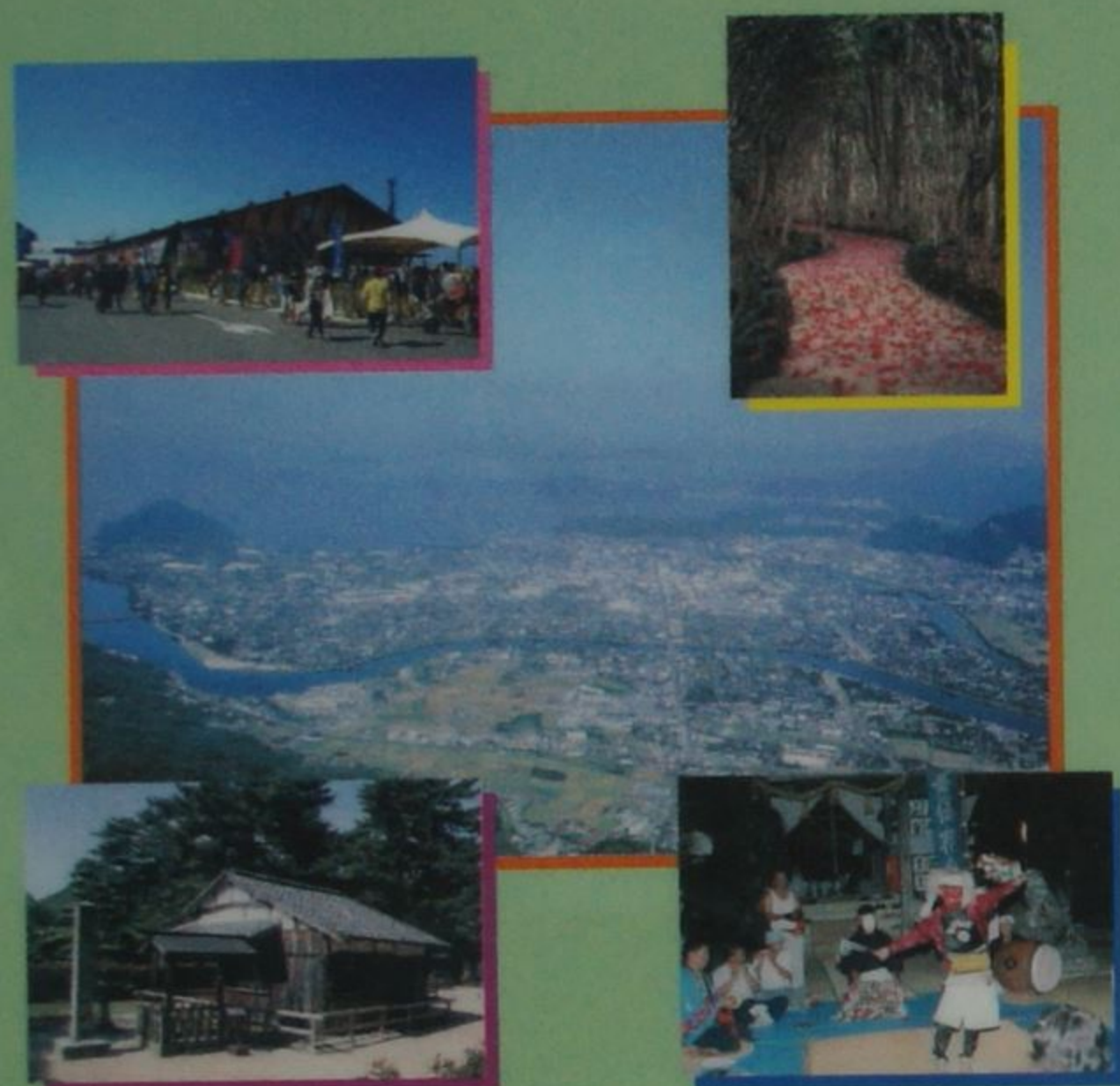
(平成15年3月31日現在)

郷 土 萩

— 中学校郷土読本 —

初 版	昭和43年9月20日	刊行
改 訂 版	昭和48年11月1日	発行
改訂第2版	昭和56年9月1日	発行
改訂第3版	昭和57年4月1日	発行
改訂第4版	昭和61年4月1日	発行
改訂第5版	平成元年4月1日	発行
改訂第6版	平成6年4月1日	発行
改訂第7版	平成11年4月1日	発行
改訂第8版	平成16年4月1日	発行

編 集 者	「郷 土 萩」 編 集 委 員 会
発 行 者	萩 市 教 育 委 員 会
印 刷 所	萩 印 刷 有 限 会 社



萩市立		中学校
1 年	組	番
2 年	組	番
3 年	組	番
氏 名		

H
N